SONY

2-186-577-**02** (2)

テレビの接続と準備

他機との接続

見る

調整する／設定する

その他

ワイヤレス 液晶カラーテレビ

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

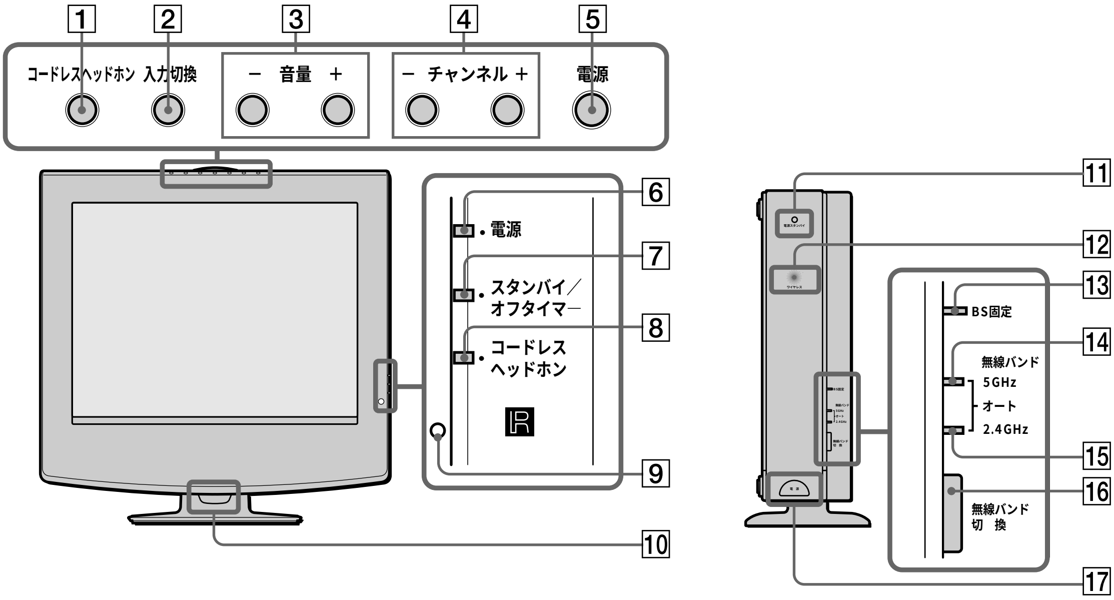
⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

WEGA

KLV-20WS2 Hi-Bit WIRELESS

本体/メディアレシーバーの各部のなまえ



1 **コードレスヘッドホンボタン（☞58ページ）**

2 **入力切換ボタン（☞55ページ）**

3 **音量＋/－ボタン（☞49ページ）**

4 **チャンネル＋/－ボタン*（☞49ページ）**

5 **電源スイッチ（☞49ページ）**

6 **電源ランプ（☞49ページ）**

7 **スタンバイ/オフタイマーランプ（☞49ページ）**

8 **コードレスヘッドホンランプ**

9 **リモコン受光部**

10 **コードレスヘッドホン用赤外線発光部（☞57ページ）**

11 **電源/スタンバイランプ（☞49ページ）**

12 **無線（ワイヤレス）ランプ（☞68ページ）**

13 **BS固定ランプ（☞65ページ）**

14 **5GHzランプ（☞73ページ）**

15 **2.4GHzランプ（☞73ページ）**

16 **無線バンド切換スイッチ（☞72ページ）**

17 **電源スイッチ（☞49ページ）**

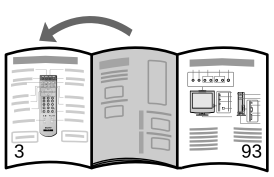
* チャンネル＋ボタンの上には、凸点（突起）が付いています。操作の目印としてお使いください。

開き出し、巻末ページの使いかた

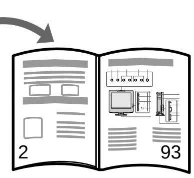
本体ボタンまたはリモコンボタンや端子のなまえと位置が一覧できるようになっています。

また、それぞれのボタン操作の内容や接続方法が詳しく説明されたページをかんたんに参照できます。各ページの☞で示すページをご覧ください。

- **開きだしを開くと、**
  リモコンボタンのなまえと位置を確認できます。



- **開きだしを折り込むと、**
  操作ボタンと接続端子が一覧できます。



開く

リモコン操作ボタン

画面表示ボタン（☞48ページ）
チャンネル表示を入/切する。

消音ボタン（☞48ページ）
音を一時的に消す。

サラウンドボタン（☞51ページ）
映画ゲームに適した音質に切り換える。

コードレスヘッドホンボタン（☞57ページ）
コードレスヘッドホンの出力モードを切り換える。

明るさ設定ボタン（☞50ページ）
映像の種類や部屋の明るさに合った映像を選ぶ。

消費電力ボタン（☞51ページ）
節電モードに切り換える。

↑/↓/←/→/決定ボタン（☞21ページ）
メニュー上で項目を選ぶときに使用する。

音量＋/－ボタン（☞49ページ）
音量を調節する。



二重音声ボタン*（☞64ページ）
二重音声放送時に、聞きたい音声を選ぶ。

電源ボタン（☞49ページ）
本体の電源を入/切する。

メモボタン（☞54ページ）
メモしたい場面で、画面を静止させる。

リプレイボタン（☞53ページ）
見逃した場面を再生する。

メニューボタン（☞21ページ）
画質/音質など各種設定をする。

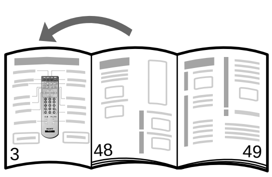
オフタイマーボタン（☞67ページ）
自動で電源を切る時間を設定する。

チャンネル数字ボタン*（☞49ページ）
チャンネルを選んだり、数字を入力するときに使用する。

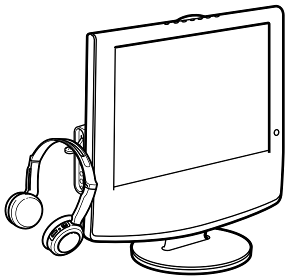
チャンネル＋/－ボタン*（☞49ページ）
順送りでチャンネルを選ぶ。

入力切換用ボタン（☞55ページ）
テレビボタン
ビデオ1/2/3ボタン
ビデオ4/5ボタン
コンポーネントボタン
各種入力を切り換える。

このページを開いたままにして、ボタンの位置などを確認しながらテレビを操作すると便利です。

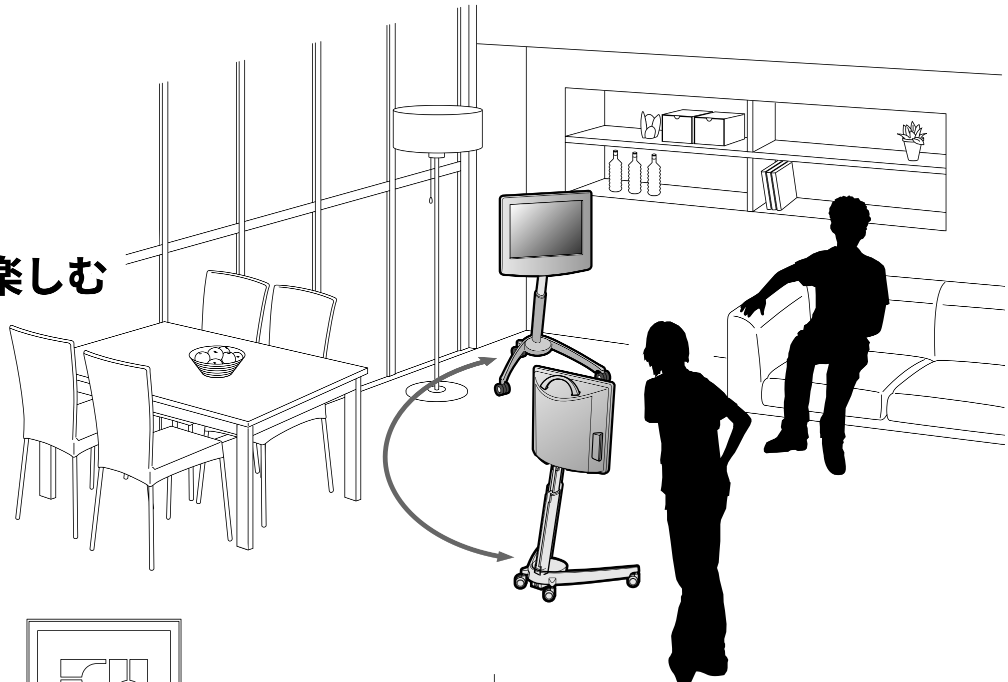


ちょっと一言
* 二重音声ボタンとチャンネル数字の「5」ボタンおよびチャンネル＋ボタンには、凸点（突起）が付いています。操作の目印として、お使いください。



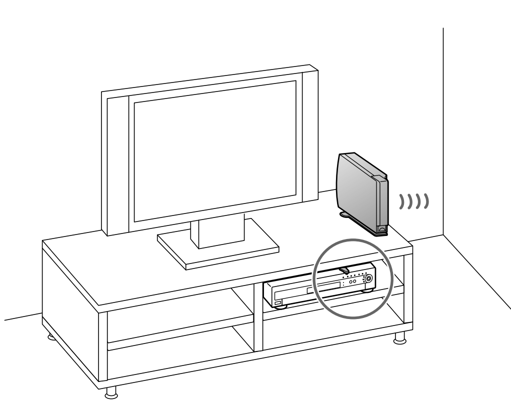
ワイヤレステレビの楽しみかた

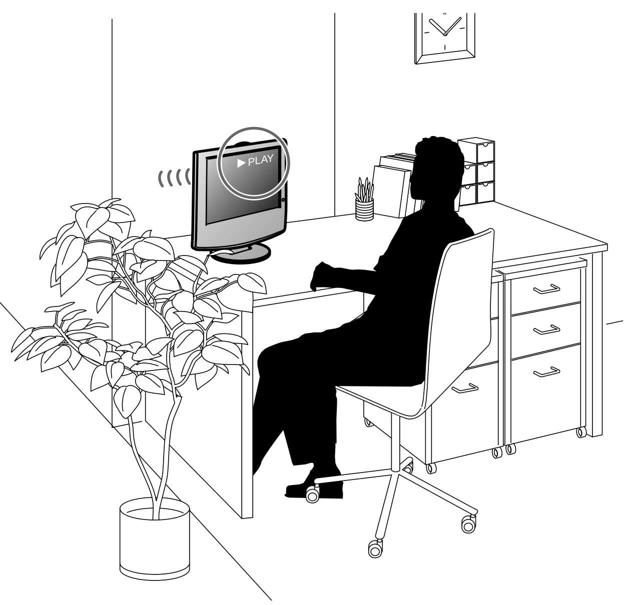
部屋の真ん中に
テレビを置いて
自分スタイルで楽しむ



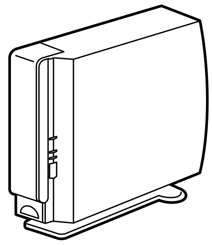


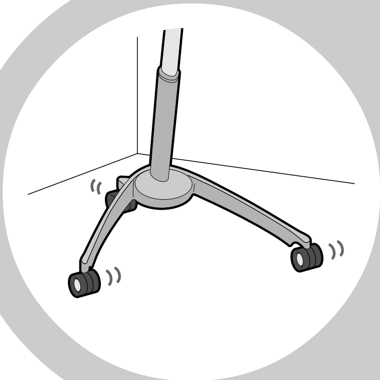
周りを気にせず
迫力のある
サウンドを楽しむ





リビングにあるDVDやビデオを
好きな時間に好きな場所で楽しむ





キャスターつきフロアスタンドを使えば、部屋の角にもスマートに設置できる。ワイヤレスだからアンテナ端子のない場所でもテレビを楽しめる。

別売りのキャスターつきフロアスタンド　SU-FS200　☞8ページ

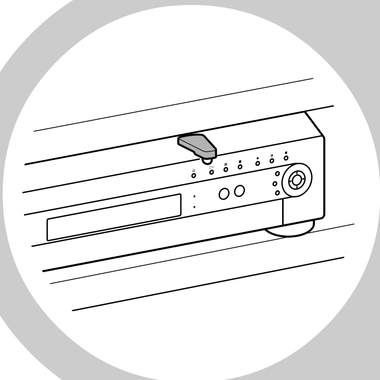
お部屋の雰囲気に合わせて壁に掛けることもできます。
別売りの液晶テレビ用壁取付金具　SU-W210　☞8ページ



ヘッドホンもコードレス。好きなときに好きな姿勢で迫力のあるサウンドを楽しめる。

付属のコードレスヘッドホン　☞57ページ

別売りのコードレスヘッドホン　MDR-IF140　☞83ページ



AVマウスを設定しておけばリビングにあるDVDプレーヤーやビデオデッキもワイヤレスでいつもどおり操作できる。

テレビの接続と準備

他機との接続

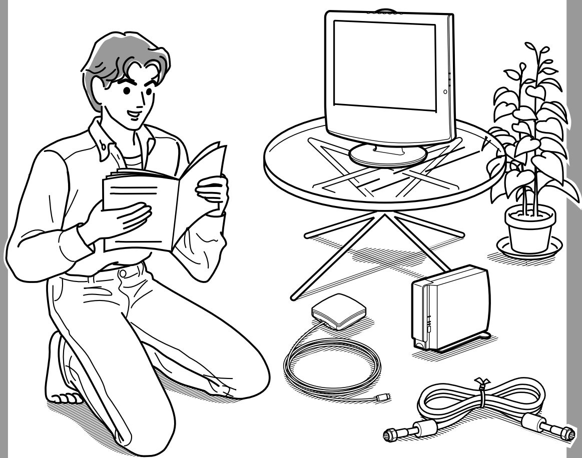
見る

調整する/設定する

その他

テレビの接続と準備

ここでは、テレビアンテナとBSアンテナのつなぎかた、およびチャンネル設定や、BS放送を見るための設定を説明しています。
手順1～7（☞13～28ページ）まで済ませれば、テレビを見ることができます。
他の機器をつないでお使いになるときは、「他機との接続」（☞33ページ）をご覧ください。

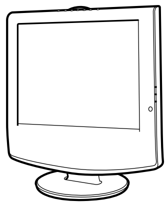


セットと付属品を確かめる

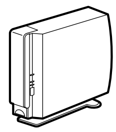
箱を開けたら、セットと付属品がそろっているかをお確かめください。

セット

ディスプレイ（本体）



メディアレシーバー



壁にかけるときは

本機を壁にかけて使用するときは、別売りの壁取付金具をご使用ください。

- 液晶テレビ用壁取付金具（別売り）
  SU-W210*

スタンドを付けるときは

本機にスタンドを付けて使用するときは、別売りのスタンドをご使用ください。

- キャスター付きスタンド（別売り）
  SU-FS200*

* 2004年8月現在の別売りアクセサリーです。

ディスプレイ（本体）を運ぶときは

- ディスプレイ（本体）を手で運ぶときは、取っ手を持ってください。
- 取っ手を持ってふり回さないでください。また、取っ手を利用して壁にかけたり、ひもで吊るすような使い方はしないでください。
- リアカバーやスタンドを持って運ばないでください。

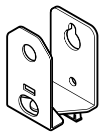
付属品

コードレスヘッドホン（1個）と単4形乾電池（1個）



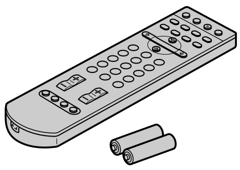
外部アンテナ（1個）、外部アンテナ壁取付金具（1個）、壁取付金具用ネジ（2本）



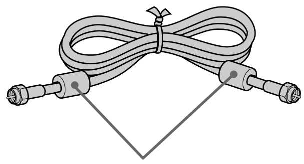




リモコン（1個）と単4形乾電池（2個）

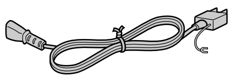


アンテナ接続ケーブル（1本）

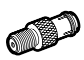


フェライトコアを取りはずさないでください。

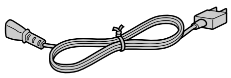
メディアレシーバー用電源コード（1本）



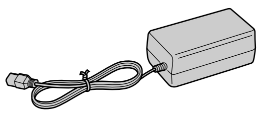
アンテナ変換アダプター（1個）



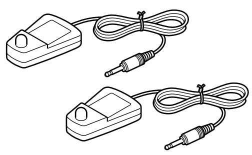
ディスプレイ用電源コード（1本）



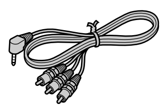
ACパワーアダプター（1個）



AVマウス（2個）
AVマウス用両面テープ（2個）



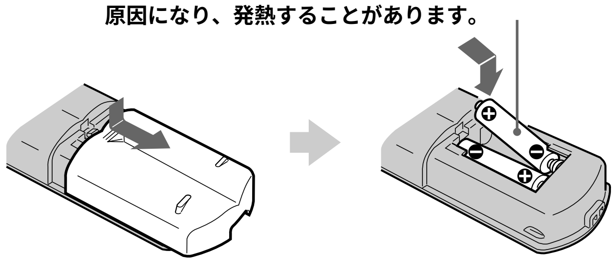
映像・音声コード（1本）



取扱説明書
安全のために/安全点検チェックリスト
ソニーご相談窓口のご案内
保証書
（各1部）

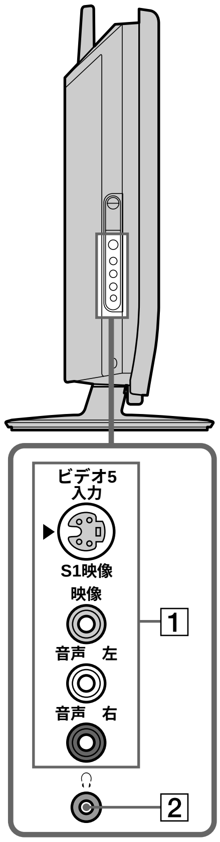
リモコンに電池を入れるには

必ずイラストのように⊖極側から電池を入れてください。無理に入れたり逆に入れたりすると、ショートの原因になり、発熱することがあります。



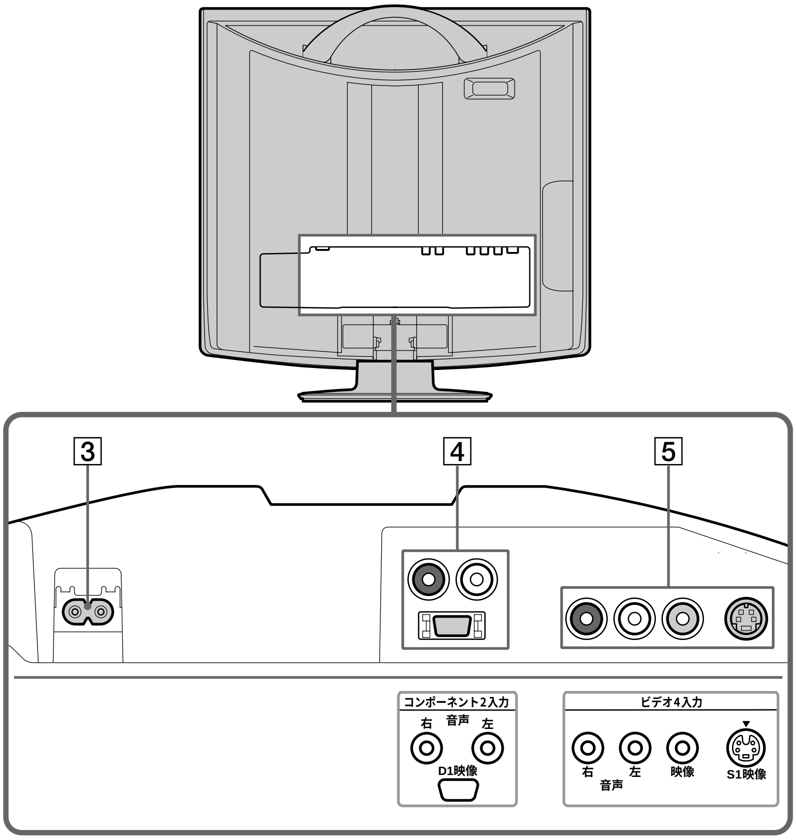
接続端子のなまえとはたらき

ディスプレイ（本体）左側面



横から見た図

ディスプレイ（本体）後面



下から見た図

☞のページに詳しい説明があります。

1 **ビデオ5入力端子**[*1]（**S1映像/映像/音声**）（**ビデオID-1システム**）（☞46**ページ**）

テレビゲームやビデオカメラレコーダーなどのビデオ機器およびデジタルCSチューナーなどのビデオ出力端子につなぎます。

2 **ヘッドホン端子**

ヘッドホンをつなぎます。

3 AC**入力**100V（☞20**ページ**）

付属の電源コードをつなぎます。

4 **コンポーネント2入力端子**[*1]（D1**映像/音声**）

D1映像入力端子

地上・BS・110度CSデジタルチューナーやDVDプレーヤーなどのD映像出力端子につなぎます。

音声入力端子

地上・BS・110度CSデジタルチューナーやDVDプレーヤーなどの音声出力端子につなぎます。

地上・BS・110度CSデジタルチューナーをつなぐときは（☞40**ページ**）

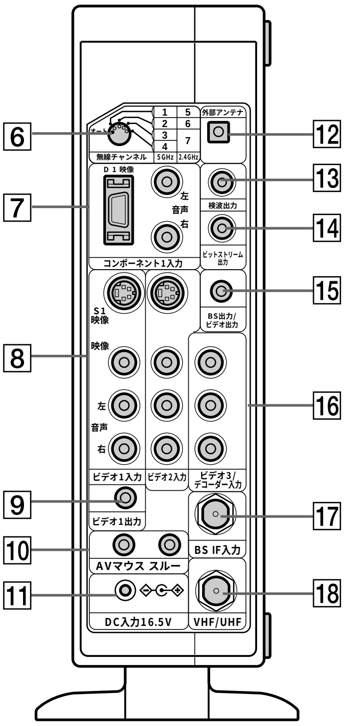
DVD**プレーヤーをつなぐときは**（☞47**ページ**）

5 **ビデオ4入力端子**[*1]（**S1映像/映像/音声**）（**ビデオID-1システム**）

ビデオデッキやDVDプレーヤーなどのビデオ機器、およびデジタルCSチューナーなどのビデオ出力端子につなぎます。

[*1] メディアレシーバーの電源が入っていなくても映像や音声を楽しむことができます。

メディアレシーバー後面



6 無線チャンネル切換スイッチ (☞70、73ページ)

7 コンポーネント1入力端子(D1映像/音声) (☞39〜41、47ページ)

D1映像入力端子

地上・BS・110度CSデジタルチューナーやDVDプレーヤーなどのD映像出力端子につなぎます。

音声入力端子

地上・BS・110度CSデジタルチューナーやDVDプレーヤーなどの音声出力端子につなぎます。

地上・BS・110度CSデジタルチューナーをつなぐときは(☞40ページ)

DVDプレーヤーをつなぐときは(☞47ページ)

D端子について

地上・BS・110度CSデジタル放送*2には次のような信号フォーマットがあります。

*2 地上・BS・110度CSデジタル放送の受信には、別途、地上・BS・110度CSデジタルチューナーが必要となります。

信号フォーマット	走査線数	有効走査線数
525i(480i)	525本	480本
525p(480p)	525本	480本
1125i(1080i)	1125本	1080本
750p(720p)	750本	720本

iはインターレース:飛び越し走査、pはプログレッシブ:順次走査の略です(☞84ページ)。
( )内は走査線数で数えたときの別称です。

デジタル放送の信号フォーマットに対応するD端子の種類は次のようになっています。

D端子の種類とその対応信号フォーマット

D端子の種類	525i	525p	1125i	750p
D1端子	○	×	×	×
D2端子	○	○	×	×
D3端子	○	○	○	×
D4端子	○	○	○	○

本機にはD1映像入力端子がついています。地上・BS・110度CSデジタルチューナーの出力設定については、地上・BS・110度CSデジタルチューナーの取扱説明書をご覧ください。

8 ビデオ1、2入力端子(S1映像/映像/音声) (ビデオID-1システム) (☞36〜38、40〜44、47ページ)

ビデオデッキやDVDプレーヤーなどのビデオ機器、およびデジタルCSチューナーなどのビデオ出力端子につなぎます。

9 ビデオ1出力端子(☞38ページ)

他のテレビなどにつなぎます。
ビデオ1入力の信号がメディアレシーバーの電源の入/切にかかわらずそのまま出力されます(ACパワーアダプターはつないだままお使いください)。
ビデオデッキをビデオ1入力につなぎ、ビデオ1出力を他のテレビなどにつなぐとビデオデッキの再生画像が、本機と他のテレビで見ることができます。

ご注意

映像と音声がずれてしまうため、スピーカーやオーディオにはつながないでください。ディスプレイ(本体)側でワイヤレス通信による映像の遅延の影響を受けるためです。

10 AVマウス スルー端子(☞36、37、47ページ)

AVマウスをつなぎます。
AVマウスでつないだ機器のリモコンをディスプレイ(本体)に向けて、つないだ機器を操作できます。

11 DC入力16.5V端子(☞20ページ)

ACパワーアダプターをつなぎます。

12 外部アンテナ端子(☞18ページ)

外部アンテナをつなぎます。

13 検波出力端子(☞43、44ページ)

BSデコーダー(WOWOW)などのFM検波入力端子につなぎます。

次のページにつづく

接続端子のなまえとはたらき（つづき）

⑭ ビットストリーム出力端子（☞43、44ページ）
BSデコーダー（WOWOW）などのビットストリーム入力端子につなぎます。

⑮ BS出力/ビデオ出力端子（映像/音声）（☞36、39、43ページ）
ビデオデッキなどのビデオ入力端子につなぎます。VHF/UHF、BS、ビデオ1～3入力*の信号を出力します。

* ただし、ビデオ1入力の信号については、「(各種切換)」メニューの「ビデオ出力設定」で「ビデオ1あり」に設定する必要があります（☞34ページ）。また、ビデオ3入力の信号のときは、ビデオ3/デコーダー入力端子をビデオ入力端子として働くように設定する必要があります（☞45ページ）。

ご注意
- BSデコーダー（WOWOW）をつないでいるときは、スクランブルを解除した信号を出力します。
- ビデオ4、5入力、コンポーネント1、2入力端子につないだ機器の映像信号は出力しません。

BS固定（☞65ページ）のときのご注意
以下の信号を出力します。
- **BS固定が「切」のとき：**
テレビに映っている映像と音声を出力します。
- **BS固定が「入」のとき：**
テレビに映っている映像と音声には関係なく、BS固定したBSチャンネルの映像と音声を出力します。

⑯ ビデオ3/デコーダー入力端子（映像/音声）（ビデオID-1システム）（☞43、44ページ）
以下の設定により、端子の働きが異なります。設定のしかたについては、☞34ページをご覧ください。

「デコーダー」に設定したとき（☞45ページ）
BSデコーダー入力端子として働きます。
BSデコーダー（WOWOW）の映像/音声出力端子につなぎます。

「ビデオ3」に設定したとき（☞34ページ）
ビデオ3入力端子として働きます。
ビデオデッキやDVDプレーヤーなどのビデオ機器、およびデジタルCSチューナーなどのビデオ出力端子につなぎます。

⑰ BS IF入力端子（☞36、37、39～41、43、44ページ）
BSアンテナからの同軸ケーブルをつなぎます。BSアンテナ用の電源を供給するため、DC15Vの直流電圧が出ています。VHF/UHF用のアンテナ接続ケーブルは絶対につながないでください。

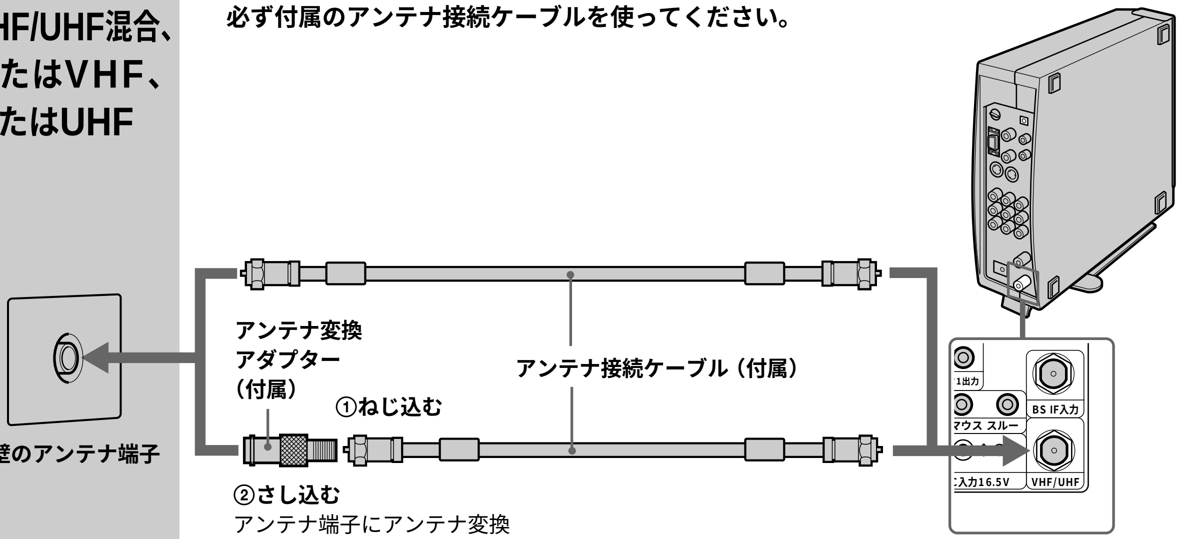
⑱ VHF/UHFアンテナ端子（☞36、37、39～44ページ）
VHF/UHF用のアンテナ接続ケーブルやケーブルテレビのケーブルをつなぎます。

手順1：地上波アンテナをつなぐ

地上波アンテナのつなぎかたは、壁のアンテナ端子の形や、使うケーブルによって異なります。下の例から最も近いものを選んでつないでください。
いずれにも当てはまらない場合は、お買い上げ店などにご相談ください。

VHF/UHF混合、またはVHF、またはUHF

必ず付属のアンテナ接続ケーブルを使ってください。

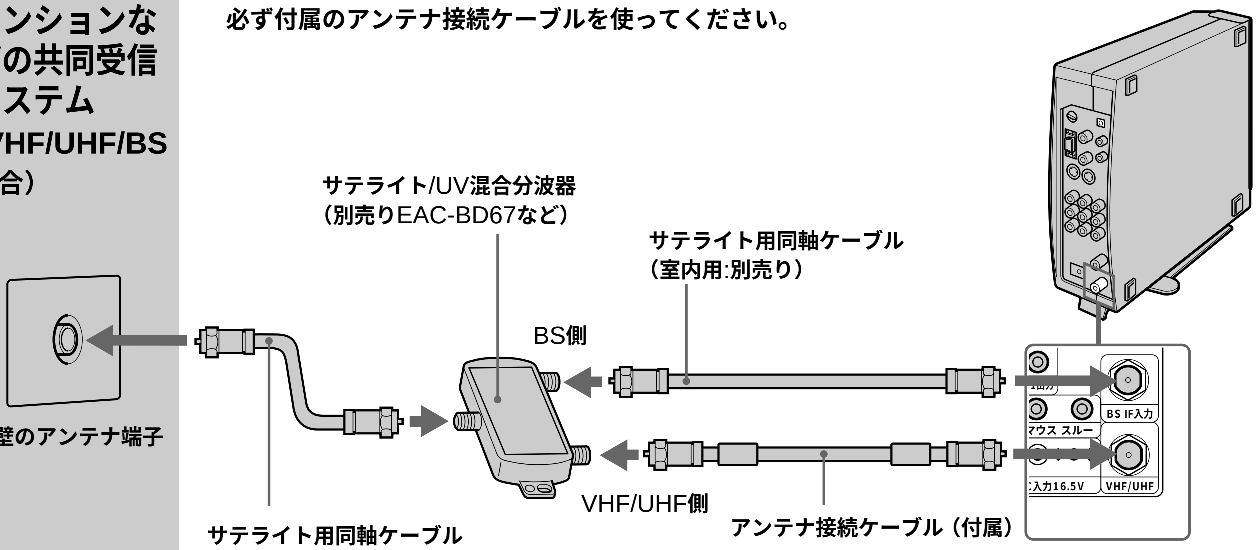


②さし込む
アンテナ端子にアンテナ変換アダプターをしっかりさし込んでください。

ご注意
アンテナ端子の汚れやゆるみは接触不良の原因となります。

マンションなどの共同受信システム（VHF/UHF/BS混合）

必ず付属のアンテナ接続ケーブルを使ってください。



ご注意
アンテナ端子の汚れやゆるみは接触不良の原因となります。

次のページにつづく

手順1：
地上波アンテナをつなぐ（つづき）

デジタルCS放送*を含めた共同受信システムのときは

お住まいのマンションの共同受信システムによって、壁のアンテナ端子への接続のしかたが異なります。マンション管理会社（または管理人や管理組合など）に、共同受信システム方式を確認し、その指示に従って、接続および受信方法の設定を行ってください。

* スカイパーフェクTV！のことです。110度CSデジタル放送ではありません。

きれいな画像をお楽しみいただくために

このテレビには、多くのデジタル回路による新テクノロジーが搭載されています。このため、安定した画像をお楽しみいただくためにはアンテナの接続状態がとても重要です。下記のようにアンテナの接続と設置を確実に行い、妨害電波を受けにくい安定した受信状態を確保してください。

- **メディアレシーバー後面のVHF/UHF端子への接続は、必ず付属のアンテナ接続ケーブルを使ってください。**
- **アンテナ線は他の電源コードや接続ケーブルからできるだけ離してください。**
- **室内アンテナ、フィーダー線は特に電波妨害を受けやすいため、使わないでください。**

ご注意

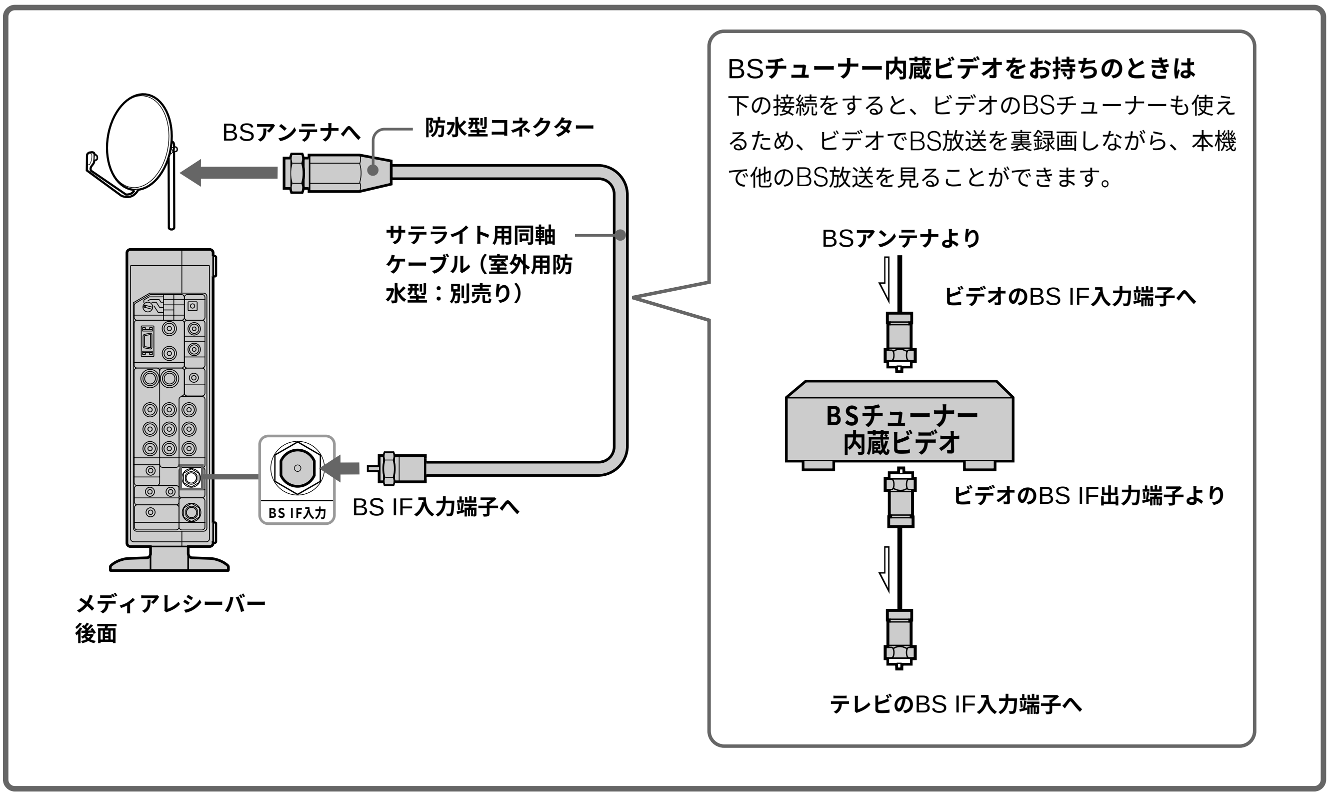
- フィーダー線は同軸ケーブルよりも雑音電波などの影響を受けやすいため、信号が劣化します。万が一、フィーダー線をご使用になる場合は、テレビからできるだけ離してください。
- **BS IF入力端子には、必ずサテライト用同軸ケーブル（室内用：別売り）をつないでください。** BS IF入力端子からはBSアンテナ用の電源（DC 15V）が供給されているため、サテライト用同軸ケーブル以外のケーブルをつなぐと、ショートして火災などの原因となります。
- サテライト分配器を使って複数のBS機器をつなぐときは、どの端子からも電源を供給するタイプ（別売りEAC-BC2またはEAC-BC4など）を必ずお使いください。特定の端子からのみBSアンテナ電源を供給するサテライト分配器を使うと、BSチューナー内蔵ビデオでも、テレビの電源を入れないと衛星放送を録画できないなどの不都合が生じます。

ちょっと一言

マンションなどの共同受信システムで、BS放送のアンテナレベルが低いときは、サテライトブースターをつなぐなど、信号の流れを見直す必要があります。マンション管理会社（または管理人や管理組合など）に確認してください。

手順2：BSアンテナをつなぐ

BSアンテナをメディアレシーバーに直接つなぎます。BSアンテナの設置には技術が必要なため、お買い上げ店などに依頼することをおすすめします。マンションなどの共同受信システムなどVHF/UHF/BS混合のときは、☞13ページをご覧ください。
メディアレシーバーの電源コードは、すべての接続が終わってからつないでください。
WOWOWをご利用になるときは、「BSデコーダー（WOWOW）をつなぐ」（☞43ページ）もあわせてご覧ください。



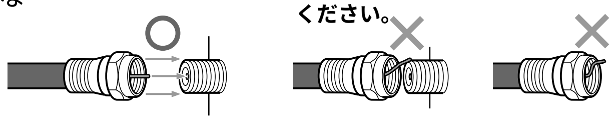
BS放送が正しく受信できないときや、「BSアンテナ電源を確認してください」という表示が出たら

「（BS設定）」メニューで「BSアンテナ電源」を「切」にします。
「BSアンテナ電源を確認してください」という表示が出たときは「（BS設定）」メニューの「BSアンテナ電源」は自動的に「切」になります。

1 いったんメディアレシーバーの電源を切る。

2 以下のことを確認する。

- サテライト用同軸ケーブルの芯線が、BS IF端子やケーブルのまわりの金属部分に触れていないか確認してください。



- サテライト用同軸ケーブルをアンテナコネクターでつないでいるときは、アンテナコネクターの芯線が、BS IF端子やコネクターのまわりの金属部分に触れていないか確認してください。
それでも表示が消えないときは、アンテナコネクターのふたを開けて、内部を確認してください。

3 再び電源を入れたあと、「（BS設定）」メニューで「BSアンテナ電源」を設定する（☞27ページ）。
- BSアンテナを本機につないでいるときは、「オート」または「連動」にする。
- マンションなどの共同受信システムのときは、「切」にする。

次のページにつづく

手順2：
BSアンテナをつなぐ（つづき）

ご注意

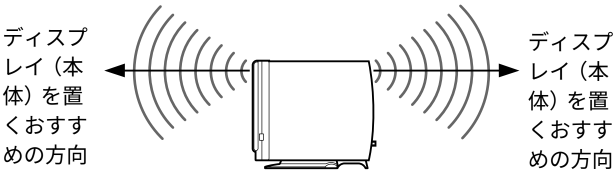
- **BS IF入力端子には、必ずサテライト用同軸ケーブルをつないでください。** BS IF入力端子からはBSアンテナ用の電源（DC 15V）が供給されているため、サテライト用同軸ケーブル以外のケーブルをつなぐと、ショートして火災などの原因となります。
  推奨ケーブル
  – 室外用防水型：SAK-C10/C20/C30（別売り）など
- 次のようなときはBSを受信できなかったり、受信状態が悪かったりしますが、故障ではありません。
  – お住まいの地域またはBSを送信する放送衛星会社の地域が雷雨、強風などの悪天候のとき
  – BSアンテナに雪が付着しているとき
  – 強風などでアンテナの向きが変わったとき（BSアンテナの向きを調整してください。☞27ページ）
- サテライト分配器を使って複数のBS機器をつなぐときは、どの端子からも電源を供給するタイプ（別売りEAC-BC2またはEAC-BC4など）を必ずお使いください。
  特定の端子からのみBSアンテナ電源を供給するサテライト分配器を使うと、BSチューナー内蔵ビデオでも、本機の電源を入れないと衛星放送を録画できないなどの不都合が生じます。
- BSアンテナをつなぐときは、工具を使わずに手でしっかりと締めてください。工具を使うと、端子を傷めることがあります。

手順3：メディアレシーバーを設置する

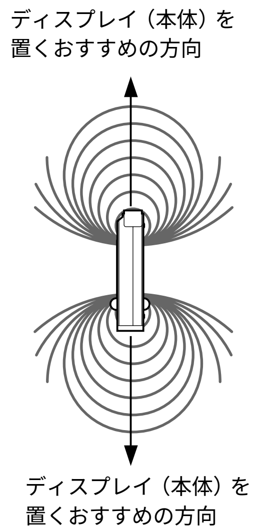
メディアレシーバー前面と後面部からはメディアレシーバー内蔵アンテナによってワイヤレス信号を送受信しています。メディアレシーバーとディスプレイ（本体）の設置場所によっては、接続状態が安定しなかったり、画像の乱れの原因になることがあります。よりよい接続状態を保つためには、できるだけ見通しのよい場所にメディアレシーバーを設置してください（☞71ページ）。

メディアレシーバー内蔵アンテナによるワイヤレス通信のイメージ

メディアレシーバー側面



メディアレシーバー上面



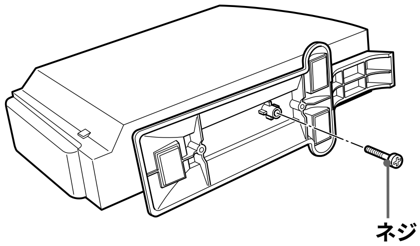
ご注意

- メディアレシーバー側面中央付近の延長上は通信レベルが低くなるところがあります。
- メディアレシーバーの近くから金属製のものや水の入った水槽、金属粉を蒸着させたCD、DVDソフトを離してください。
- メディアレシーバーは他の機器との間に充分な空間をとって設置してください。

横置きにするときは

メディアレシーバーは、設置場所に合わせて横置きにすることもできます。
横置きにするときはスタンドをはずしてください。スタンドをはずすときは、ドライバーを使って底面のネジをはずします。

メディアレシーバースタンド底面

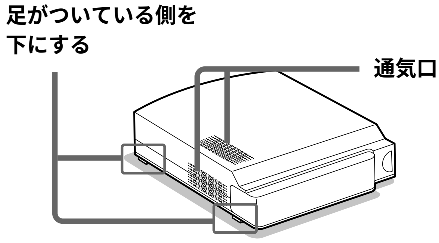


ご注意

- 付属のネジ以外は使わないでください。また、ネジやスタンドをはずしたときは、なくさないように保管してください。
- 縦置きに戻すときは必ずスタンドを取り付けてください。

スタンドをはずしたら、横置きにするための足がついている側を下にし、通気口の位置を確認して、正しい向きで設置します。

正しい設置のしかた

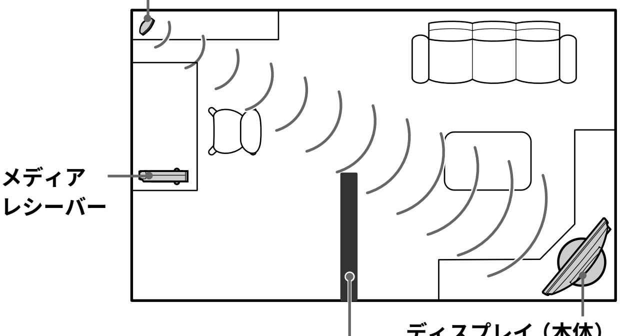


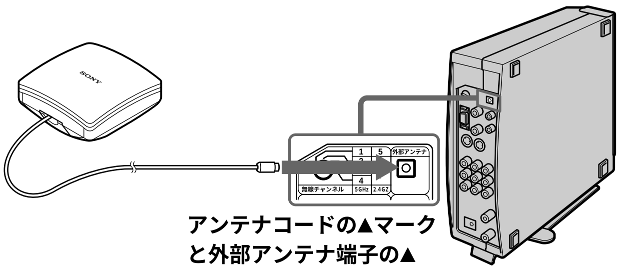
ご注意

- メディアレシーバーを他の機器に積み重ねたり、他の機器をメディアレシーバーの上に載せたりしないでください。
- 通気口を塞がないように設置してください。
- メディアレシーバーが傾かないようにケーブルの位置に注意して設置してください。

手順4：外部アンテナを設置する

メディアレシーバーとディスプレイ（本体）を離れたところに置くときや、障害物を隔てて置くときは、外部アンテナを使って方向性を定めたり、障害物を避けることにより、通信レベルをあげることができます。ディスプレイ（本体）を置きたい位置に向けて外部アンテナを設置してください。また、外部アンテナを設置するときはディスプレイ（本体）に向けた状態で電源を入れてください。





ちょっと一言

外部アンテナはできるだけ見通しのよい、高い場所に設置するとよりよい接続状態を確保できます。

ご注意

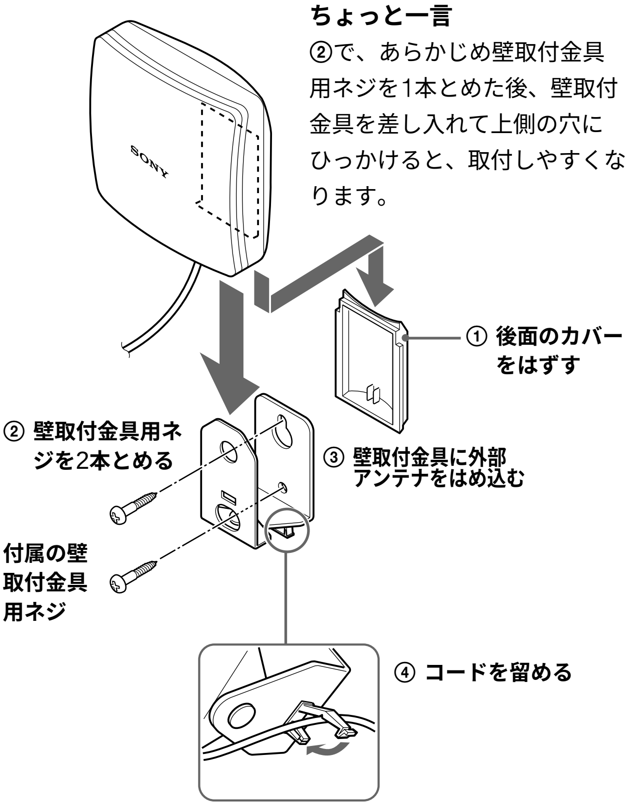
- 外部アンテナをつなぐときは、メディアレシーバーの電源を切ってください。
- 外部アンテナの周囲には、金属製のもの、金属粉の蒸着したCD、DVDソフトや水の入った水槽などを置かないでください。
- 外部アンテナを他の機器の上やすぐそばに設置しないでください。

壁取付金具を使うときは

外部アンテナを壁にかけて使用するときは、付属の壁取付金具をしっかり取り付けてください。

ちょっと一言

②で、あらかじめ壁取付金具用ネジを1本とめた後、壁取付金具を差し入れて上側の穴にひっかけると、取付しやすくなります。



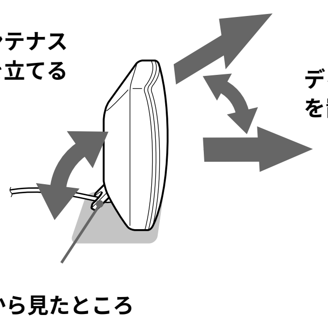
ご注意

木の柱、壁には付属の壁取付金具用ネジを使ってください。石膏ボードやコンクリートなどの壁には付属の壁取付金具用ネジが使えないため、市販のネジなどを使って取り付けてください。

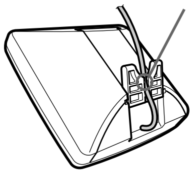
外部アンテナを直接置いて使うときは

外部アンテナスタンドを使って角度を調整してください。外部アンテナスタンドを立てる角度は3段階変えられます。

横から見たところ



底から見たところ

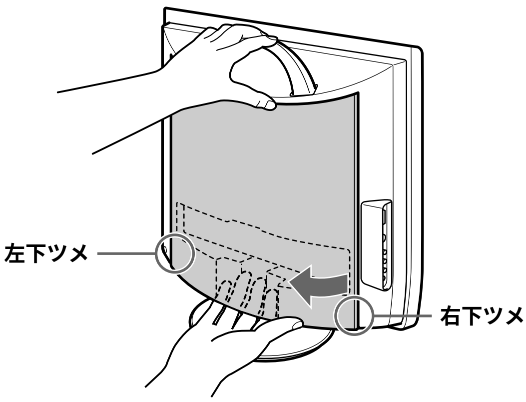


手順5：電源コードをつなぐ

必ず付属のACパワーアダプターと電源コードをご使用ください。
電源コードやディスプレイ（本体）後面の端子にDVDプレーヤーなどの機器を接続するときは、ディスプレイ（本体）後面のカバーをはずしてください（接続が終わったら、カバーを取り付けてください）。

カバーのはずしかた

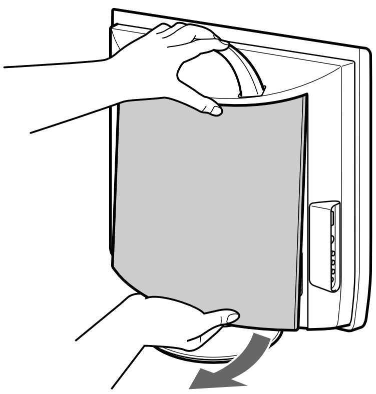
① スタンドをしっかりと抑えながら、後面のカバー右下を図のようにつかみ、後ろへ引っ張り、右下のツメをはずす。同じように、左下もはずす。



ちょっと一言

カバーの下部の左右にはツメがあるため、中央よりやや左右をつかんで片側ずつ引っ張ると、はずれやすくなります。

② 図のように少し持ち上げながらはずす。

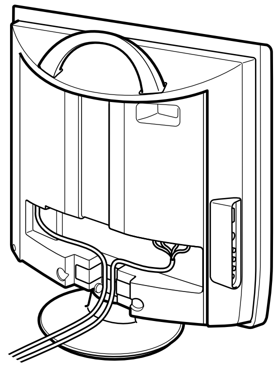


ご注意

カバーをはずすときにカバーのツメがはずれる音が鳴ることがあります。

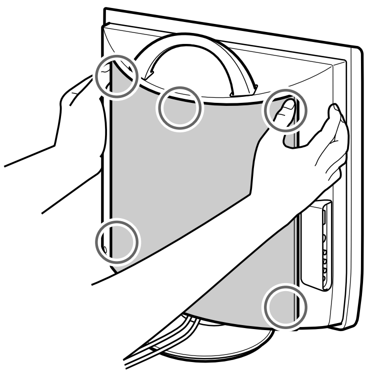
コードをつなぐ

コードを接続したら図のようにコードを中央くぼみにはわせる。



カバーの取り付けかた

後面のカバーを本体の左右の溝にあわせ、カバーの5か所の突起をしっかり押し込む。

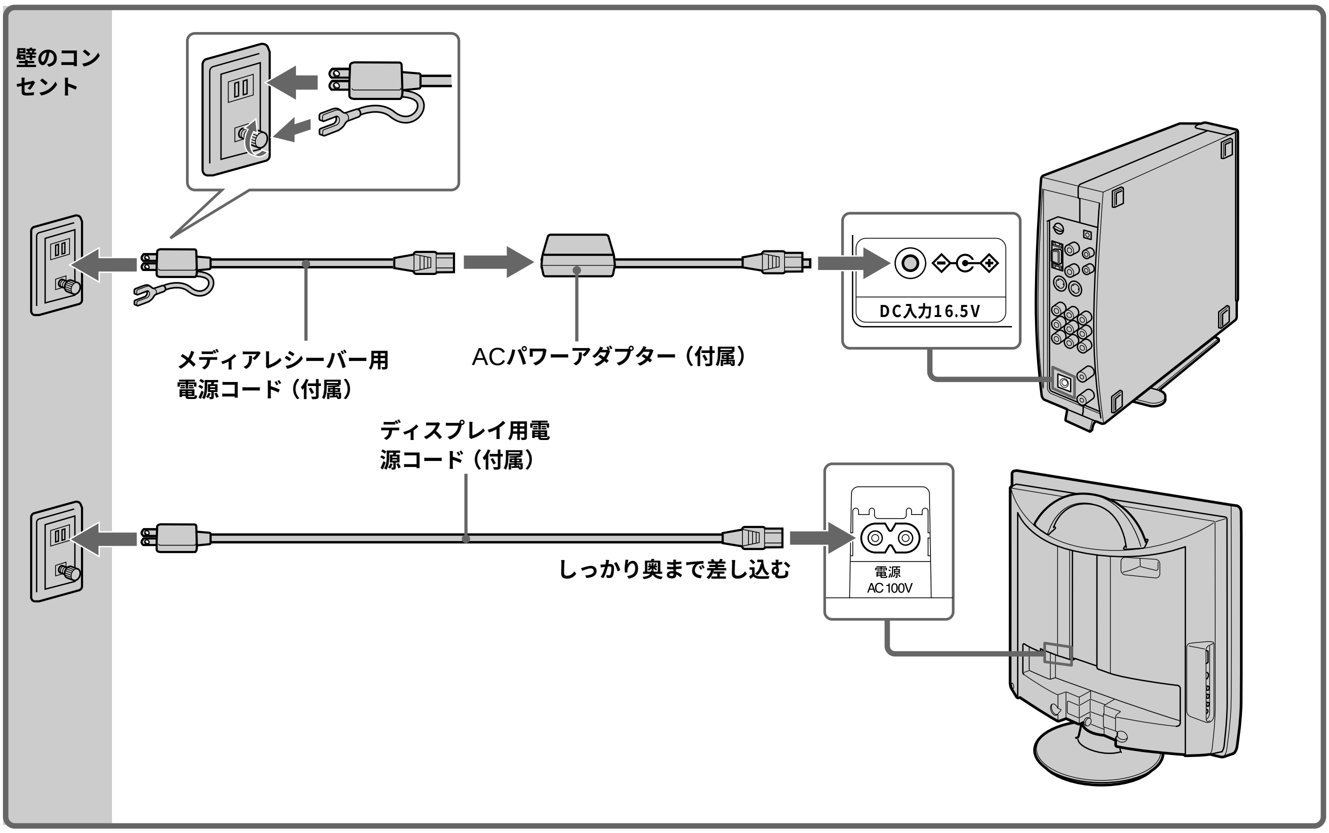


ご注意

- カバーを取り付けるときは、電源コードなどが中央くぼみを通っていることを確認して、コード類をカバーで挟まないようにご注意ください。
- 後面のカバーははずれやすいので、ディスプレイ（本体）を持ち運ぶときはカバーのみを持たないでください。

次のページにつづく

手順5：
電源コードをつなぐ（つづき）

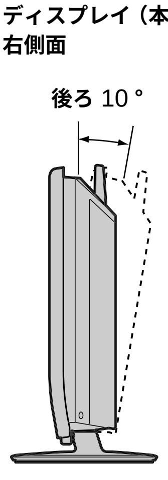


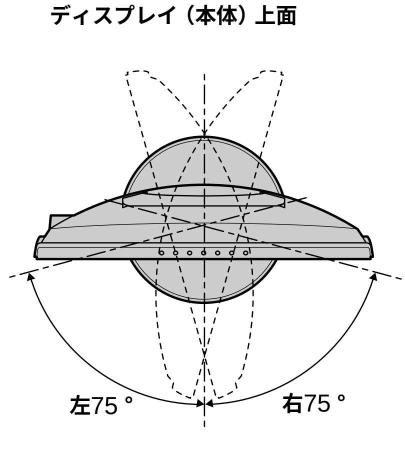
ご注意

- アース端子からはずした絶縁キャップを、幼児が誤って飲み込まないように注意してください。
- 必ず付属の電源コードをご使用ください。
- 壁のコンセントが２芯専用の場合、必ずアース工事を行ってから、電源コードを接続してください。感電の原因となりますので、アース工事は必ず専門業者にご依頼ください。
- 安全のために、コンセントに電源コードを差し込む前にアース線をアースへ接続してください。
- 電源コードをコンセントから抜くときは、アース線を最後にはずしてください。
- ビデオなどの機器をつなぐときは、すべての接続が終わってから、電源コードをコンセントにつないでください。

見やすい角度に調整する

ディスプレイ（本体）の角度を前後左右に調整できます。





手順6：チャンネルを設定する

VHF/UHF放送は、自動でも手動でも受信設定できます。はじめに自動設定することをおすすめします。

受信できるVHF/UHF放送を、①～⑫/選局のチャンネル数字ボタンに自動的に設定する場合

自動設定する ➡ 21ページ

ケーブルテレビを見るには☞23**ページ**

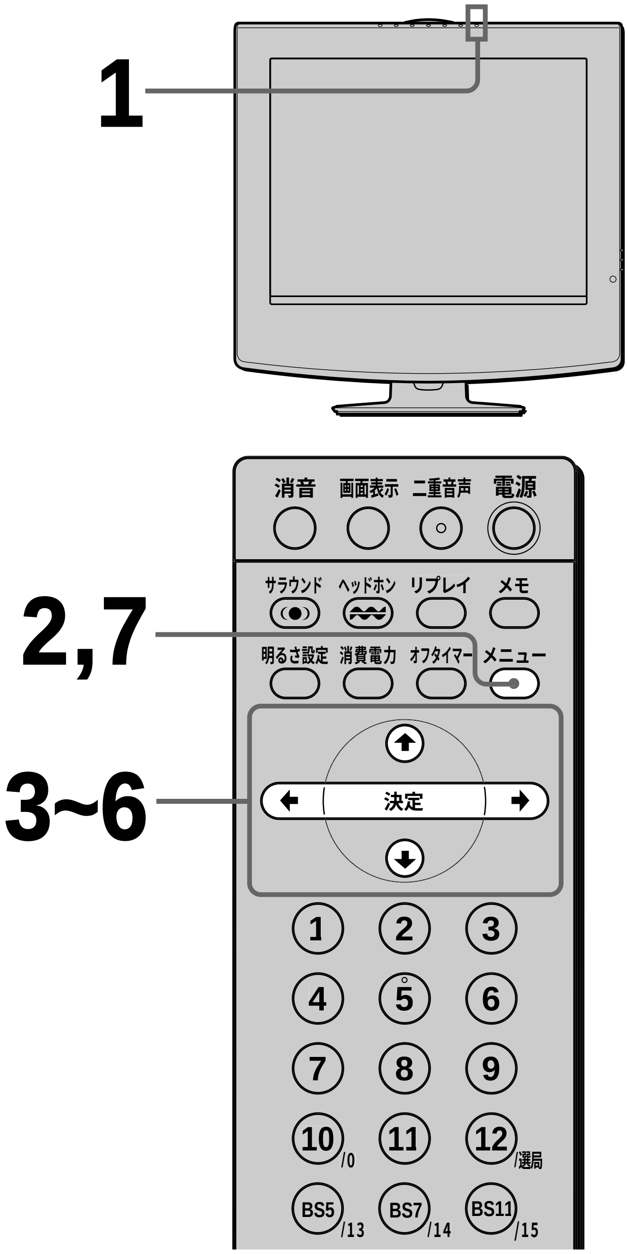
自動設定したチャンネルを変えたり、表示を書き換えたり、放送のないチャンネルをとばしたりする場合

手動設定する ➡ 23ページ

- リモコンの数字ボタンに設定したチャンネルを変えるには☞23**ページ**
- チャンネル表示を書き換えるには☞24**ページ**
- 放送のないチャンネルをとばすには☞25**ページ**

自動設定する

受信できるVHF/UHF放送を、①～⑫/選局のチャンネル数字ボタンに自動的に設定します。
放送のある時間帯に行ってください。BS放送はお買い上げ時に設定されています。
自動設定したチャンネルを変更したり、放送のないチャンネルをとばすときは、☞25ページをご覧ください。



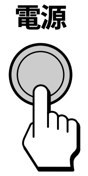
ご注意

- チャンネル設定は、ディスプレイ（本体）とメディアレシーバーがワイヤレス通信しているときのみ、設定できます。
- 選局が「10キー」になっているときは自動設定できません。

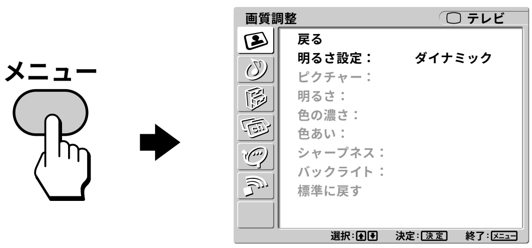
次のページにつづく

手順6：
チャンネルを設定する（つづき）

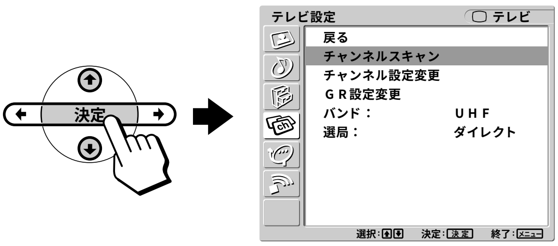
1 ディスプレイの電源スイッチを押して、VHF/UHF放送を映す。



2 メニューボタンを押す。

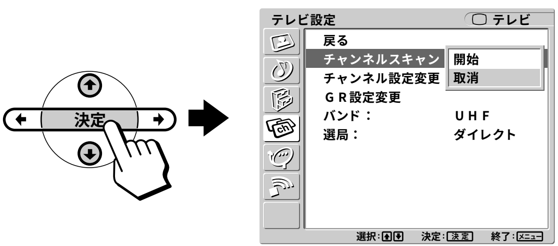


3 ↑/↓で「(テレビ設定)」を選び、決定ボタンを押す。

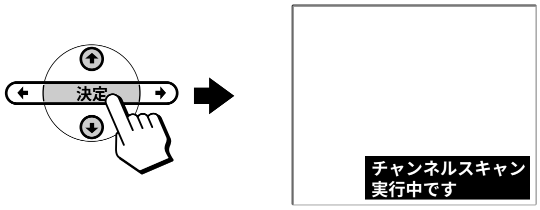


4 「チャンネルスキャン」が選ばれていることを確認して、決定ボタンを押す。

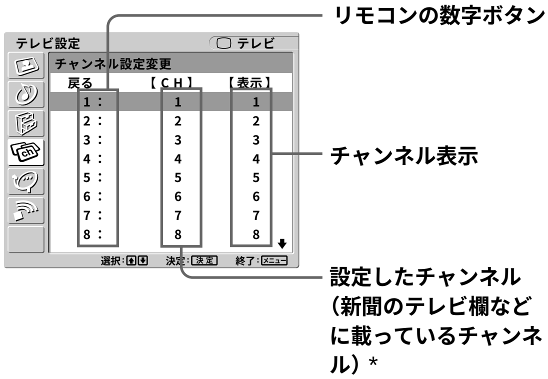
選ばれていないときは、↑/↓で選び、決定ボタンを押す。



5 ↑/↓で「開始」を選び、決定ボタンを押す。



「チャンネルスキャン実行中です」と表示され、自動的に設定が始まります。
設定が終わると、下のメニューに変わります。



* 地域によっては、これまでご覧になっていたチャンネル番号と異なる場合があります。

6 設定されたチャンネルを確認する。

手動で設定し直したいときは

☞23ページをご覧ください。

ゴーストの少ない画像にしたいときは

☞31ページをご覧ください。

7 メニューボタンを押して、メニューを消す。

チャンネル設定を途中でやめるには

手順5で「チャンネルスキャン実行中です」のメッセージが出ている間に、本体またはリモコンのボタンを押す（どのボタンを押しても途中でやめられます）。

ご注意

- チャンネルスキャンを行わなかったり、チャンネルスキャン実行中に中断したりすると、消費電力または明るさ設定や画質調整機能が働かないことがあります。
  そのときは、一度、チャンネルスキャンを最後まで行うとお好きな消費電力や画質調整の設定に変更できます。
- 自動チャンネル設定中はディスプレイ（本体）を動かさないでください。

ケーブルテレビを見るには

ケーブルテレビ放送会社との受信契約が必要です。なお、ケーブルテレビを受信できない地域もあります。このテレビでは、C13〜C38までのケーブルテレビチャンネルを受信できます。詳しくは、お近くのケーブルテレビ放送会社にお問い合わせください。

1 ダイレクト選局になっていることを確認する（☞29ページ）。

2 メニューボタンを押して、メニューを出す。

3 ↑/↓で「(テレビ設定)」を選び、決定ボタンを押す。

4 ↑/↓で「バンド」を選び、決定ボタンを押す。

5 ↑/↓で「CATV」を選び、決定ボタンを押す。

6 ↑/↓で「チャンネル設定変更」を選び、決定ボタンを押す。

7 ↑/↓でケーブルテレビを映したいリモコンの数字ボタンを選び、決定ボタンを押す。

8 ↑/↓で【CH】の数字をケーブルテレビのチャンネルにし、決定ボタンを押す。
ケーブルテレビのチャンネルには、表示の前に「C」がつきます。
例：C24

9 メニューボタンを押して、メニューを消す。

ご注意

- ケーブルテレビとUHF放送を同時に受信したり、チャンネル設定したりすることはできません。
- ケーブルテレビで「10キー選局」（☞29ページ）をするときは、自動設定で受信設定をした後、「10キー選局」に切り換えてください。

手動設定する

自動設定したチャンネルを変えたり、表示を書き換えたり、放送のないチャンネルをとばすことができます。
①〜⑫/選局のチャンネル数字ボタンと、BS5/13、BS7/14、BS11/15のBSチャンネルボタンの合計15チャンネルすべてを、手動で設定できます。

ご注意

BS5/13、BS7/14、BS11/15ボタンは、ボタン名と同じBSチャンネル用としてだけでなく、13、14、15チャンネルボタンとしても使えます。ただし、ボタン名と異なる他のチャンネルに設定し直すと、各ボタンを押しても、BS5、7、11チャンネルを直接選局できなくなります。

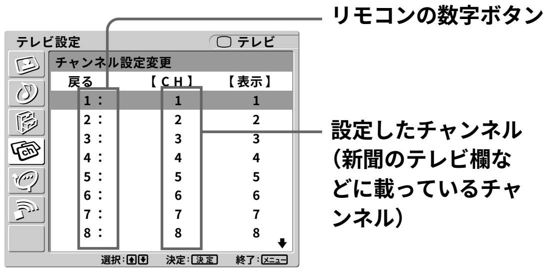
リモコンの数字ボタンに設定したチャンネルを変えるには

リモコンの数字ボタンに好きなチャンネルが映るように変えられます。

1 メニューボタンを押して、メニューを出す。

2 ↑/↓で「(テレビ設定)」を選び、決定ボタンを押す。

3 ↑/↓で「チャンネル設定変更」を選び、決定ボタンを押す。



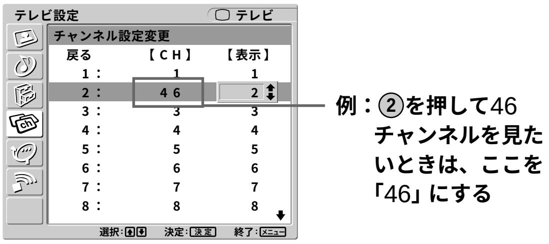
4 ↑/↓で変更したいリモコンの数字ボタンを選び、決定ボタンを押す。



次のページにつづく

手順6：
チャンネルを設定する（つづき）

5 ♠/♣で【CH】の数字を変更し、決定ボタンを押す。



6 メニューボタンを押して、メニューを消す。

ご注意

BS固定時は「チャンネル設定変更」は選べません。

ちょっと一言

手動設定でケーブルテレビの受信の設定をするときは、「(テレビ設定)」メニューで、「バンド」を「CATV」にしてください。詳しくは、☞23ページをご覧ください。

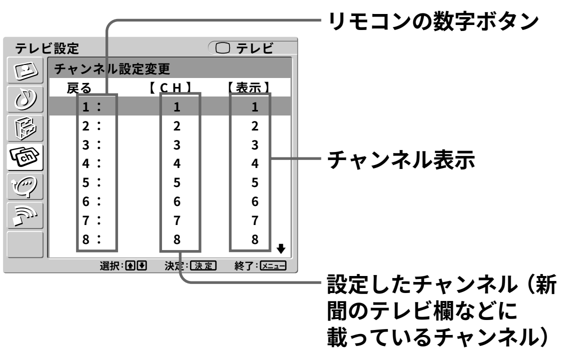
チャンネル表示を書き換えるには

画面に出るチャンネル表示は、新聞のテレビ欄などに載っているチャンネルになっています。これを、好きなチャンネル番号などに書き換えることができます。

1 メニューボタンを押して、メニューを出す。

2 ♠/♣で「(テレビ設定)」を選び、決定ボタンを押す。

3 ♠/♣で「チャンネル設定変更」を選び、決定ボタンを押す。



4 ♠/♣で変更したいリモコンの数字ボタンを選び、決定ボタンを押す。



5 決定ボタンまたは➡を押す。



6 ♠/♣で【表示】の数字を書き換え、決定ボタンを押す。



7 メニューボタンを押して、メニューを消す。

ご注意

BS固定時は「チャンネル設定変更」は選べません。

ちょっと一言

- チャンネルと表示が1対1で対応するように、チャンネル表示を書き換えてください。複数のチャンネルを同一のチャンネル表示にすることもできますが、おすすめしません。
- BS放送のチャンネル表示は書き換えられません。

放送のないチャンネルをとばすには

チャンネル＋/−ボタンでチャンネルを選ぶときに、放送のないチャンネルをとばす（選局しない）ように設定できます。

1 **メニューボタンを押して、メニューを出す。**

2 **↑/↓で「(テレビ設定)」を選び、決定ボタンを押す。**

3 **↑/↓で「チャンネル設定変更」を選び、決定ボタンを押す。**



4 **↑/↓でとばしたいチャンネル数字ボタンを選び、決定ボタンを押す。**



5 **↑/↓で【CH】の数字を「−−」に変えて、決定ボタンを押す。**



6 **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

ご注意

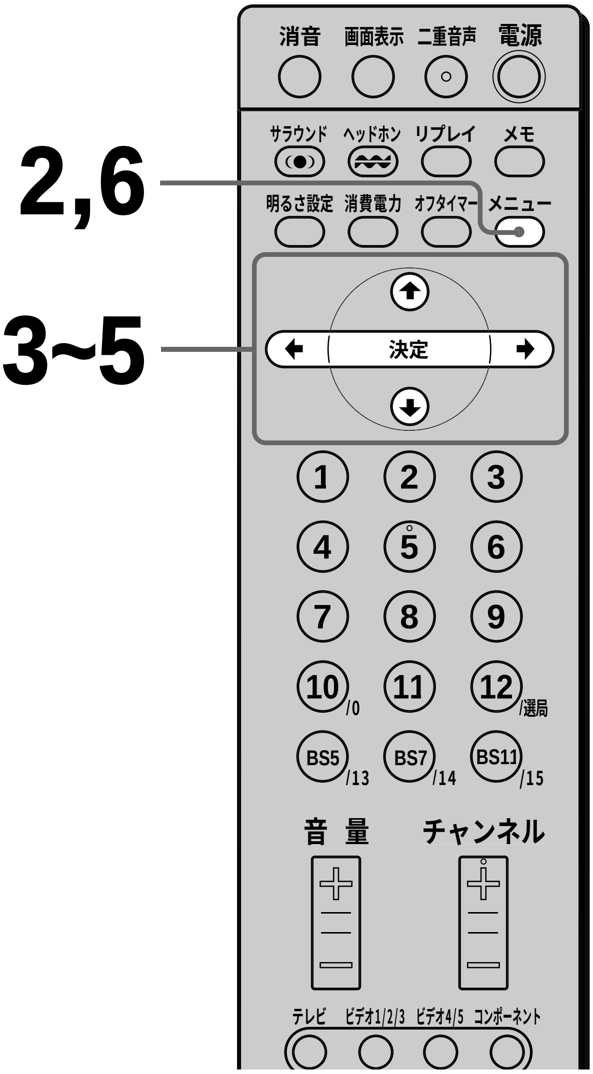
BS固定時は「チャンネル設定変更」は選べません。

手順7：BSアンテナの設定をする

BS放送を見るときは、BSアンテナ電源の設定と、BSアンテナの向きを調整してください。

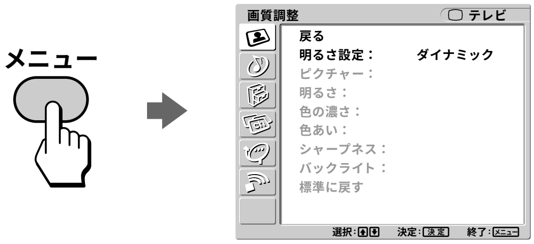
BSアンテナ電源を設定する

BSアンテナのつなぎかた（マンションなどの共同受信システムか、メディアレシーバーなどに直接つないでいるかなど）に合わせて、BSアンテナへの電源供給を設定します。

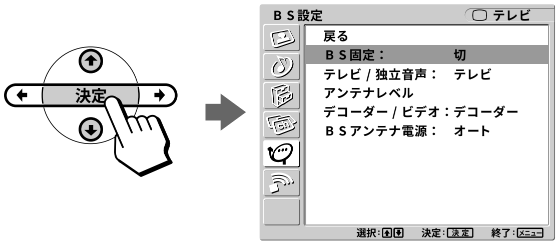


1 **電源を入れ、BS放送を映す。**

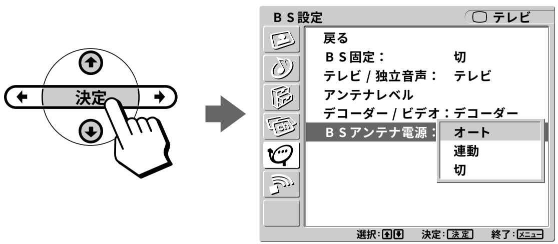
2 **メニューボタンを押す。**



3 **↑/↓で「(BS設定)」を選び、決定ボタンを押す。**



4 **↑/↓で「BSアンテナ電源」を選び、決定ボタンを押す。**



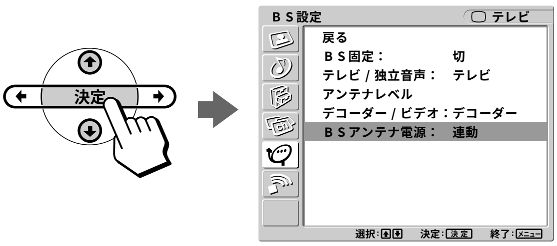
5 マンションなどの共同受信システムのときは

↑/↓で「切」を選び、決定ボタンを押す。

BSアンテナをつないでいるときは

↑/↓で「オート」または「連動」を選び、決定ボタンを押す。

設定	BSアンテナへの電源供給のしかた
オート（お買い上げ時の設定）	本機の電源が入っているときに、本機がBSアンテナ電源を供給するかどうかを自動的に判断する。本機の電源が切れているときは供給しない。
連動	本機の電源が入っているときはつねに電源を供給する。本機の電源が切れているときは供給しない。
切	電源を供給しない。



6 メニューボタンを押して、メニューを消す。

ご注意

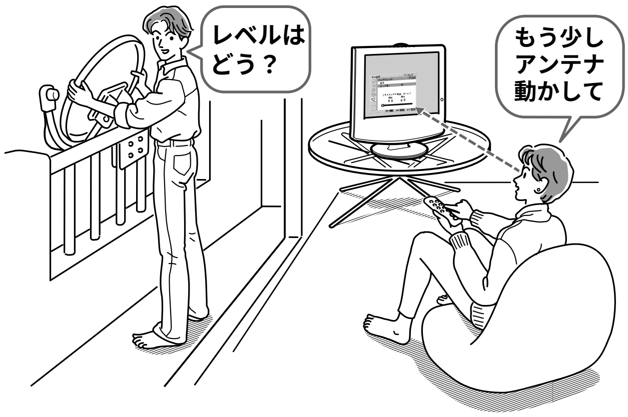
- 「オート」にしていても、BSアンテナの電源供給システムによっては、うまく働かないことがあります。このときは「連動」にしてください。
- 1本のBSアンテナに分配器などをつないでBS電波を分け、本機と他のテレビやビデオ機器の両方でBSを受信できるようにしているときは、本機を「オート」に、他の機器を「連動」にしてください。このようにしないと、本機の電源を切ると他のテレビやビデオ機器からBSアンテナに電源が供給されないことがあります。他の機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- BS設定はディスプレイ（本体）とメディアレシーバーがワイヤレス通信しているときのみ設定できます。

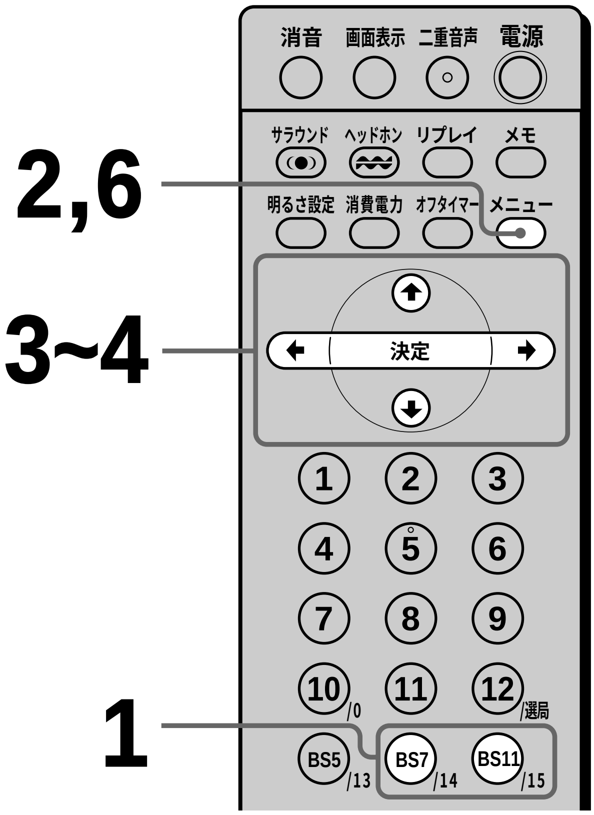
BSアンテナの向きを調整する

BSアンテナをメディアレシーバーに直接つないだときは、アンテナの向きを2人で調整します。1人がテレビ画面の画像とレベル表示を見て、もう1人がレベル表示が最大になるように、BSアンテナを動かしながら調整します。向きや角度についてはBSアンテナの取扱説明書もあわせてご覧ください。

ご注意

「BSアンテナ電源」が「切」になっているときは、「BSアンテナ電源」を「オート」または「連動」にしてください（☞26ページ）。

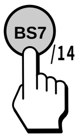




次のページにつづく

手順7：
BSアンテナの設定をする（つづき）

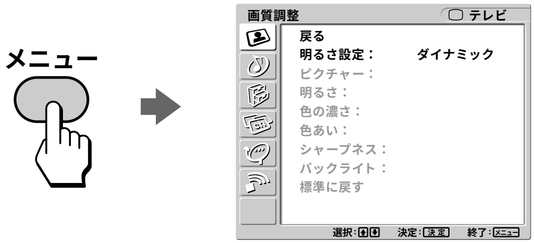
1 電源を入れ、BS7またはBS11を押してBS放送を映す。



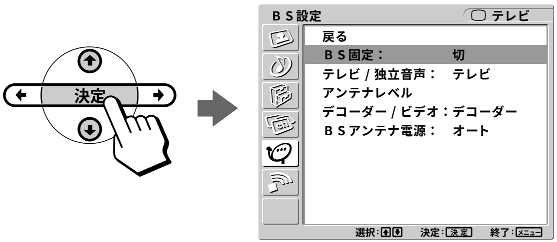
または



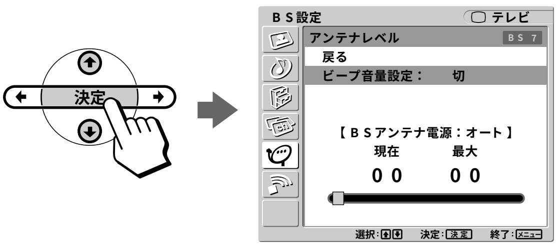
2 メニューボタンを押す。



3 ↑/↓で「(BS設定)」を選び、決定ボタンを押す。

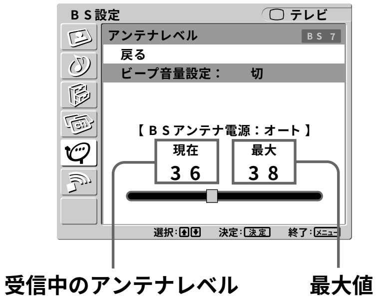


4 ↑/↓で「アンテナレベル」を選び、決定ボタンを押す。



5 BSアンテナを動かして調整する。

受信中のアンテナレベルが、できるかぎり最大の数値になるように、アンテナの向きを調整し固定します。



6 メニューボタンを押して、メニューを消す。

音を聞いて調整するには

画面で確認できないときに便利です。

1. **手順4のあと、↑/↓で「ビープ音量設定」を選び、決定ボタンを押す。**
2. **↑/↓で確認できる音量（1～10）を選び、決定ボタンを押す。**
3. **手順5で連続した最も高い音になるよう、BSアンテナを調整する。**

ご注意

BS固定中（☞65ページ）は、音を聞いて調整できません。

ちょっと一言

1つのBSチャンネルで調整すれば、他のBSチャンネルの調整は不要です。

数字ボタンの組み合わせでチャンネルを選ぶ［10キー選局］

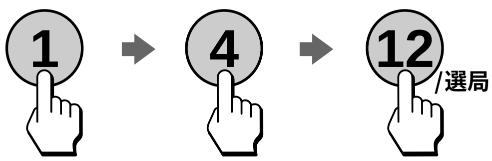
お買い上げ時は「ダイレクト選局」になっています。
「ダイレクト選局」は、リモコンの数字ボタンと同じチャンネルが映る選局方法で、受信できるチャンネル数は最大15局です。

そのため、ケーブルテレビなど見たいチャンネルの数が15局を越えるときは、「10キー選局」に変えてください。
「10キー選局」では、数字ボタンを十の位・一の位の順に押したあと、⑫/選局を押して、チャンネルを選びます。0は⑩/0を使います。

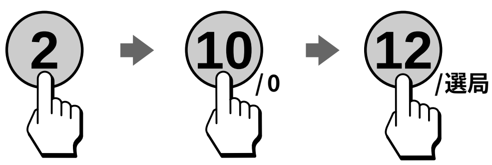
ちょっと一言

- BS放送は、「10キー選局」に変えても、リモコンのBS5〜11ボタンを押して、直接選べます。
- ⑫/選局を押さなくても、約3秒後に切り換わりますが、押すとすぐに切り換わります。

例） 14**チャンネル**



20**チャンネル**

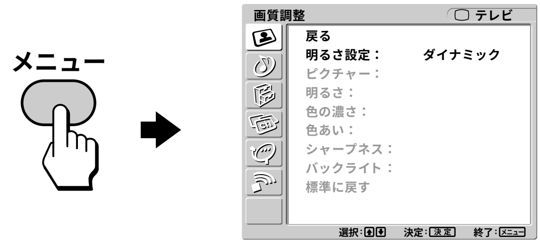




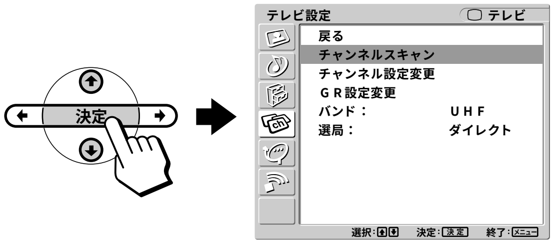
次のページにつづく

数字ボタンの組み合わせでチャンネルを選ぶ［10キー選局］（つづき）

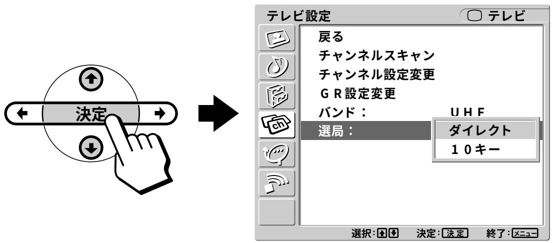
1 **メニューボタンを押す。**



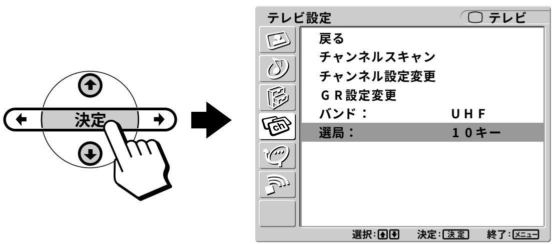
2 **↑/↓で「(テレビ設定)」を選び、決定ボタンを押す。**



3 **↑/↓で「選局」を選び、決定ボタンを押す。**



4 **↑/↓で「10キー」を選び、決定ボタンを押す。**



5 **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

ダイレクト選局に戻すには

手順4で「ダイレクト」を選ぶ。

ご注意

- 「10キー選局」のときはチャンネル表示の書き換えはできません。
- チャンネルを自動設定する（☞21ページ）ときは、ダイレクト選局に戻してから行ってください。
- ケーブルテレビのときは、手順2のあとに下記の操作をしてください。
  1 ↑/↓で「バンド」を選び、決定ボタンを押す。
  2 ↑/↓で「CATV」を選び、決定ボタンを押す。
  3 手順3以降を行う。

チャンネル＋/－ボタンで選ぶ放送を設定するには

お買い上げ時は1～12チャンネルとBS5、BS7、BS11が順に選ばれるように設定されています。ケーブルテレビなどでこれ以外のチャンネルを選ぶときや、放送がないチャンネルをとばすときは、次のように設定します。

1 **メニューボタンを押して、メニューを出す。**

2 **↑/↓で「(テレビ設定)」を選び、決定ボタンを押す。**

3 **↑/↓で「チャンネル設定変更」を選び、決定ボタンを押す。**

4 **↑/↓で見たいチャンネル、またはとばしたいチャンネルを選び、決定ボタンを押す。**

5 **↑/↓で見たいチャンネルのときは「受信」を、とばしたいチャンネルのときは「－－」を選び、決定ボタンを押す。**



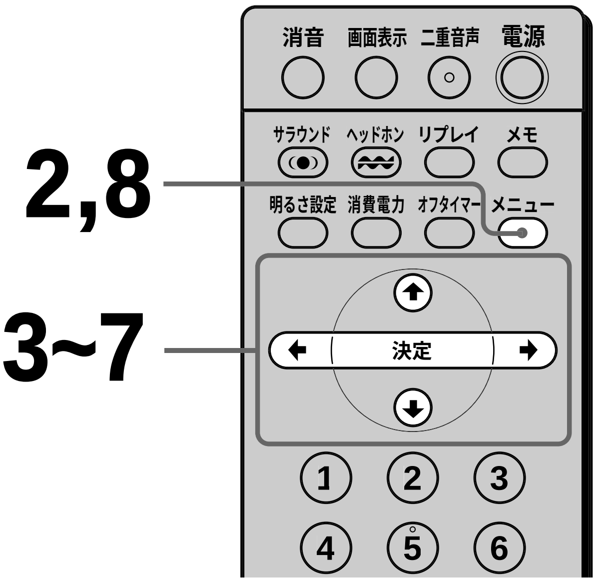
6 **複数のチャンネルを設定するときは、手順4と5をくり返す。**

7 **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

ゴーストの少ない画像にする ［ゴーストリダクション］

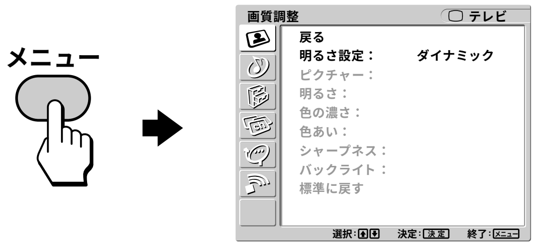
本機では、建物や地形などによる妨害波で起こるゴーストを、放送局から送信されるゴースト除去基準信号を感知して、少なくする（リダクション）ように、チャンネルごとに設定できます。
「GR」はゴースト・リダクションの略です。

ご注意
- BS放送にはゴーストがないので、設定の必要はありません。
- ビデオ機器の再生画像など本機につないだ機器の映像に対しては設定できません。

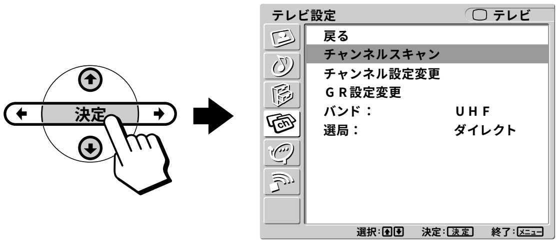


1 電源を入れて、VHF/UHF放送を映す。

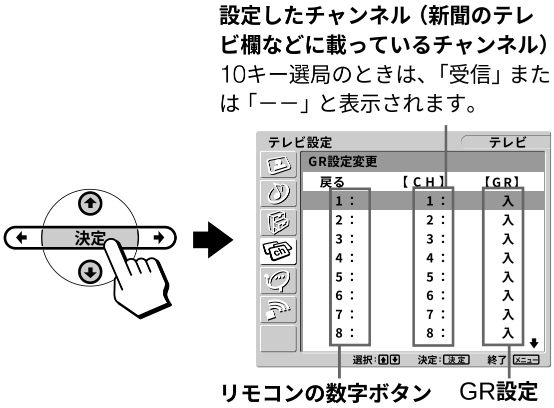
2 メニューボタンを押す。



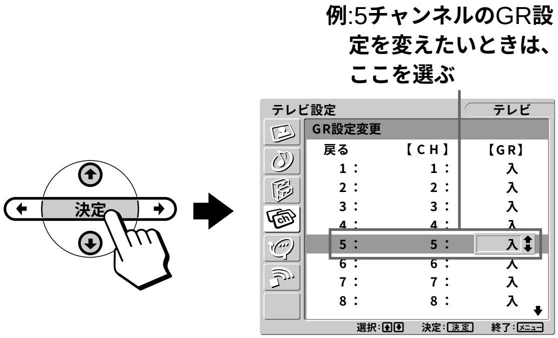
3 ↑/↓で「(テレビ設定)」を選び、決定ボタンを押す。



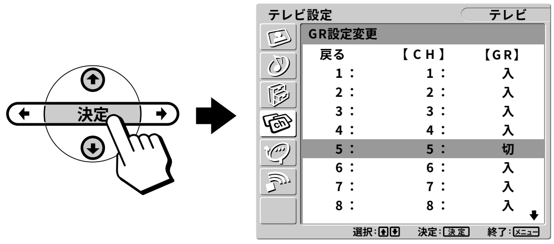
4 ↑/↓で「GR設定変更」を選び、決定ボタンを押す。



5 ↑/↓で設定を変えたいチャンネルを選び、決定ボタンを押す。



6 ↑/↓で「入」または「切」を選び、決定ボタンを押す。



次のページにつづく

7 複数のチャンネルを設定するときは、手順5と6をくり返す。

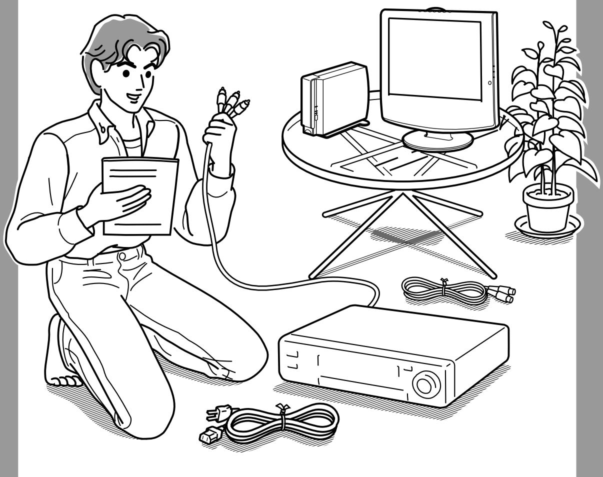
8 メニューボタンを押して、メニューを消す。

ご注意

- ゴースト・リダクションは、チャンネルを切り換えた後、数秒してから働き、大きなゴーストから順々に少なくしていきます。このとき、画像が一瞬またたくことがあります。
- 受信している電波が弱いときは、大きなゴーストに働くと別のゴーストが起きることがありますが、徐々に少なくしていきます。
- アンテナの設置や調整のときは「GR」を「切」にすると、ゴーストの少ない方向を確認できます。
- 次のときは効果が充分に出ないため、「GR」を「切」にしてください。
  – ゴーストが大きすぎるとき
  – ゴーストが同時に10波以上起きているとき
  – 飛行機に反射して起きるゴーストなど、一定でないゴーストのとき
  – 室内アンテナなどアンテナの設置や調整が適切に行われていないとき

他機との接続

ここでは、ビデオ機器など他の機器のつなぎかたについて説明しています。
接続端子のなまえとはたらきについては☞10～12ページをご覧ください。テレビを見るための接続と準備については、「テレビの接続と準備」（☞8～32ページ）をご覧ください。



ビデオなどをつなぐ

ビデオ機器、ハードディスクレコーダー、またはDVDレコーダーなどをつなぎます。それぞれの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

S1映像端子と映像端子のどちらにつなぐか迷ったときは

よりよい画質でご覧いただくために、S1映像端子につないでください。
つなぐ機器にS映像端子がない場合は、映像端子につなぎます。

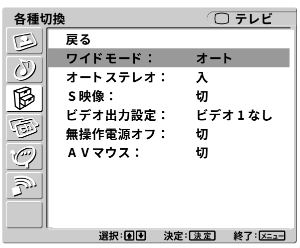
メディアレシーバーのビデオ1、2入力やディスプレイ（本体）のビデオ4、5入力のS1映像入力端子と映像入力端子の両方につないだときは

ビデオの映像信号をどちらの端子から入力するかを、メニュー画面で設定できます。お買い上げ時は、S1映像入力端子から入力された画像が映ります。

1 ビデオ1/2/3またはビデオ4/5ボタンをくり返し押して、切り換えたいビデオ入力を選ぶ。

2 メニューボタンを押して、メニューを出す。

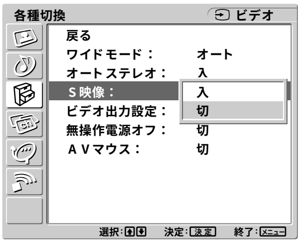
3 ↑/↓で「(各種切換)」を選び、決定ボタンを押す。



次のページにつづく

ビデオなどをつなぐ（つづき）

4 ↑/↓で「S映像」を選び、決定ボタンを押す。



5 S1映像入力端子から入力された画像を見るときは

↑/↓で「入」を選び、決定ボタンを押す。

映像入力端子から入力された画像を見るときは

↑/↓で「切」を選び、決定ボタンを押す。

6 メニューボタンを押して、メニューを消す。

ビデオ3/デコーダー入力端子にBSデコーダー（WOWOW）またはビデオ機器などをつなぐときは

お買い上げ時は、ビデオ3入力端子として働くように設定されているため、ビデオ機器などをつなぐときは設定し直す必要はありません。
デコーダー入力端子としてBSデコーダー（WOWOW）をつなぐときは「デコーダー」に、そのあとビデオ機器などをつなぐときは「ビデオ3」に切り換えてください。

1 メニューボタンを押して、メニューを出す。

2 ↑/↓で「(BS設定)」を選び、決定ボタンを押す。

3 ↑/↓で「デコーダー/ビデオ」を選び、決定ボタンを押す。

4 ↑/↓で「ビデオ3」を選び、決定ボタンを押す。

5 メニューボタンを押して、メニューを消す。

ビデオ1入力の信号をBS出力/ビデオ出力端子から出力するときは

お買い上げ時は、ビデオ1入力端子につないだ機器の信号は、BS出力/ビデオ出力端子から出力されないようになっています。テレビをモニターとして使い、ビデオなどで編集するときは再生機をビデオ2、3入力端子のいずれかにつないでください（ただし、ビデオ3入力につなぐときは、BSデコーダー/ビデオ3入力をビデオ3入力端子として働くように設定が必要です）。
ビデオ1入力の映像や音声をBS出力/ビデオ出力端子につないだビデオ機器などで楽しむときは、以下の設定をしてください。ビデオ1入力端子につないだ機器の映像および音声がBS出力/ビデオ出力端子から出力されます。

1 メニューボタンを押して、メニューを出す。

2 ↑/↓で「(各種切換)」を選び、決定ボタンを押す。

3 ↑/↓で「ビデオ出力設定」を選び、決定ボタンを押す。

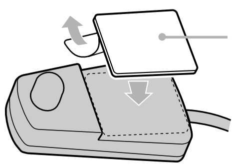
4 ↑/↓で「ビデオ1あり」を選び、決定ボタンを押す。

5 メニューボタンを押して、メニューを消す。

AVマウスを取り付けるには

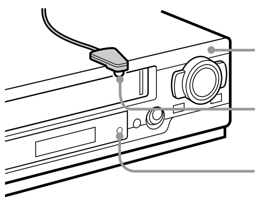
AVマウスは、つないだ機器のリモコンを本機のディスプレイ（本体）に向けて、つないだ機器を操作できるように信号を出します。ビデオやチャンネルサーバー、DVDプレーヤーなどをつないだときは、メディアレシーバーのAVマウス スルー端子とつないだ機器のリモコン受光部にAVマウスを取り付けます。

1 AV**マウスに付属のシールを貼る。**
AVマウスに付属のシールのかわりに市販の両面テープも使えます。



2 AV**マウスをメディアレシーバー後面の**AV**マウス スルー端子につなぐ。**
接続のしかたについて詳しくは、☞36ページをご覧ください。

3 AV**マウスの取り付け予定位置を決める。**
つなぐ機器の取扱説明書でリモコン受光部を確認し、受光部の真上にAVマウスを置きます。



ご注意
- AVマウス裏面のシールは、まだはがさないでください。
- 取り付け位置によっては、動作しにくい機器があります。できるだけ受光部に近い位置に取り付けてください。
- メディアレシーバーに複数の外部機器をつなぐとき、外部機器同士を近付けて設置すると、AVマウスを設置した機器以外の外部機器が動作することがあります。その場合、AVマウスの取り付け位置を調整してください。
- AVマウスの発光部を他のテレビに向けて設置すると、そのテレビが動作することがあります。

ちょっと一言
- AVマウスが機器に届かないときは、別売りの接続コードRK-G131（3m）で延長してください。
- ソニー製機器のリモコン受光部には 🅁 マークが付いています。

4 動作テストをする。
つないだ機器のリモコンをディスプレイ（本体）に向けて、電源のオン/オフなどを行い、つないだ機器を操作できることを確認してください。

ちょっと一言
動作テストをするときは、AVマウス設定が「入」になっていることを確認してください（☞56ページ）。

5 AV**マウスを固定する。**
動作テストで確認できたら、AVマウスの裏面シールをはがし、手順3で決めた取り付け予定位置にAVマウスを固定します。

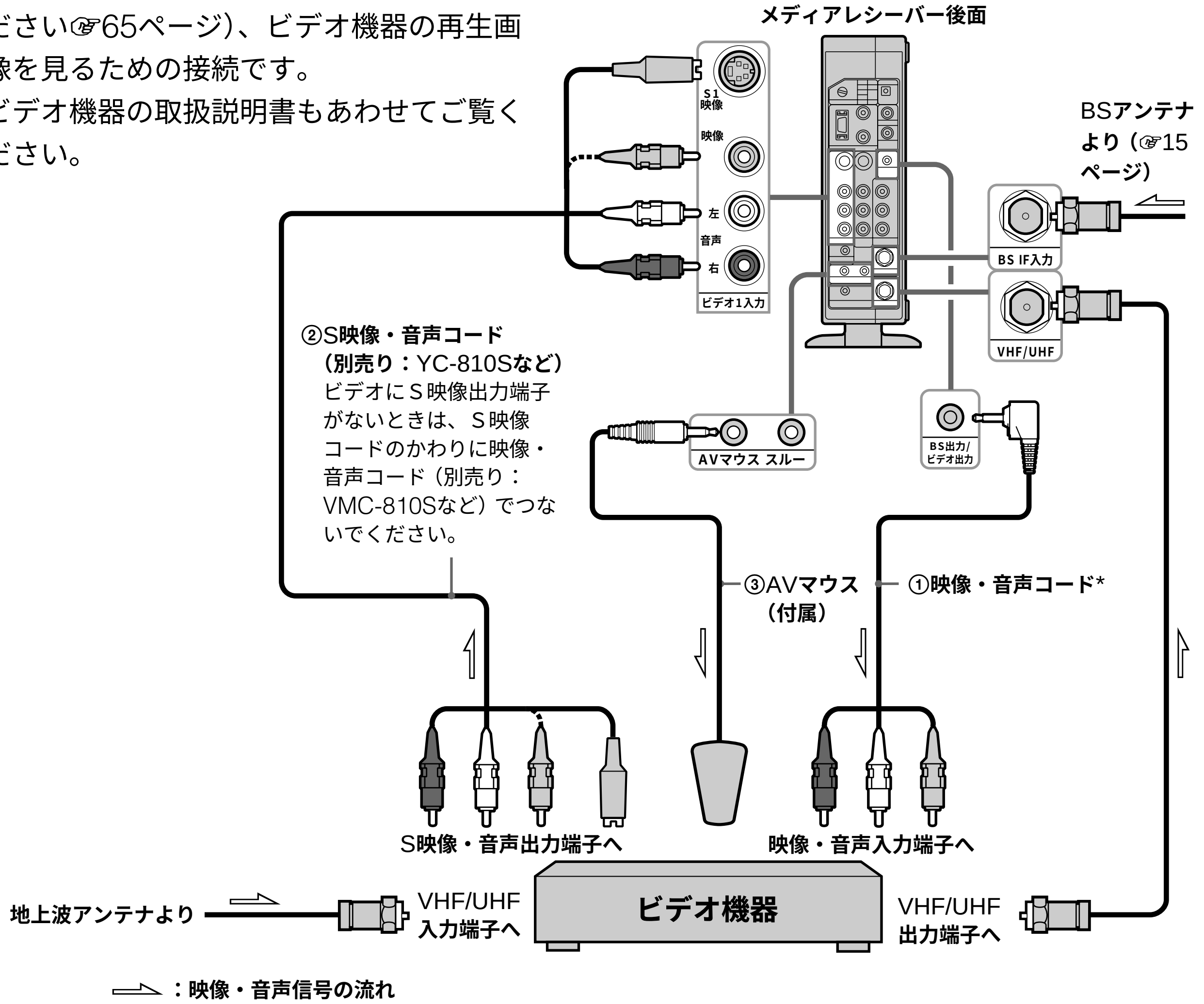
ご注意
- 機器にほこりが付いていると、きちんと固定できません。機器のほこりを取り除いてからAVマウスを固定してください。
- AVマウス スルーの機能は、リモコンの赤外線信号をそのまま転送するものですが、メーカーによっては、AVマウスをつないでもリモコン動作しないことがあります。
- AVマウス発光部を本機のリモコン受光部に向けると誤動作する恐れがあります。

他機との接続

次のページにつづく

BSチューナーのないビデオ機器のとき

BS放送を録画したり（必ずBS固定にしてください☞65ページ）、ビデオ機器の再生画像を見るための接続です。
ビデオ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。



①BS放送をビデオに録画するための接続です（☞65ページ）。

②ビデオなどの再生画像を見るための接続です（☞55ページ）。

③ビデオのリモコンをディスプレイ（本体）に向けてビデオの操作をするための接続です。AVマウスを取り付けるには、☞35ページをご覧ください。

* 映像・音声コードを2本以上お使いになる場合は、別売りのVMC-20FRなどをお求めください。

ビデオなどを見るには

ビデオ1/2/3ボタンをくり返し押して、ビデオ機器をつないだビデオ1入力（「ビデオ1」）を表示させる。
詳しくは、☞55ページをご覧ください。

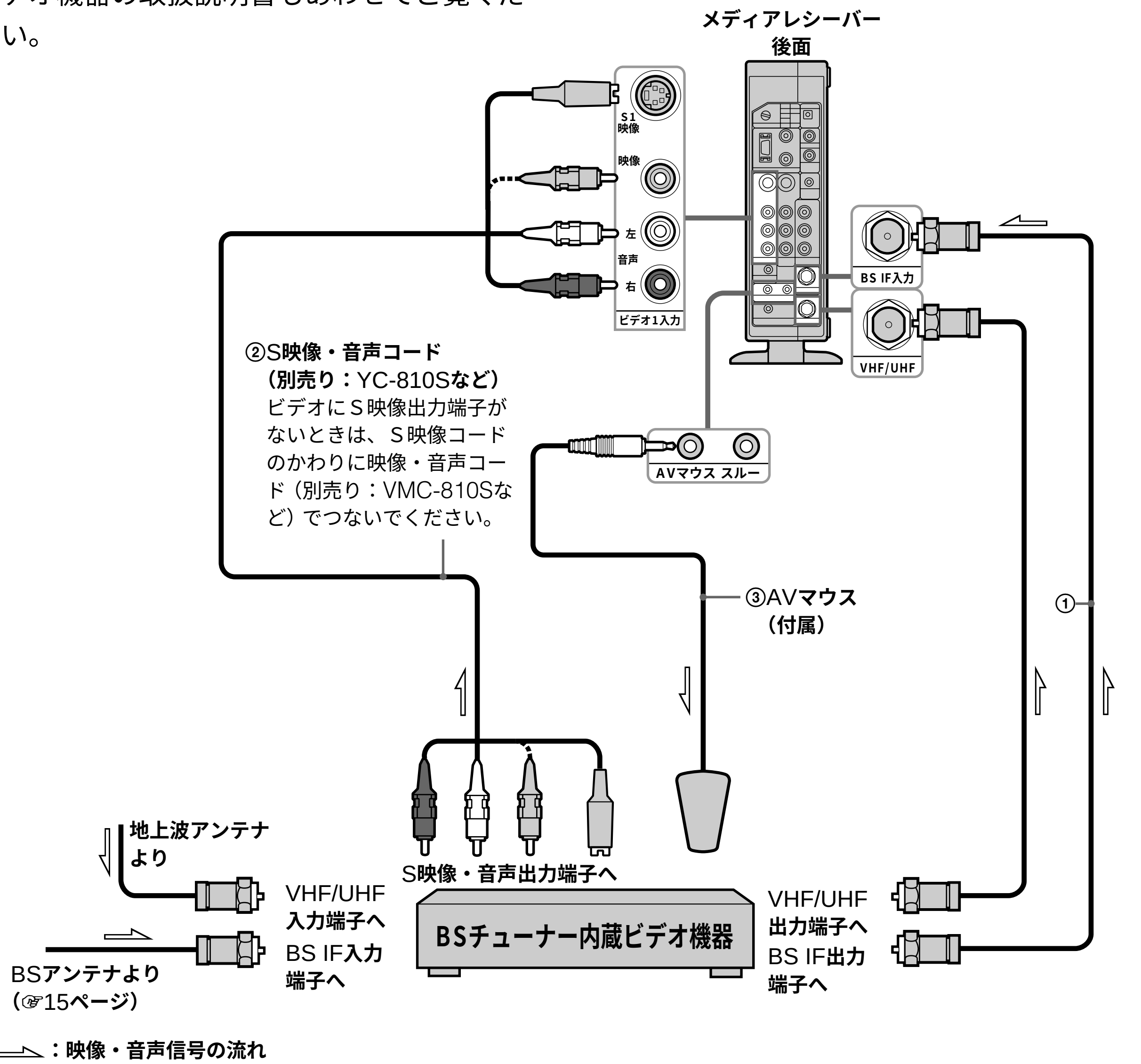
ご注意

- BS放送を録画するときは、BS固定をしてください（☞65ページ）。BS固定をすると、ビデオ機器をつないだ端子のビデオ入力を選んで、録画している画像を確認し、テレビで受信しているBS放送がビデオに正しく録画されているかをチェックできます。
BS固定をしないと、チャンネルを選んだときなどに画像が乱れることがあります。
- テレビをモニターとして使い、ビデオ機器で編集するときは、再生機をビデオ1入力を除いたビデオ2、またはビデオ3/デコーダー入力端子につないでください。お買い上げ時は、ビデオ1入力端子につないだ機器の信号はBS出力/ビデオ出力端子から出力されない設定になっているためです（☞34ページ）。

BSチューナー内蔵ビデオ機器のとき

ビデオ機器の再生画像を見るための接続です。

ビデオ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。



①テレビとビデオ機器の両方のBSチューナーを使うときの接続です。ビデオ内蔵のBSチューナーでBS放送を受信し裏録画しながら、テレビ内蔵のBSチューナーで他のBS放送を見ることができます。

②ビデオの再生画像を見るための接続です（☞55ページ）。

③ビデオのリモコンをディスプレイ（本体）に向けてビデオの操作をするための接続です。AVマウスを取り付けるには、☞35ページをご覧ください。

他機との接続

ビデオなどを見るには

ビデオ1/2/3ボタンをくり返し押して、ビデオ機器をつないだビデオ1入力（「ビデオ1」）を表示させる。

詳しくは、☞55ページをご覧ください。

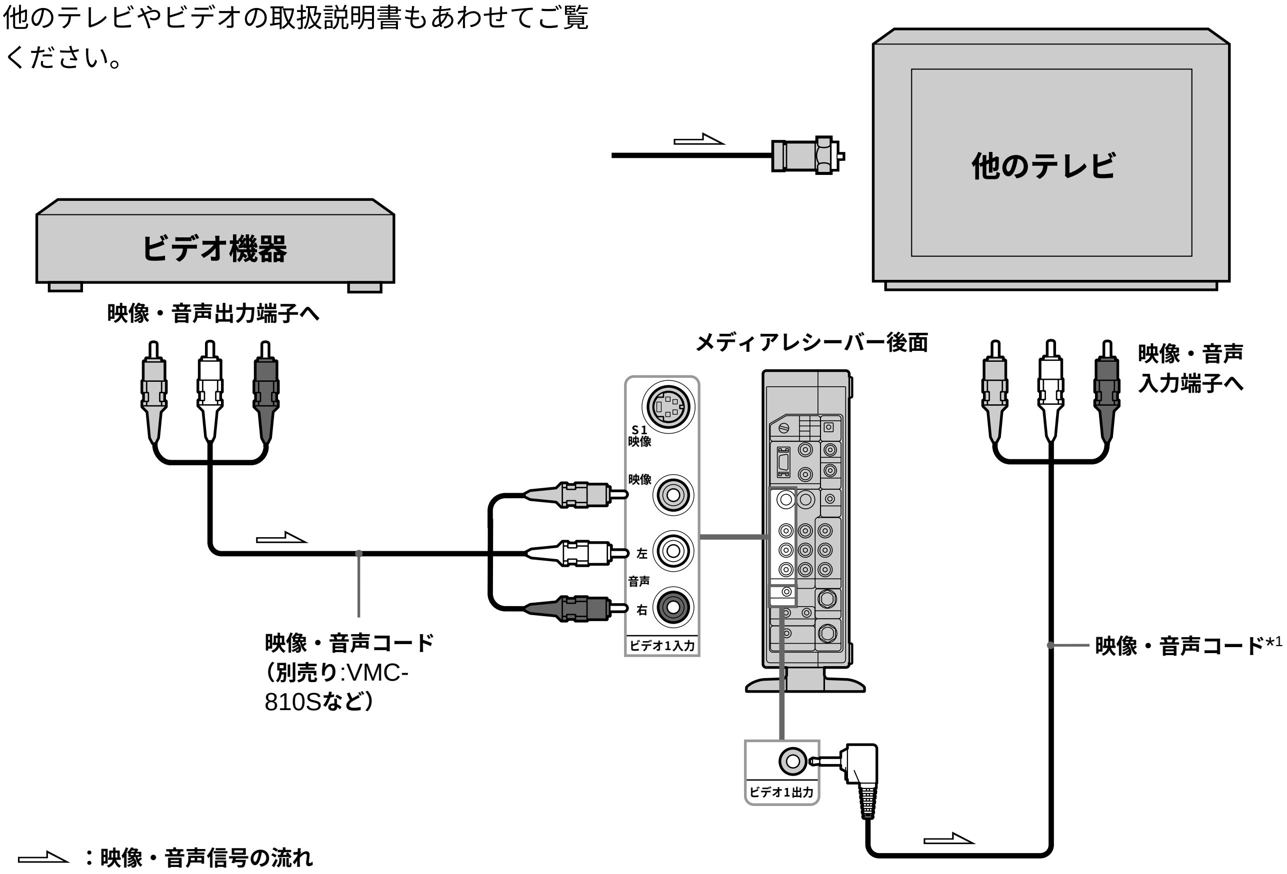
ご注意

テレビをモニターとして使い、ビデオ機器で編集するときは、再生機をビデオ1入力を除いたビデオ2、またはビデオ3/デコーダー入力端子につないでください。お買い上げ時は、ビデオ1入力端子につないだ機器の信号はBS出力/ビデオ出力端子から出力されない設定になっているためです（☞34ページ）。

次のページにつづく

ビデオ1入力の画像を他のテレビでも見るとき

ビデオなどの再生画像を、他のテレビでも見るときの接続です。
他のテレビやビデオの取扱説明書もあわせてご覧ください。



ちょっと一言
ビデオなどのかわりにデジタルCSチューナーやDVDプレーヤーをつなぐこともできます。

ご注意
ビデオ1入力端子にS映像コードでつないだときは、ビデオ1出力端子から映像の出力はできません。

*1 映像・音声コードを2本以上お使いになる場合は、別売りのVMC-20FRなどをお求めください。

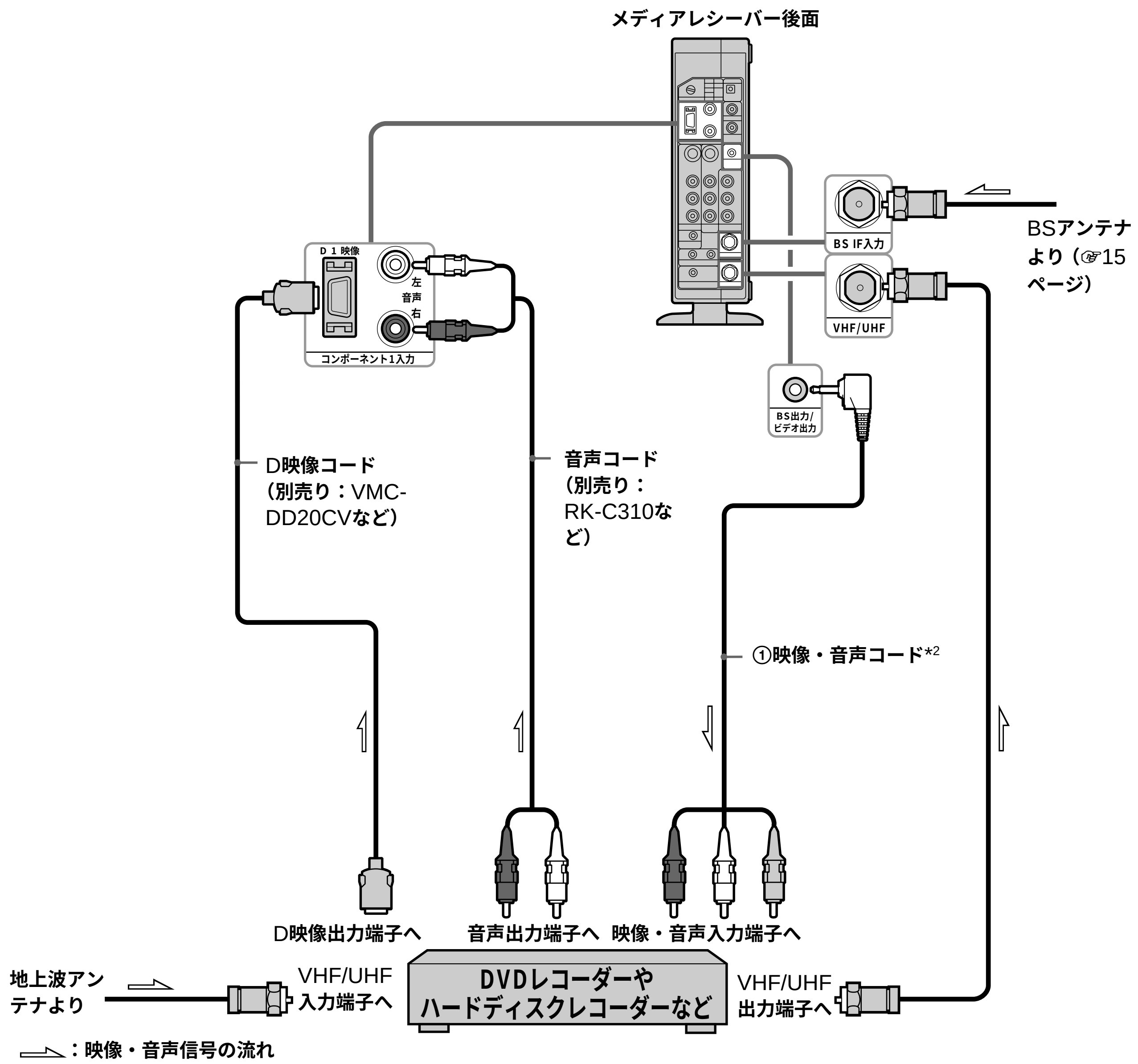
ビデオを見るには

ビデオ1/2/3ボタンをくり返し押して、ビデオをつないだビデオ1入力（「ビデオ1」）を表示させる。
詳しくは、☞55ページをご覧ください。

ちょっと一言
メディアレシーバー後面のビデオ1出力端子からは、ビデオ1入力の信号がメディアレシーバーの電源入／切にかかわらずそのまま出力されます（ACパワーアダプターはつないだままお使いください）。

DVDレコーダーやハードディスクレコーダーなどをつなぐ

DVDレコーダーやハードディスクレコーダーまたはそれらが複合した機器などをつなぎます。それぞれの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。



①BS放送をDVDレコーダーやハードディスクレコーダーなどに録画するための接続です（☞65ページ）。

*2 映像・音声コードを2本以上お使いになる場合は、別売りのVMC-20FRなどをお求めください。

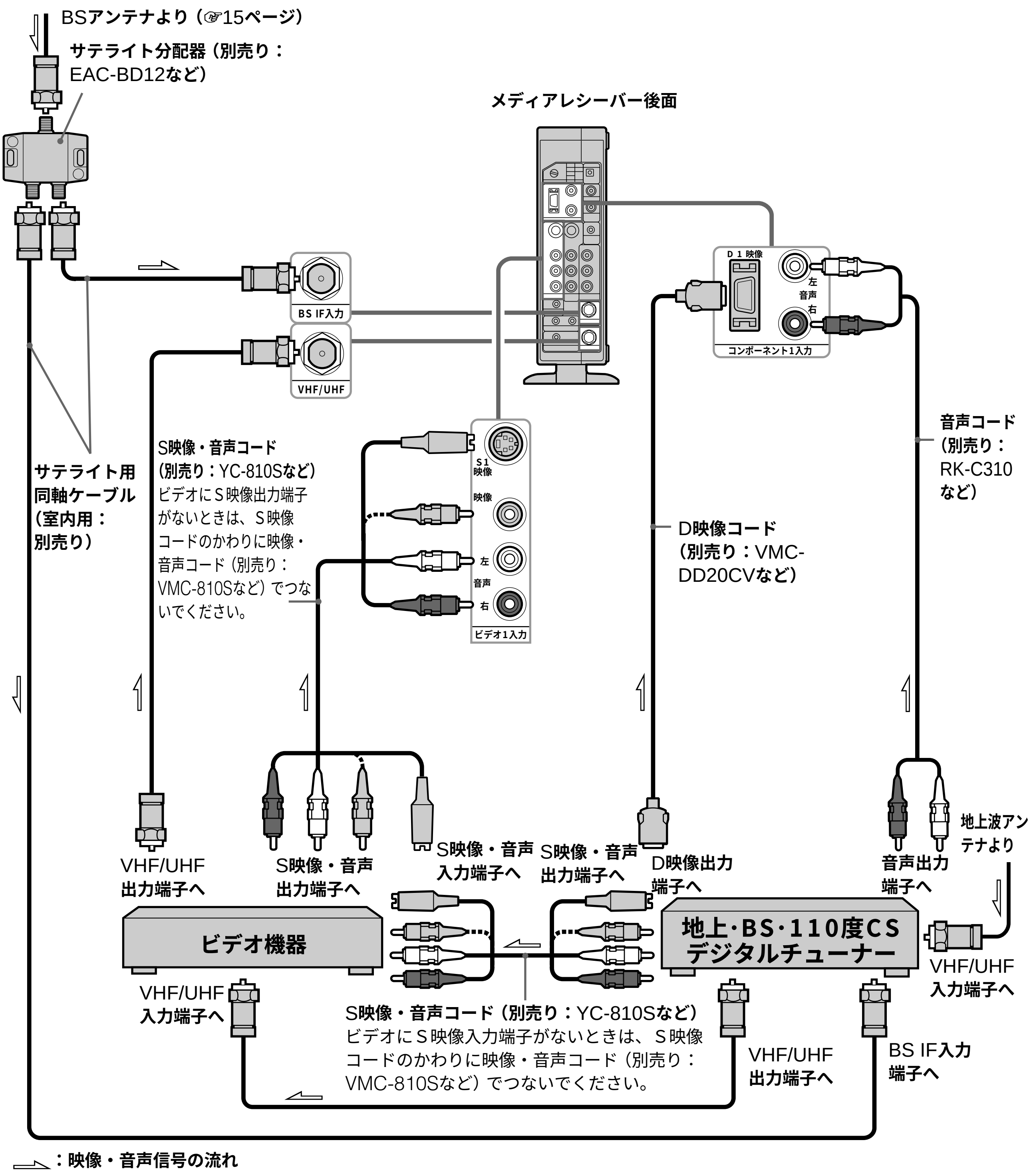
つないだ機器の映像を見るには

コンポーネントボタンを押して、DVDレコーダーやハードディスクレコーダーをつないだコンポーネント1入力（「コンポーネント1」）を表示させる。
詳しくは、☞55ページをご覧ください。

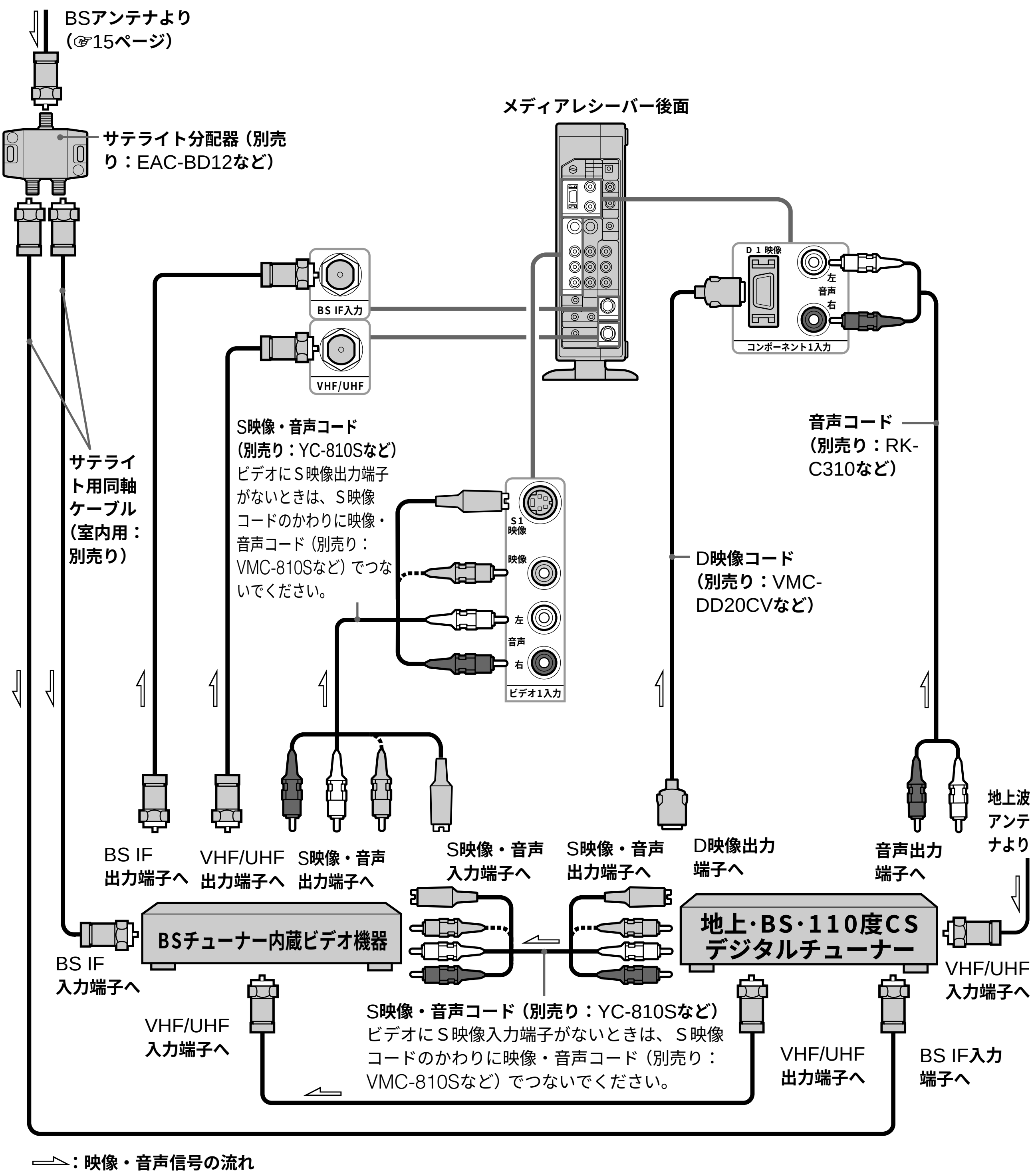
地上・BS・110度CSデジタルチューナーをつなぐ

地上・BS・110度CSデジタル放送を見るには、地上・BS・110度CSデジタルチューナーが必要です。また、110度CSデジタル放送を見るには、110度CSデジタル放送に対応したアンテナや分配器などが必要です。地上・BS・110度CSデジタルチューナーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

BSチューナーのないビデオのとき



BSチューナー内蔵ビデオのとき



地上・BS・110度CSデジタル放送を見るには

コンポーネントボタンを押して、地上・BS・110度CSデジタルチューナーをつないだコンポーネント1入力(「コンポーネント1」)を表示させる。

詳しくは、☞55ページをご覧ください。

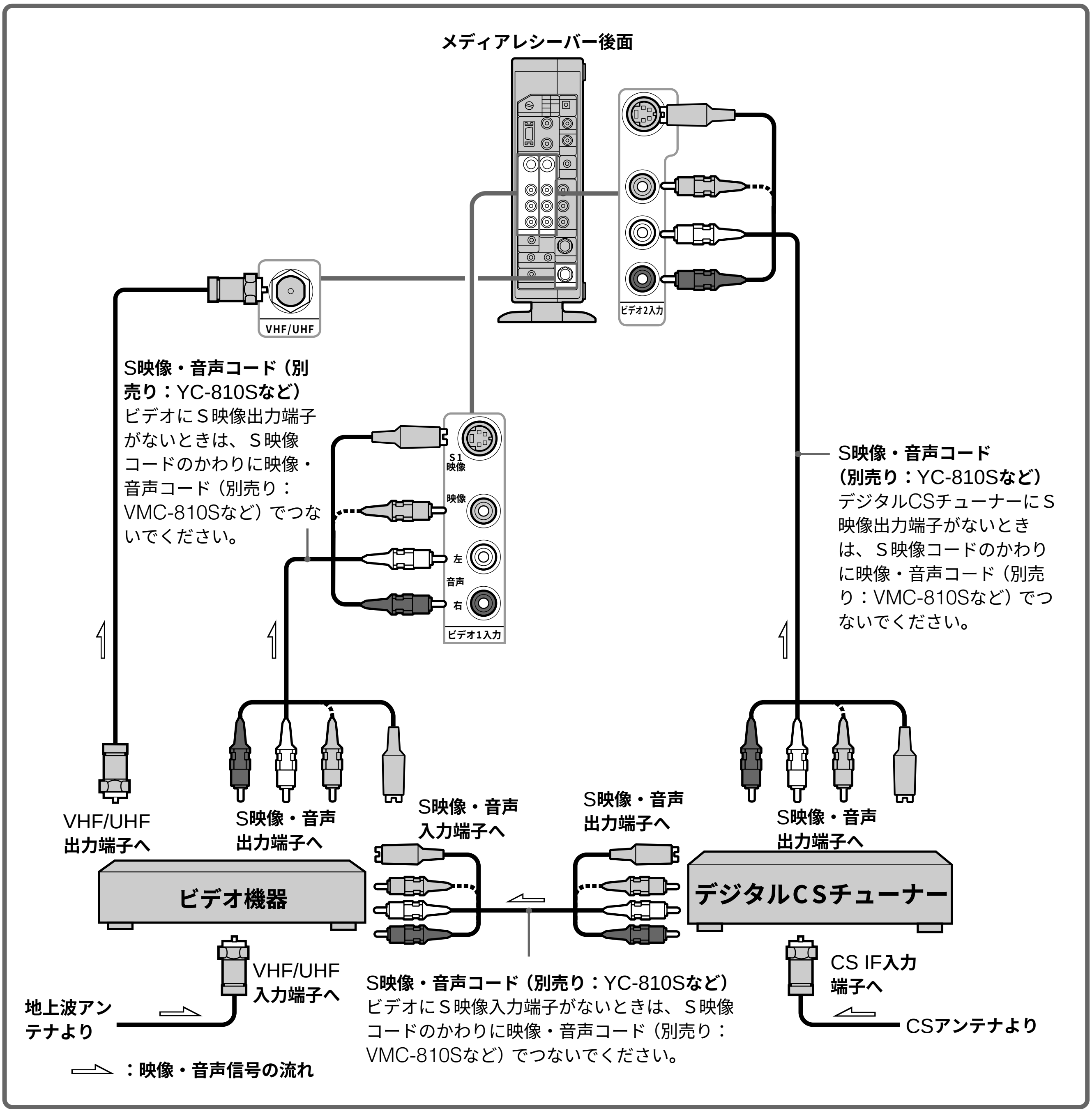
ご注意

- このテレビにはD1映像入力端子がついています。地上・BS・110度CSデジタルチューナー側でD1端子に合った設定にしてください。
- 地上・BS・110度CSデジタルチューナー側のテレビ選択の設定を「4:3ワイドモード」や「16:9」など、このテレビに合わせた設定にし、テレビのメニューのワイドモードは「オート」(お買い上げ時の設定)でお使いください。
詳しくは、地上・BS・110度CSデジタルチューナーの取扱説明書をご覧ください。

デジタルCSチューナーをつなぐ

デジタルCS放送*を見るには、デジタルCS放送局と受信契約が必要です。詳しくはデジタルCS放送局へお問い合わせください。
デジタルCSチューナーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

* スカイパーフェクTV！のことです。110度CSデジタル放送ではありません。



デジタルCS放送を見るには

ビデオ1/2/3ボタンをくり返し押して、デジタルCSチューナーをつないだビデオ入力（「ビデオ2」または「ビデオ3」）を表示させる。
詳しくは、☞55ページをご覧ください。

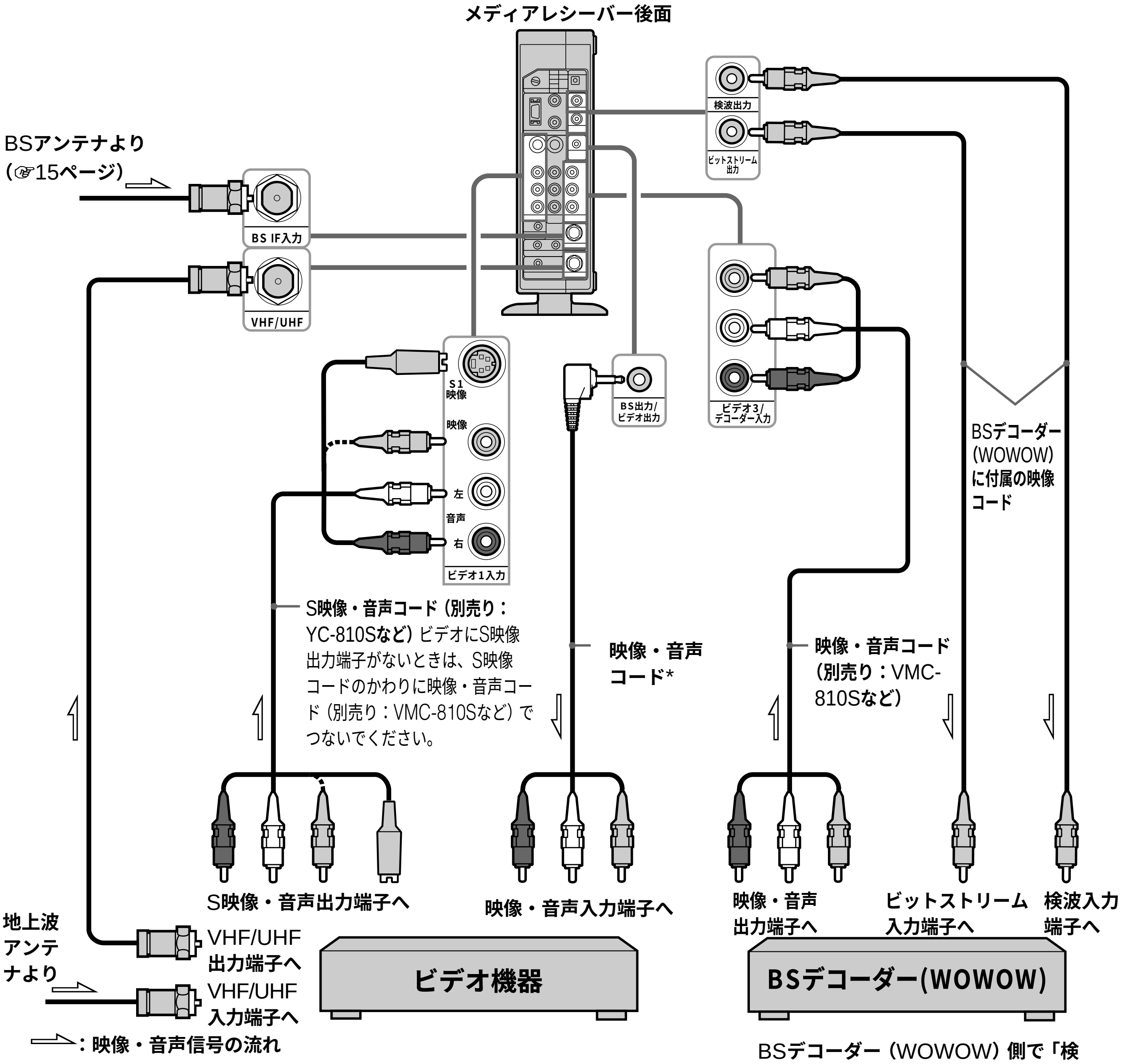
ちょっと一言

AVマウスをデジタルCSチューナーにつなぐと、デジタルCSチューナーのリモコンをディスプレイ（本体）に向けてデジタルCSチューナーを操作できます。
AVマウスを取り付けるには、☞35ページをご覧ください。

BSデコーダー（WOWOW）をつなぐ

WOWOWを見るには、WOWOWとの受信契約が必要です。詳しくは、WOWOWへお問い合わせください。WOWOWを見るには、☞45ページをご覧ください。
WOWOWと受信契約をすると送られてくるBSデコーダー（WOWOW）の取扱説明書もあわせてご覧ください。

BSチューナーのないビデオのとき



BSデコーダー（WOWOW）側で「検波/映像」の設定を「検波」にする。

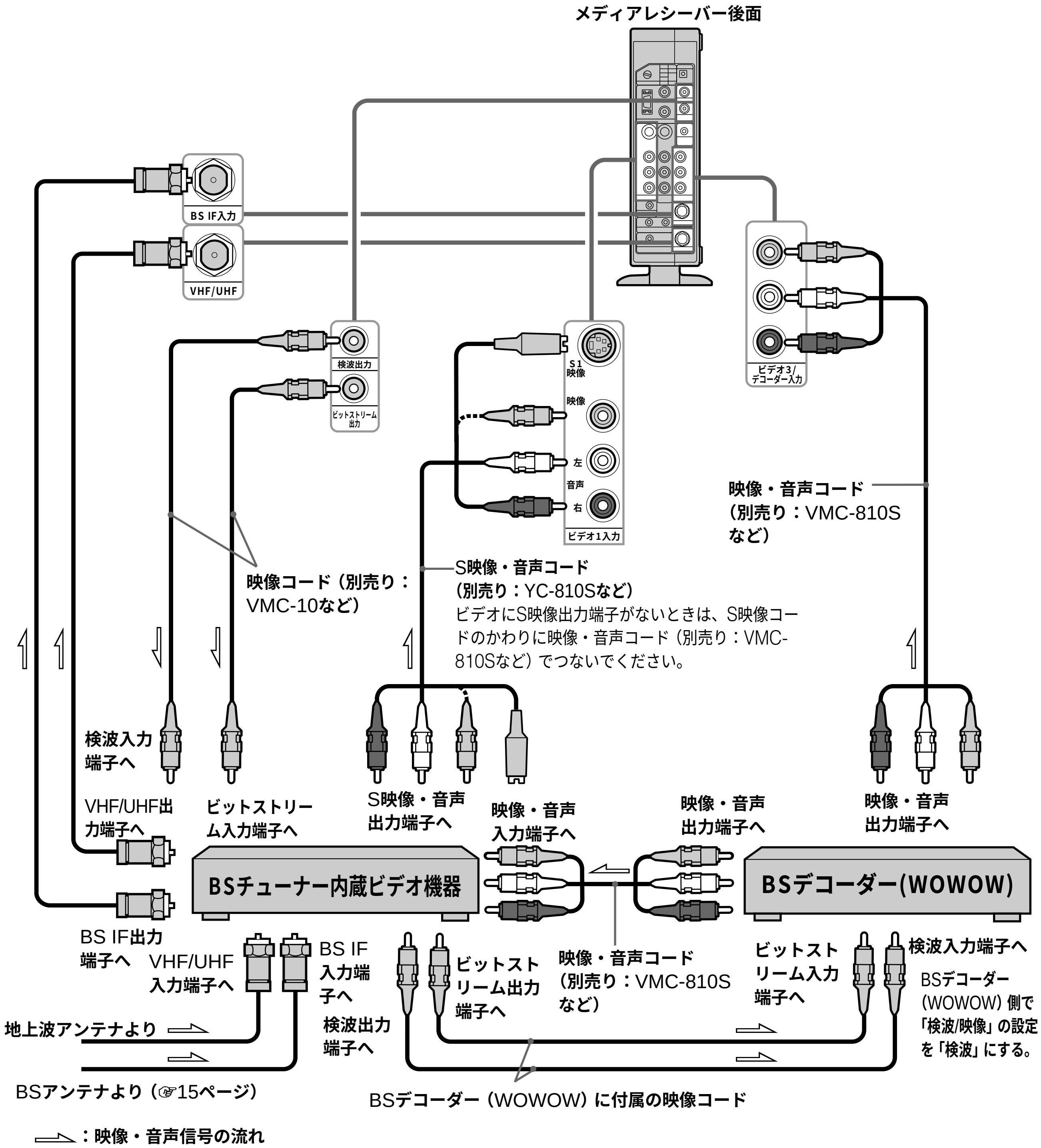
* 映像・音声コードを2本以上お使いになる場合は、別売りのVMC-20FRなどをお求めください。

ご注意

- WOWOWを録画するときは、本機側でWOWOWを受信し、録画してください。
- WOWOWも含めたBS放送を録画するときは、BS固定をしてください（☞65ページ）。BS固定をすると、ビデオをつないだ端子のビデオ入力を選んで、録画している画像を確認し、本機で受信しているBS放送がビデオに正しく録画されているかをチェックできます。BS固定をしないと、チャンネルを選んだときなどに、画像が乱れることがあります。
- BSデコーダー（WOWOW）は、必ずメディアレシーバーのビデオ3/デコーダー入力端子につないでください。ビデオ3/デコーダー入力端子以外につなぐと、チャンネルボタン（BS5/13）を押しても選局できません。

BSデコーダー（WOWOW）をつなぐ（つづき）

BSチューナー内蔵ビデオのとき



ご注意

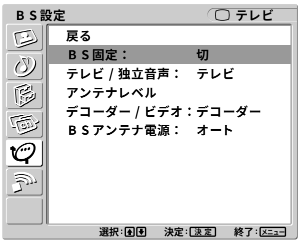
- WOWOWを録画するときは、ビデオ機器側でWOWOWを受信し、録画してください。
- ソニー以外のBSチューナー内蔵ビデオ機器の中には、上記の接続でWOWOWを録画できないビデオ機器があります。そのときは、ビデオ機器のメーカーのお客様窓口へご相談ください。
- BSデコーダー（WOWOW）は、必ずメディアレシーバーのビデオ3/デコーダー入力端子につないでください。ビデオ3/デコーダー入力端子以外につなぐと、チャンネルボタン（BS5/13）を押しても選局できません。

ビデオ3/デコーダー入力端子にBSデコーダー（WOWOW）をつなぐときは

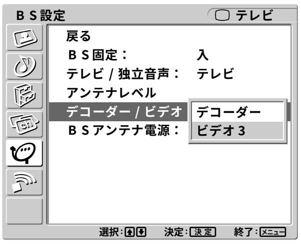
お買い上げ時は、ビデオ3入力端子として働くように設定されているため、**必ず設定し直してください。**

1 **メニューボタンを押して、メニューを出す。**

2 **↑/↓で「(BS設定)」を選び、決定ボタンを押す。**



3 **↑/↓で「デコーダー/ビデオ」を選び、決定ボタンを押す。**



4 **↑/↓で「デコーダー」を選び、決定ボタンを押す。**

5 **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

WOWOWを見るには

BSデコーダー（WOWOW）の電源を入れて、テレビのリモコンのBS5/13を押す。

独立音声放送を聞くには

BSデコーダー（WOWOW）をつないでいるときに独立音声放送を聞くときは、BSデコーダー（WOWOW）側で、音声を独立音声に切り換えてください（テレビで音声は切り換えられません)。ただし、独立音声放送を聞くには、WOWOWとは別に受信契約が必要です（ノンスクランブル放送のときを除く)。
また、BSデコーダー（WOWOW）をつながなくても、独立音声放送がノンスクランブル放送をしているときは、下記の操作を行うと独立音声放送を聞くことができます。

1 **テレビのリモコンのBS5/13を押す。**

2 **メニューボタンを押して、メニューを出す。**

3 **↑/↓で「(BS設定)」を選び、決定ボタンを押す。**

4 **↑/↓で「テレビ/独立音声」を選び、決定ボタンを押す。**

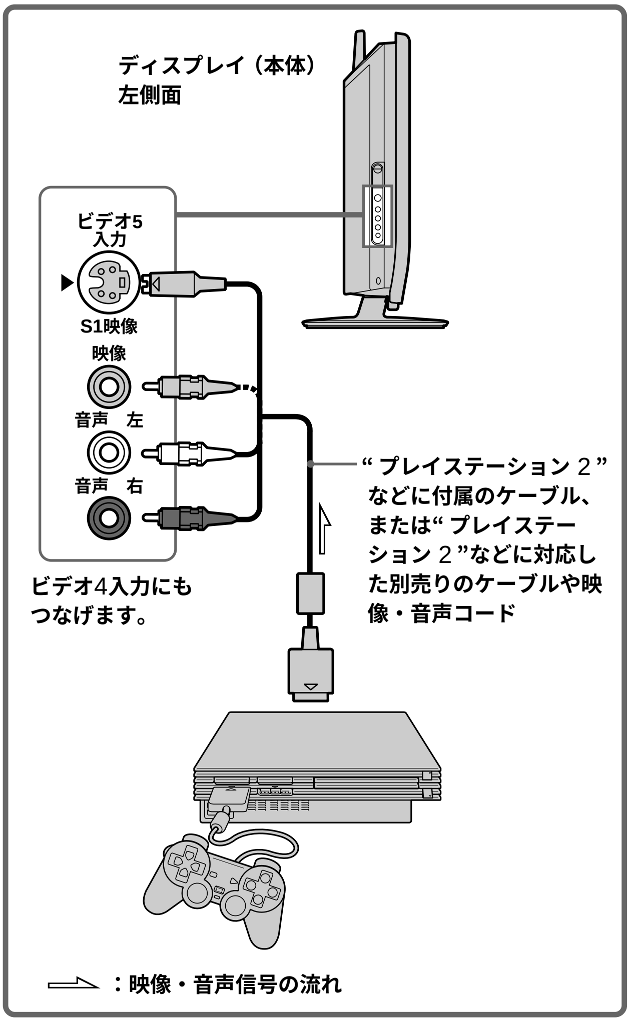
5 **↑/↓で「独立」を選び、決定ボタンを押す。**

6 **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

“ プレイステーション 2 ” などをつなぐ

“ プレイステーション 2 ”、
“ プレイステーション ”(PS one) および
“ プレイステーション ”の取扱説明書もあわせてご覧ください。

“ プレイステーション ”は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。
また、“ PS one ”は同社の商標です。

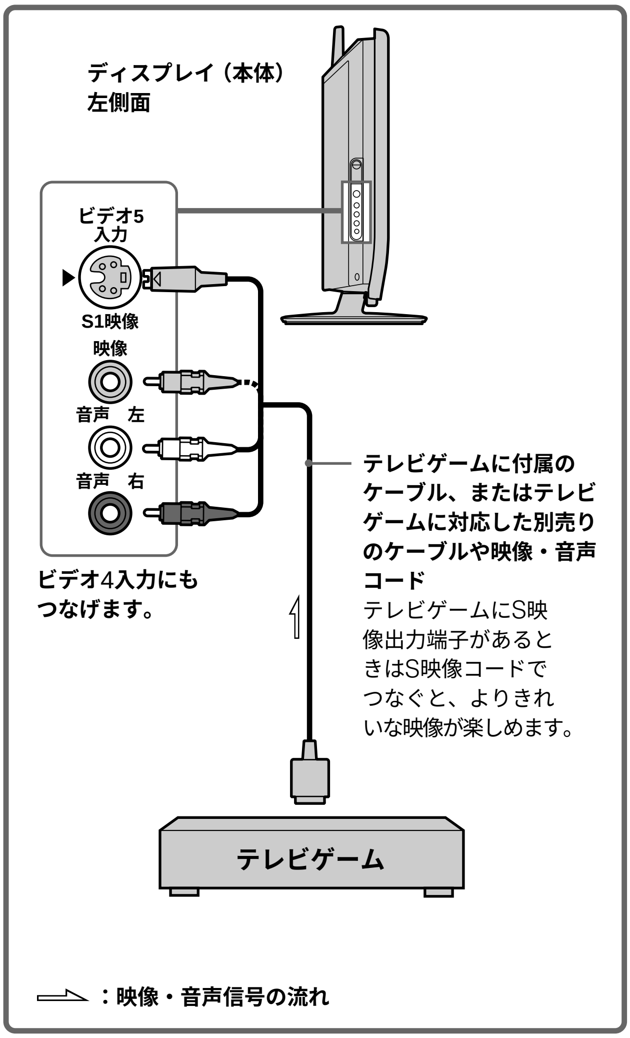


“ プレイステーション 2 ”、 “ プレイステーション ”(PS one) および “ プレイステーション ”を使うには

ビデオ4/5ボタンをくり返し押して、“ プレイステーション 2 ”などをつないだビデオ入力（「ビデオ5」または「ビデオ4」）を表示させる。
詳しくは、☞55ページをご覧ください。

その他のテレビゲームなどをつなぐ

テレビゲームの取扱説明書もあわせてご覧ください。



テレビゲームをするには

ビデオ4/5ボタンをくり返し押して、テレビゲームをつないだビデオ入力（「ビデオ5」または「ビデオ4」）を表示させる。
詳しくは、☞55ページをご覧ください。

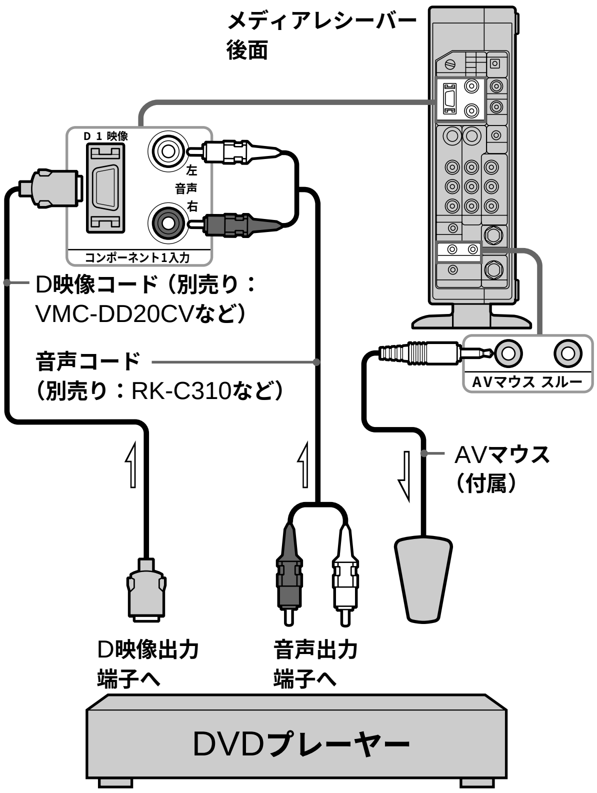
ご注意

- “ プレイステーション 2 ”などのテレビゲームは、ディスプレイ（本体）側の入力端子につないでください。メディアレシーバー側の入力端子につなぐと無線送受信による映像や音声の遅延などの影響を受けやすくなります。
- 電子的なライフルやガン（銃）などで標的にして楽しむシューティングゲームなどは、テレビの画面を使用できないことがあります。詳しくは、各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

DVDプレーヤーをつなぐ

コンポーネントビデオ出力端子のあるDVDプレーヤーはテレビのコンポーネント入力端子につなぐと、より高画質の画像をお楽しみいただけます。
DVDプレーヤーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

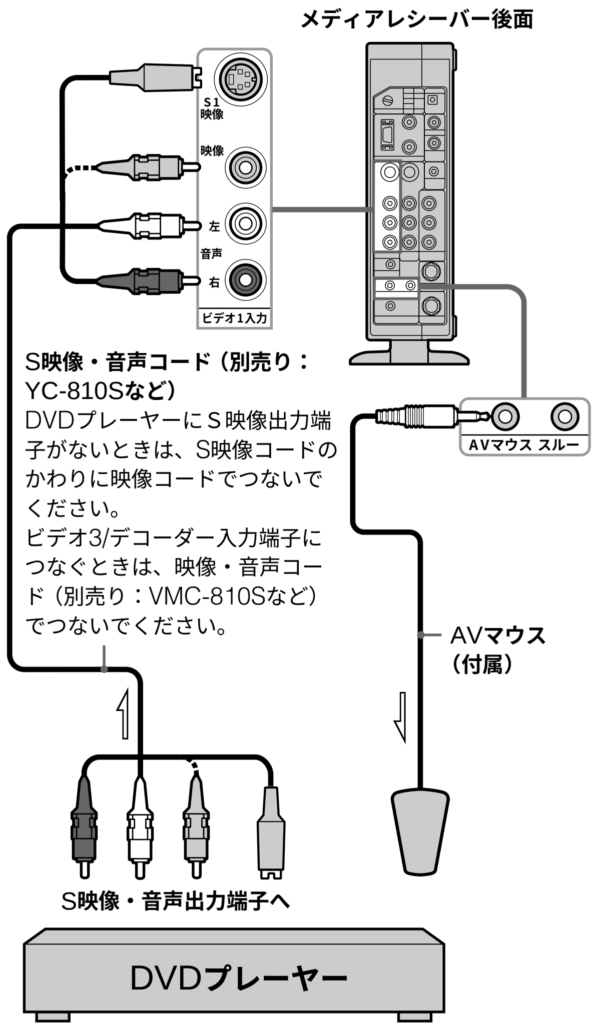
コンポーネントビデオ出力端子のあるDVDプレーヤーのときは



：映像・音声信号の流れ

D映像コードのかわりに、映像コード（別売り: VMC-DP20CVなど）を使ってY端子、 CB端子、 CR端子とD端子をつなぐこともできます。

コンポーネントビデオ出力端子のないDVDプレーヤーのときは



：映像・音声信号の流れ

DVDを見るには

コンポーネントビデオ出力端子のあるDVDプレーヤーのときは

コンポーネントボタンを押して、DVDプレーヤーをつないだコンポーネント1入力（「コンポーネント1」）を表示させる。
詳しくは、☞55ページをご覧ください。

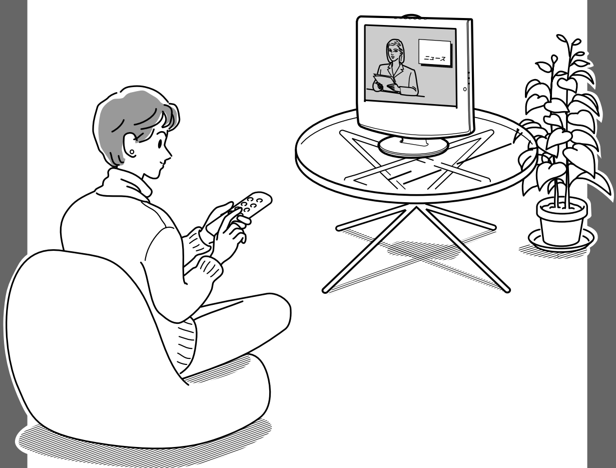
DVDを見るには

コンポーネントビデオ出力端子のないDVDプレーヤーのときは

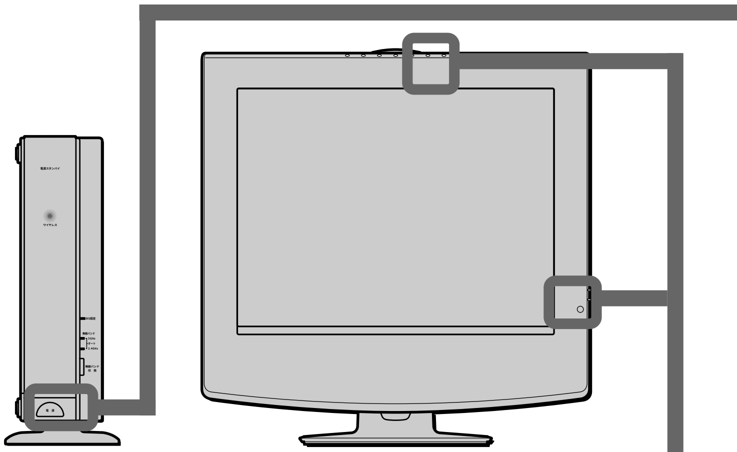
ビデオ1/2/3ボタンをくり返し押して、DVDプレーヤーをつないだビデオ入力（「ビデオ1」〜「ビデオ3」のいずれか）を表示させる。
詳しくは、☞55ページをご覧ください。

見る

ここでは、通常のテレビやBS放送をはじめ、ビデオやDVDプレーヤー、テレビゲームなどテレビにつないだ機器の映像を見るときの操作を説明しています。
映像に合った画質/音質に設定したり、節電しながら見たり、横長の画面にするなど、多彩な機能の操作も説明しています。

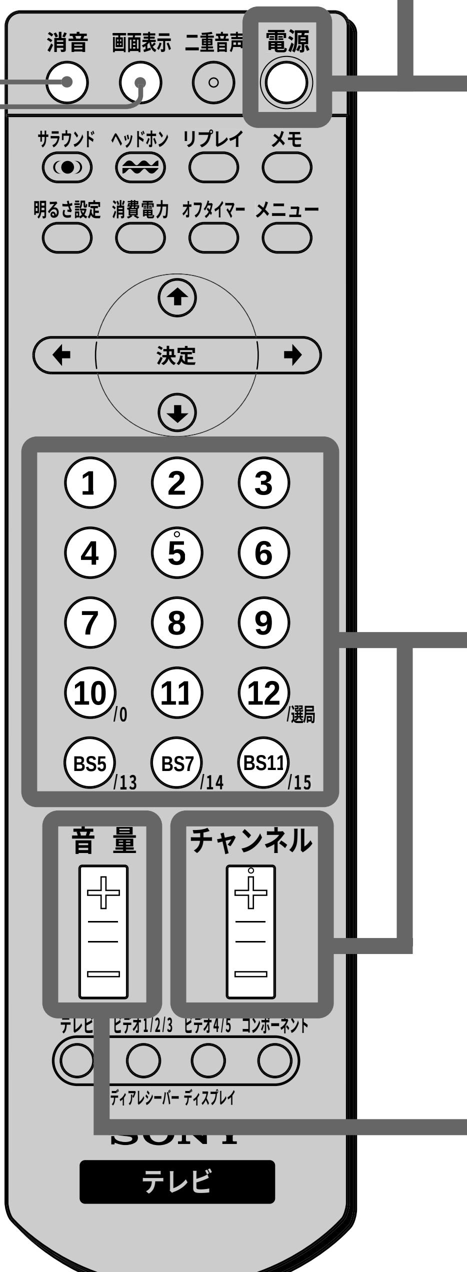


テレビ/BS放送を見る



消音ボタン
一時的に音を消すときに押します。もう1度押すか、音量＋ボタンを押すと音が出ます。

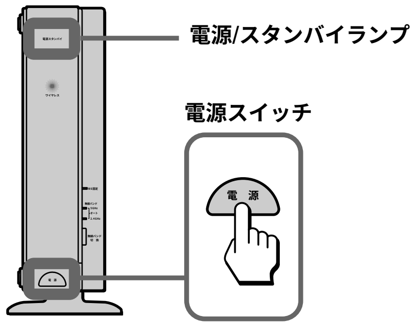
画面表示ボタン
チャンネル表示を出すときに押します。
もう1度押すと表示は消えます。



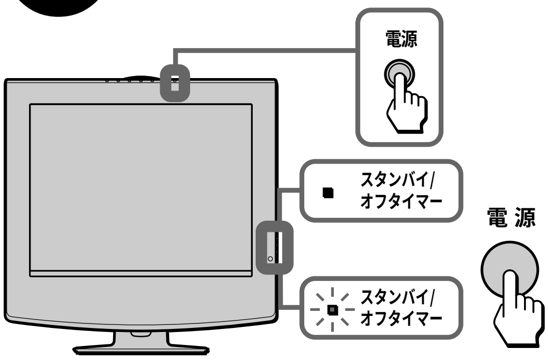
ちょっと一言
- スタンバイ/オフタイマーランプが赤く点灯しているときは、リモコンのチャンネル数字ボタンやチャンネル＋/－ボタンを押すと自動的に電源も入ります（チャンネルポン機能）。
- 省電力のため、放送が終了して（または放送のないチャンネルにしたまま）約10分過ぎると、「まもなく電源が切れます」と表示されて自動的にスタンバイモードになります。
- メディアレシーバーとディスプレイ（本体）の間の通信が10分間できず、ディスプレイ（本体）に映像が映っていないときは、「無線接続ができないためまもなく電源が切れます」と表示されて自動的にスタンバイモードになります。

❶ メディアレシーバーの電源を入れる。

メディアレシーバーの電源/スタンバイランプが緑色に点灯します。



❷ ディスプレイ（本体）の電源を入れる。



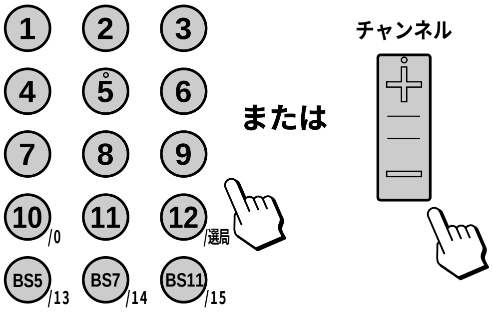
スタンバイ/オフタイマーランプが消えているときは
ディスプレイ（本体）上面の電源スイッチを押す。

スタンバイ/オフタイマーランプが赤く点灯しているときは
リモコンの電源ボタンを押す。

ご注意
ワイヤレス通信の接続確認のため、電源ボタンを押してから映像が映しだされるまでに10～15秒程度かかります。

❸ チャンネル数字ボタンでチャンネルを選ぶ。

チャンネル＋/－ボタンでもチャンネルを選べます。



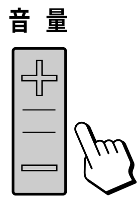
BS放送は以下のチャンネルになります。

見たい放送	押すボタン
WOWOW（BS5）*	BS5/13
NHK衛星第一（BS7）	BS7/14
NHK衛星第二（BS11）	BS11/15

* BSデコーダー（WOWOW）の電源を入れてください。なお、WOWOWは、別途WOWOWと受信契約し、専用のBSデコーダー（WOWOW）が必要です。

❹ 音量＋/－ボタンで音量を調節する。

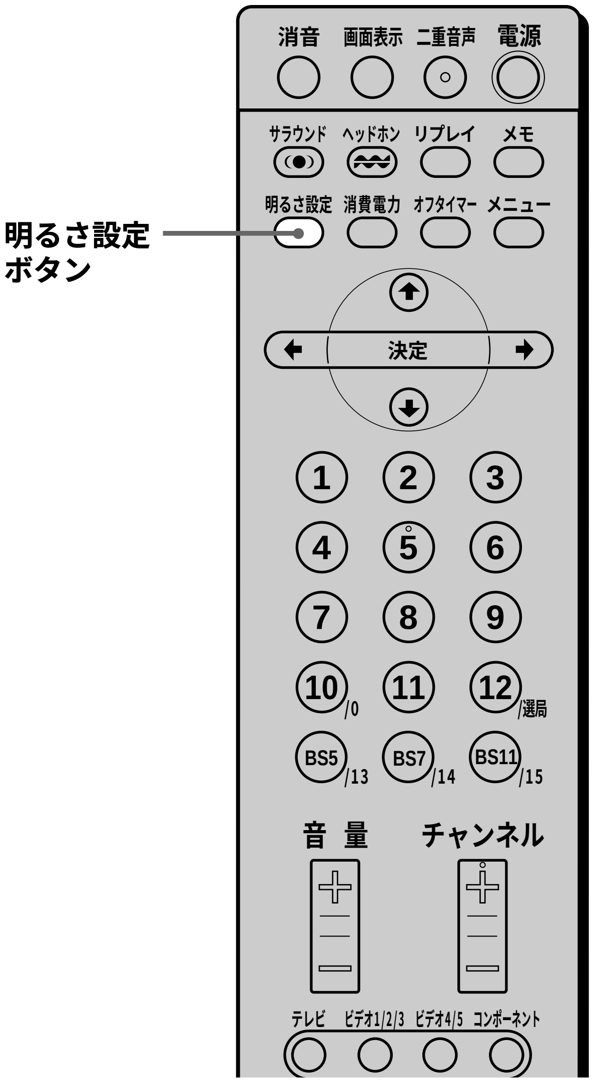
ちょっと一言
音量表示の上にある数値も調節の目安になります。



部屋の明るさに合った映像を選ぶ

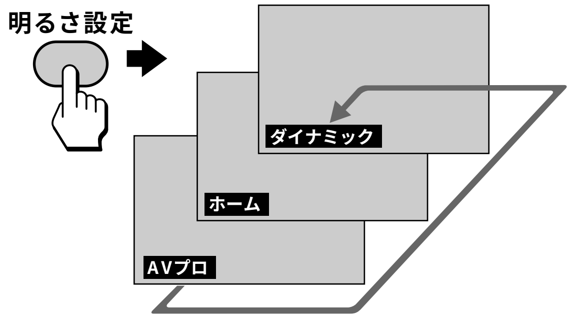
[明るさ設定ボタン]

明るさ設定ボタンを押すだけで、部屋の明るさに合った映像を選べます。また、「ホーム」、「AVプロ」を選ぶと、より細かく画質を調整できます（☞60ページ）。
明るさ設定は、入力切換用のボタンで選べる各入力ごとに別々に設定できます（通常のテレビ放送とBS放送も別々に設定できます）。
ご家庭で通常ご覧になるときは、「ホーム」を選ぶことをおすすめします。



明るさ設定ボタンをくり返し押す。

1回押すと、現在の明るさ設定が表示されます。その後、押すたびに次のように切り換わります。

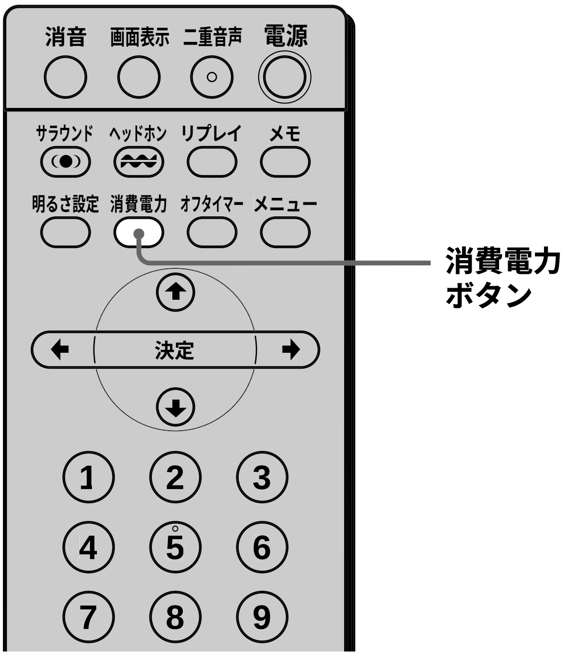


ダイナミック
映像の輪郭とコントラストを最大限に上げたメリハリの非常に強い映像になります。

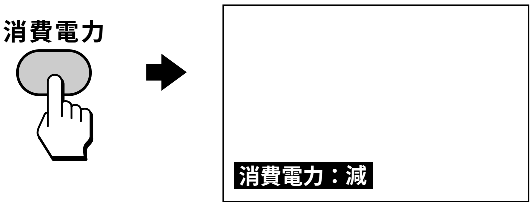
ホーム
ご家庭の様々な使用環境に適した、コントラスト感のある映像になります（☞60ページ）。

AV**プロ**
お好みの画質を自由に設定できます（☞60ページ）。

節電しながら見る
[消費電力ボタン]



消費電力ボタンを押す。



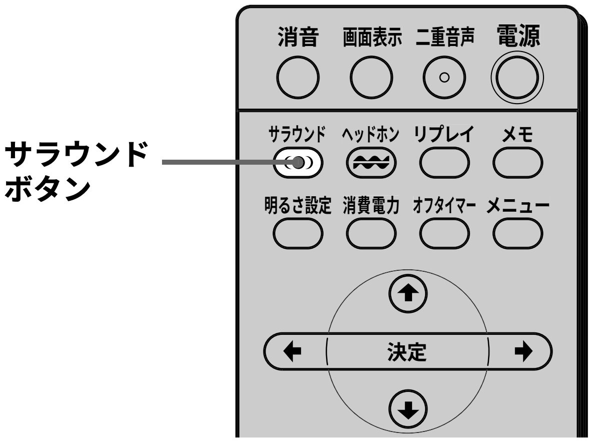
節電をやめるには

もう1度、消費電力ボタンを押す。
「消費電力：標準」と表示されます。

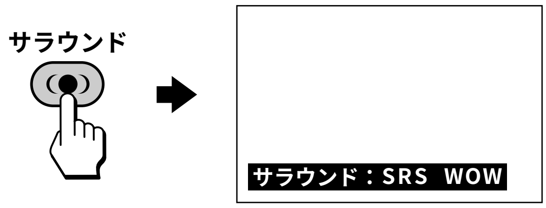
ちょっと一言

- 「消費電力：減」のときに電源を切ると、次に電源を入れたときも「消費電力：減」のままになります。
- 明るさ設定ボタンで「ホーム」または「AVプロ」を選んでいるときは、「消費電力：減」でも、画質を調整できます(☞60ページ)。ただし、「ピクチャー」や「明るさ」を上げると節電にならない場合があるため、おすすめしません。

サラウンドを楽しむ
[サラウンドボタン]



サラウンドボタンを押す。



サラウンドをやめるには

もう1度、サラウンドボタンを押す。
「サラウンド：切」と表示されます。

「SRS WOW*」

充分な低音とクリアな高音により豊かな臨場感が得られ、特に映画やゲームを迫力ある音で楽しめます。

* WOW, SRSと(●)記号はSRS Labs, Inc.の商標です。WOW技術はSRS Labs, Inc.からのライセンスに基づき製品化されています。
BBEハイディフィニションサウンドがフル作動してサウンドエフェクトを最大限に向上させます。

ご注意

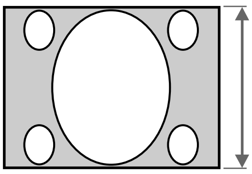
- ヘッドホン、コードレスヘッドホンで聴くときは、SRS WOWは働きません。
- モノラル音声のときは、SRS WOWの効果が充分に得られないことがあります。

横長の画面にする

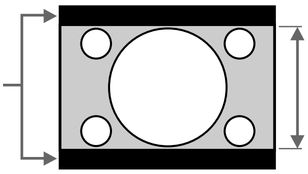
[ワイドモード]

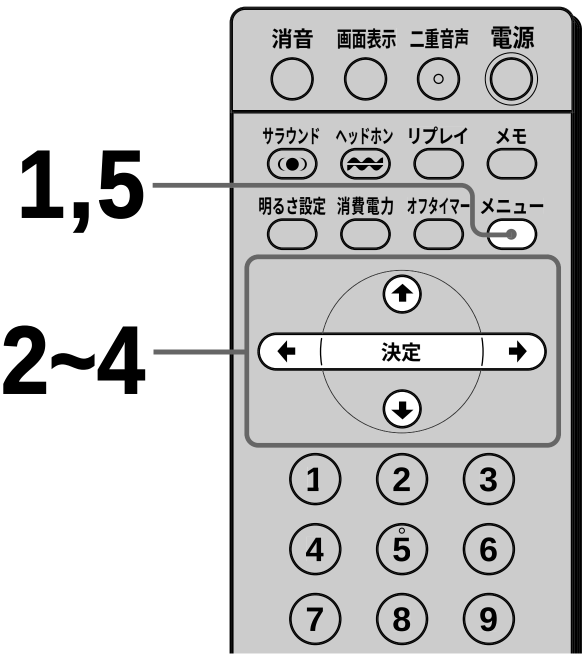
地上・BS・110度CSデジタル放送やDVDプレーヤー、ビデオカメラなどの横縦比16:9映像を縦長に記録した映像を、16:9のワイド映像に戻して見ることができます。

ワイドモード「切」のときの映像（16:9映像を縦長にした映像）

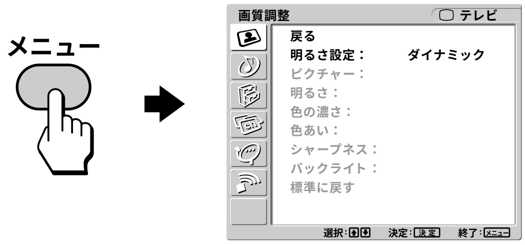


ワイドモードが働いているときの映像（16:9映像）

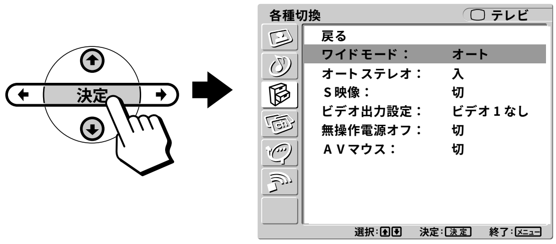




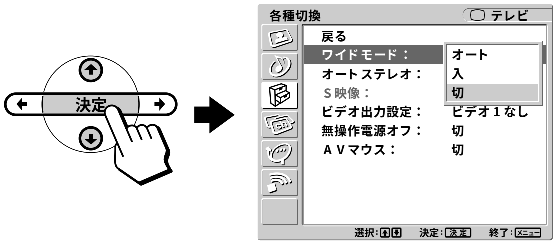
1 **メニューボタンを押す。**



2 **↑/↓で「(各種切換)」を選び、決定ボタンを押す。**



3 **↑/↓で「ワイドモード」を選び、決定ボタンを押す。**



4 **↑/↓で「オート」を選び、決定ボタンを押す。**

通常は、「オート」（お買い上げ時の設定）にしてください。

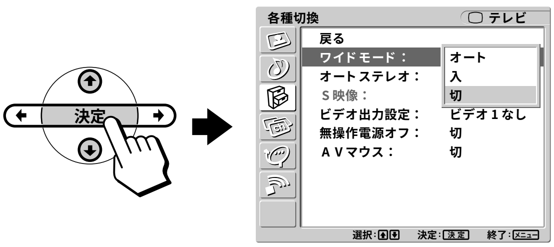
横縦比の信号（D1入力端子からの横縦比情報の入った地上・BS・110度CSデジタル放送やID-1/S1方式）を、自動判別して縦方向を圧縮した横縦比16:9のワイド画面にし、それ以外の映像はオリジナルそのままに映します。正しく判別されるようにつないでください。

つなぐ機器の映像出力端子の種類	コードの種類
D映像出力端子があるときは	D映像・音声コードでつなぐ（別売り：VMC-DD20CVなど）
S1映像出力端子があるときは	S映像・音声コードでつなぐ（別売り：YC-810Sなど）
ビデオID-1システム対応の映像出力端子があるときは	映像・音声コードでつなぐ（別売り：VMC-810Sなど）

表のいずれにもあてはまらないときは、「オート」で判別されずに、縦長の画像のまま表示されることがあります。その場合は、「ワイドモード：入」を選んでワイド画面にしてください。

「入」を選ぶと
すべての映像を縦方向に圧縮します。

「切」を選ぶと
すべての映像をオリジナルそのままに映します。



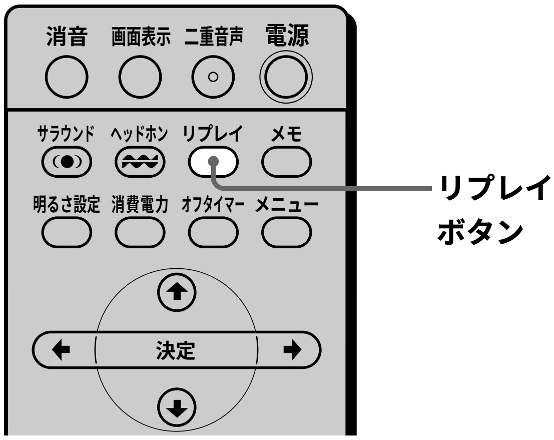
5 メニューボタンを押して、メニューを消す。

ワイドモードについてのご注意

- 通常のテレビ放送やBS放送など横縦比4:3の映像で、ワイドモードを「入」にすると、縦方向に圧縮されて不自然に見えます。
- ワイドモード機能を、喫茶店やホテル等で、営利目的、または公衆に視聴させる目的として使用すると、著作権法で保護されている著作者の権利を侵害する恐れがありますのでご注意願います。
- 上下に黒帯が入っている横長の映画などのワイド画像のときは、「オート」または「切」にしてください。
「入」を選ぶと、従来から入っていた黒帯の部分まで縦方向に圧縮されて、よりつぶれた映像になるためです。

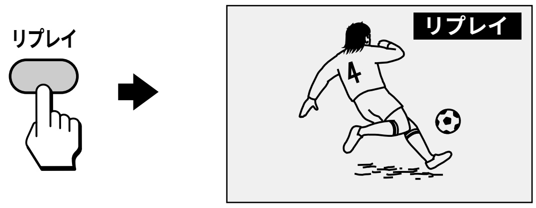
見逃したシーンをさかのぼって見る［リプレイボタン］

見逃したシーンがあっても、リプレイボタンを押すだけで、約10秒前の映像から見ることができます。



リプレイボタンを押す。

約10秒前から、リプレイボタンを押すまでの映像がくり返し流れます。リプレイをやめたいときは、もう一度リプレイボタンを押すか、チャンネルや入力を切り換えてください。



ご注意

- リプレイをやめた後は、現在放送中、または再生中の映像に戻ります。
- ディスプレイ（本体）の入力につないだ機器の映像には、リプレイボタンは働きません。
- 電源を入れたり、チャンネルや入力を切り換えたあと、また、リプレイをやめたあと約10秒間は、リプレイできません。
- リプレイ画面表示中はメモボタン、明るさ設定ボタン、およびメニューボタンは働きません。

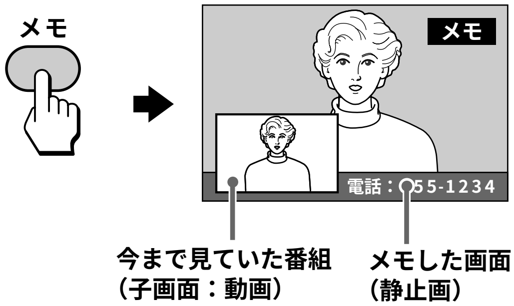
メモするために画面を静止させる

［メモボタン］

視聴者プレゼントの応募先や料理の材料など、メモしたい場面を静止画で確認できます。同時に今まで見ていた番組も子画面で引き続きお楽しみいただけます。また、子画面を画面四隅のお好みの位置に移動させることもできます。



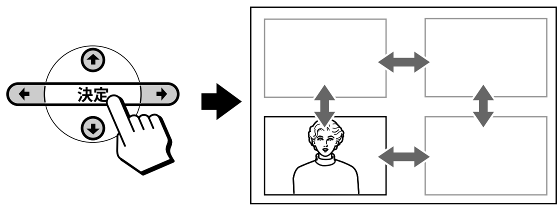
1 **静止させたい場面で、メモボタンを押す。**



画面が静止します。同時に画面の左下に子画面が出て、視聴中の番組が表示されます。

子画面位置を移動させたいときは

移動させたい方向に↑/↓/←/→を押す。



2 **メモボタンを押す。**

子画面が消えます。

3 **もう一度メモボタンを押す。**

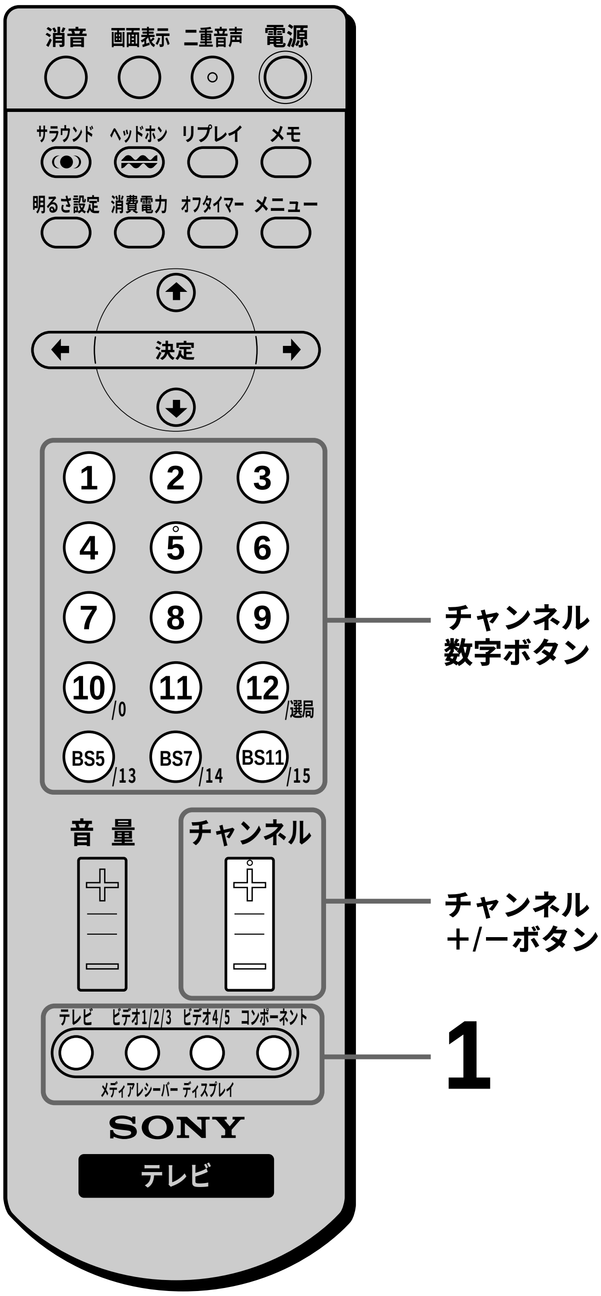
静止画が解除され通常画面に戻ります。

ご注意

- メモ画面表示中はリプレイボタン、明るさ設定ボタン、およびメニューボタンは働きません。
- メモ画面表示中にチャンネルや入力を切り換えると、メモ画面を解除します。

メディアレシーバーにつないだ機器の画像を見る

入力を切り換えて、メディアレシーバーにつないだビデオ機器やDVDプレーヤー、地上・BS・110度CSデジタルチューナー、デジタルCSチューナー、または、ディスプレイ（本体）につないだテレビゲームなどの画像を見ることができます。接続のしかたについては、☞33～47ページをご覧ください。



1 入力切換用のボタンを押して、見たい画像を選ぶ。

各ボタンを押すたびに、それぞれの端子につないだ機器の画像に切り換わります。

押すたびに	以下につないだ機器の画像になります。	画面表示も変わります。
ビデオ1/2/3	• ビデオ1入力端子	ビデオ1*1
	• ビデオ2入力端子	↓ ビデオ2*1
	• ビデオ3/デコーダー入力端子	↓ ビデオ3*2（→ ビデオ1に戻る）
ビデオ4/5	• ビデオ4入力端子	ビデオ4*3
	• ビデオ5入力端子	↕ ビデオ5*3
コンポーネント	• コンポーネント1入力端子	コンポーネント1(525i)
	• コンポーネント2入力端子	↕ コンポーネント2(525i)

*1 S1映像端子につなぎ、「(各種切換)」メニューの「S映像」を「入」にしているときは（☞33ページ）、「Sビデオ1」、「Sビデオ2」と表示されます。

*2「デコーダー/ビデオ」の設定を「デコーダー」に変えると「ビデオ3」は選べなくなります（☞45ページ）。

*3 S1映像端子につないでいるときは、「Sビデオ4」、「Sビデオ5」と表示されます。

2 接続している機器を操作する。

詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

ちょっと一言

AVマウスをつないでいるときは

機器のリモコンをディスプレイ（本体）に向けても機器を操作できます（☞35ページ）。

AVマウスをつないでいないときは

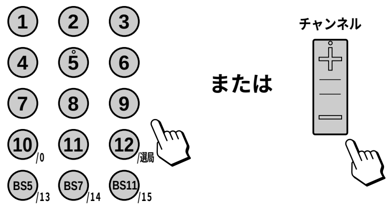
機器のリモコンを機器に向けて操作してください。

次のページにつづく

メディアレシーバーにつないだ機器の画像を見る（つづき）

テレビ画面に戻すときは

テレビボタン、チャンネル数字ボタンまたはチャンネル＋/－ボタンを押す。



ちょっと一言

ディスプレイ（本体）上部の入力切換ボタンをくり返し押しても、入力を切り換えられます。

テレビ→ビデオ1→ビデオ2→ビデオ3→ビデオ4
↑ ↓
コンポーネント2 ← コンポーネント1 ← ビデオ5

メディアレシーバーにつないだ機器を遠隔操作する

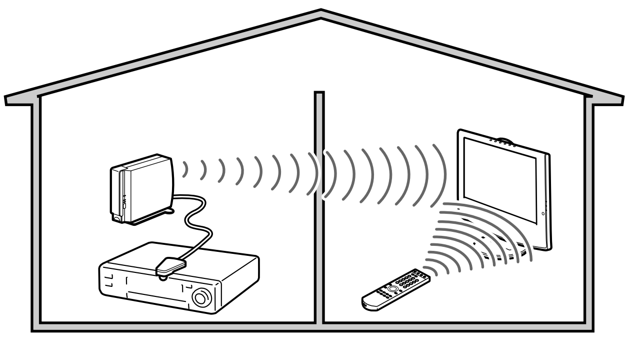
ディスプレイ（本体）を他の部屋に持ち運んで使うときなどに、メディアレシーバーに接続した機器のリモコンも一緒に持ち込めば、リモコンをディスプレイ（本体）に向けて機器を操作できます。
あらかじめAVマウスの接続を行ってください（☞35ページ）。

AVマウスの設定をする

1 **メニューボタンを押して、メニューを出す。**
2 **↑/↓で「（各種切換）」を選び、決定ボタンを押す。**
3 **↑/↓で「AVマウス設定」を選び、決定ボタンを押す。**
4 **↑/↓で「入」を選び、決定ボタンを押す。**
AVマウスを使わないときは、「切」を選びます。
5 **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

ご注意

AVマウスはリモコン信号が直接届かないときのみ「入」にしてください。リモコンからの信号とAVマウスからの信号が混信すると、リモコン操作ができない場合があります。



コードレスヘッドホンを使う
[コードレスヘッドホンボタン]

付属のコードレスヘッドホンを使って、周囲を気にせずテレビを見ることができます。コードレスヘッドホンを使うときはコードレスヘッドホンモードを切り換えてください。
コードレスヘッドホンを使うときは、はじめに付属の乾電池を入れてください。



ちょっと一言
別売りのMDR-IF140をお求めいただくと、二人以上でコードレスヘッドホンモードをお楽しみいただけます。

コードレスヘッドホンシステムについて

赤外線方式

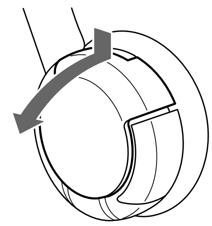
本機のシステムは赤外線の光を利用しています。外来ノイズなどの影響は受けにくい方式ですが、以下のような場合、ノイズが増えたり、音が聞こえなくなったりすることがあります（☞59ページ）。
- ディスプレイ（本体）との距離が赤外線の到達距離範囲外のとき
- ディスプレイ（本体）から発信された光が障害物や人の陰になって、さえぎられているとき

ミュート機能

耳への負担を減らすため、雑音が増えて音が聞こえにくくなると自動的に音が消えます（☞58ページ）。

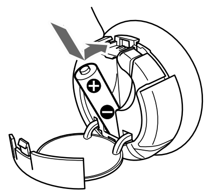
コードレスヘッドホンに電池を入れるには

1 左ハウジング部にある電池ぶたを開ける。



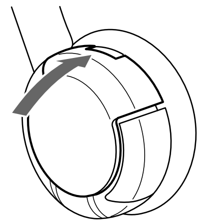
ご注意
電池のふたは取りはずさないでください。

2 付属の単4形乾電池を入れる。



ご注意
電池の＋/－を正しい向きに入れてください。

3 電池のふたを閉じる。



乾電池の持続時間

乾電池の種類	持続時間*1
ソニーアルカリ乾電池 LR03/AM-4(N)	約60時間*2
ソニーマンガン乾電池 R03/UM-4(NU)	約28時間*2

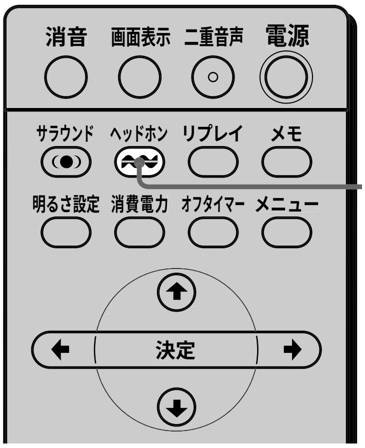
*1 1kHz,1mW＋1mW出力時
*2 周囲の温度や使用状態により、上記の持続時間と異なる場合があります。

電池の交換時期

電池が消耗してくると、コードレスヘッドホンの電源ランプが暗くなってきます。また、音がひずんだり、雑音が多くなります。その場合、電池を新しいものと交換してください。

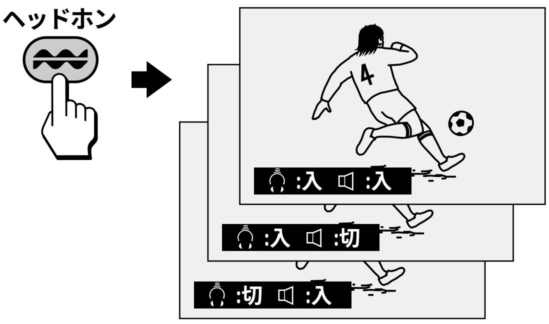
見る

コードレスヘッドホンモードを切り換える



コードレスヘッドホンボタンをくり返し押す。

1回押すと、現在の設定が表示されます。その後、押すたびに、次のように切り換わります。



画面表示	コードレスヘッドホン	ディスプレイスピーカー
🎧：切 🔈：入（電源を入れたときの設定）	音声は出力されません。	音声が出力されます。
🎧：入 🔈：切	音声が出力されます。	音声は出力されません。
🎧：入 🔈：入	両方から音声が出力されます。	

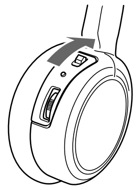
ちょっと一言

ディスプレイ（本体）の電源を切ると、コードレスヘッドホンモードは🎧：切 🔈：入 の状態に戻ります。

コードレスヘッドホンで音声を聞くには

1 コードレスヘッドホンの電源を入れる。

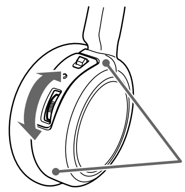
右ハウジング部上部の電源ランプが赤色に点灯します。電源を入れるときは、耳の保護のためコードレスヘッドホンの音量を下げてください。



2 コードレスヘッドホンをかける。

右ハウジング部（R）を右耳に、左ハウジング部（L）を左耳に合わせてください。

3 音量をコードレスヘッドホンのVOLつまみで調整する。



ちょっと一言

本機はすでにソニー赤外線アナログコードレス・ステレオヘッドホンをお使いの方は聞くことができます。

ご注意

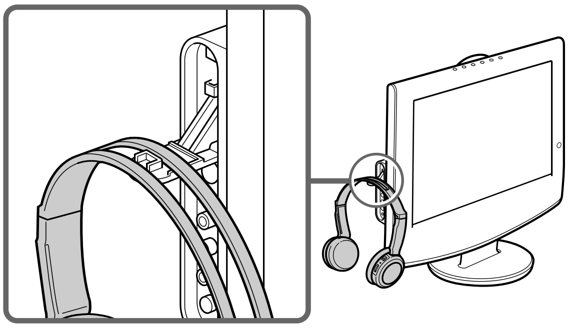
- リモコンの音量ボタンでは、本体スピーカーとヘッドホン端子につないだヘッドホンの音量のみ調整できます。
- コードレスヘッドホンで聴くときは、サラウンドおよび音質の調整は効果がありません。
- 赤外線受光部を手や髪でおおわないようにご注意ください。

雑音が増えると自動的に音が聞こえなくなります－ミュート機能

赤外線の届く範囲から離れたり、赤外線がさえぎられたりすると、雑音が増え、音が聞こえにくくなります。この雑音による耳への負担を減らすため、自動的にミュート機能が働き、コードレスヘッドホンから音が聞こえなくなります。ディスプレイ（本体）に近づくか、赤外線がさえぎられないようにすれば、自動的にミュート状態は解除されます。

コードレスヘッドホンを使わないときは

使い終わったら必ず電源を切ってください。また、ディスプレイ（本体）の左側面のコードレスヘッドホンホルダーをおろしてコードレスヘッドホンを掛けておけます。



中央の隙間にコードレスヘッドホンホルダーのツメが入るようにします。

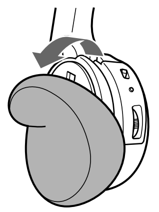
ご注意

コードレスヘッドホンホルダーには付属のコードレスヘッドホン以外掛けないでください。コードレスヘッドホンホルダーが壊れることがあります。

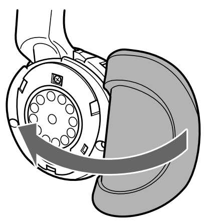
イヤーパッドを交換するには

イヤーパッドは消耗品です。汚れたり破損した場合は、イヤーパッドを交換してください。イヤーパッドは市販されていませんので、お買い上げ店またはソニーサービス窓口へお問い合わせの上、お取り寄せください。

1 古くなったイヤーパッドをはずす。

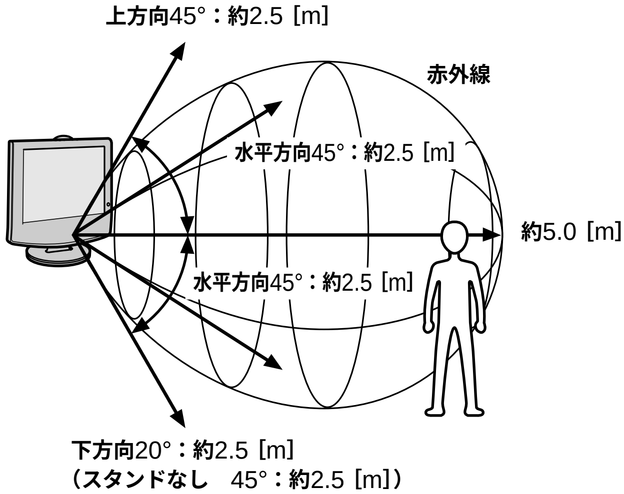


2 イヤーパッドをハウジングの外周に合わせるようにはめ込む。



コードレスヘッドホンの赤外線到達距離について

ディスプレイ（本体）からの赤外線の届く範囲はおおよそ下図のとおりです。

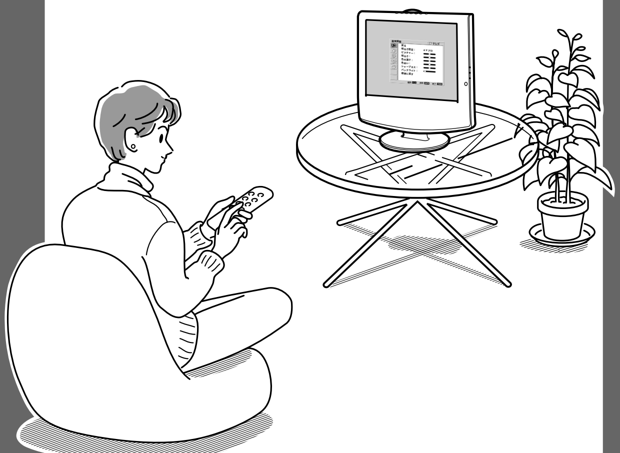


ご注意

- このシステムは赤外線を使用しているため、上図の範囲内であってもディスプレイ（本体）から離れるにしたがって、雑音が増えます。また、赤外線がさえぎられた場合は音がとぎれたり、雑音が入ることがあります。これらの現象は赤外線の特性によるもので、故障ではありません。
- ディスプレイ（本体）はコードレスヘッドホンに対して前方、後方、横方向に置いてもコードレスヘッドホンをお使いになる位置が図の範囲内であればお使いになれます。
- ディスプレイ（本体）の位置やお使いになる場所の状況により聞こえかたが異なります。なるべく聞こえやすい位置でお使いになることをおすすめします。
- 直射日光などの強い光線の下で使わないでください。音がとぎれる場合があります。
- プラズマディスプレイからの光の影響を受け、ご使用できない場合があります。

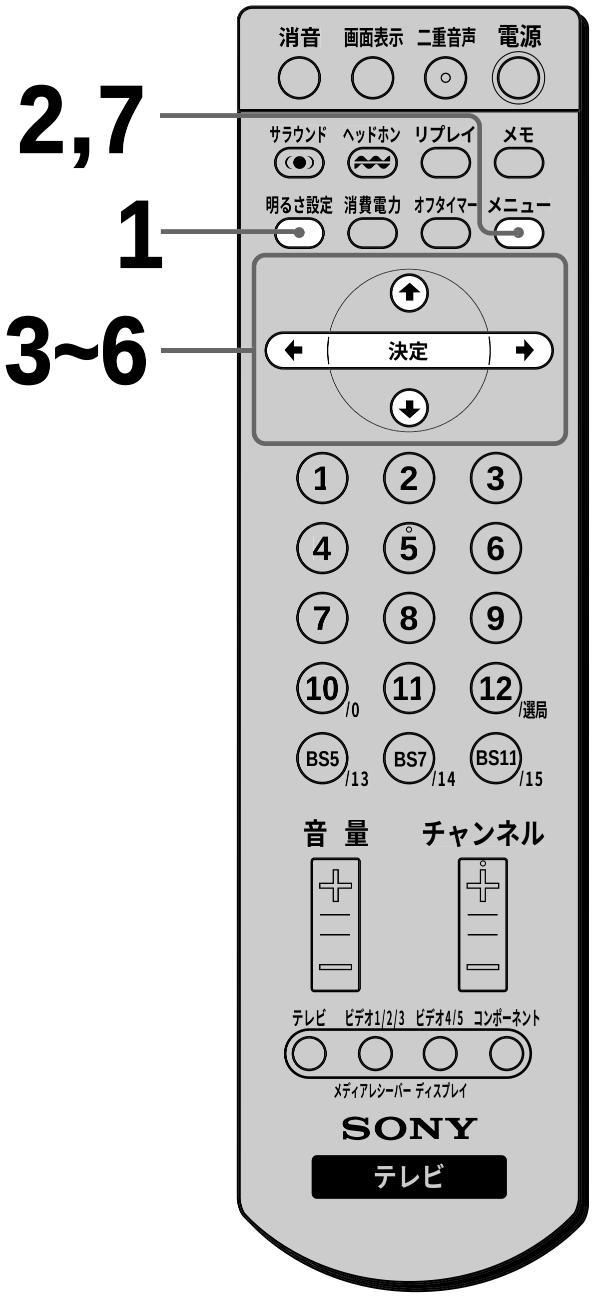
調整する/設定する

ここでは、画質や音質を調整する応用的な操作を説明しています。
BS放送をビデオに録画したり、予約録画したりするときの操作も説明しています。
また、テレビに内蔵されているタイマーを使って、自動的に電源を切ったりする操作も説明しています。



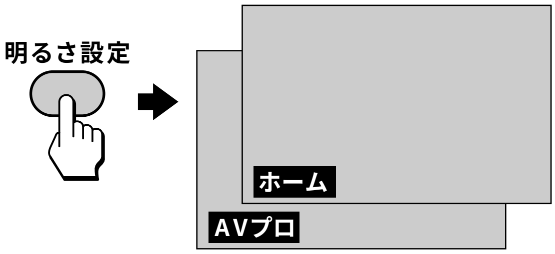
より細かく画質を調整する

明るさ設定ボタンで「ホーム」または「AVプロ」を選ぶと、画質をより細かく調整できます。
画質は、入力切換用のボタンで選べる各入力ごとに設定できます（通常のテレビ放送とBS放送を別々に設定できます）。

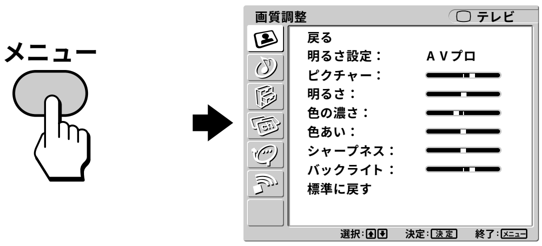


1 明るさ設定ボタンをくり返し押して、「ホーム」または「AVプロ」を選ぶ。

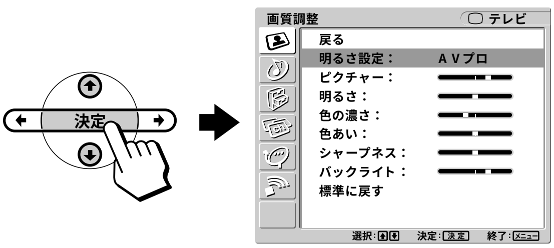
ご注意
「ダイナミック」（☞50ページ）では、画質調整できません。



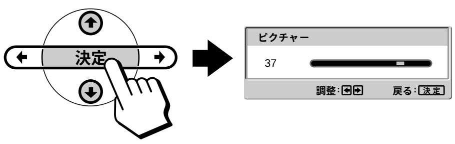
2 メニューボタンを押す。



3 ↑/↓で「（画質調整）」を選び、決定ボタンを押す。



4 ↑/↓で調整したい項目を選び、決定ボタンを押す。



5 ↑/↓/←/→で調整し、決定ボタンを押す。



調整できる項目

項目	↓/←を押すと	↑/→を押すと
ピクチャー	明暗の差が小さくなる	明暗の差が大きくなる
明るさ	暗くなる	明るくなる
色の濃さ	薄くなる	濃くなる
色あい	赤みがかる	緑がかる
シャープネス	映像の輪郭が柔らかくなる	映像の輪郭がくっきりする
バックライト	画面が暗くなる	画面が明るくなる

ちょっと一言
調整バーの横に表示される数値も調整の目安になります。

6 他の項目を調整するときは、手順4と5をくり返す。

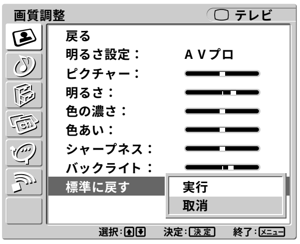
7 メニューボタンを押して、メニューを消す。

次のページにつづく

より細かく画質を調整する（つづき）

お買い上げ時の状態に戻すには

1 **手順4で「標準に戻す」を選び、決定ボタンを押す。**

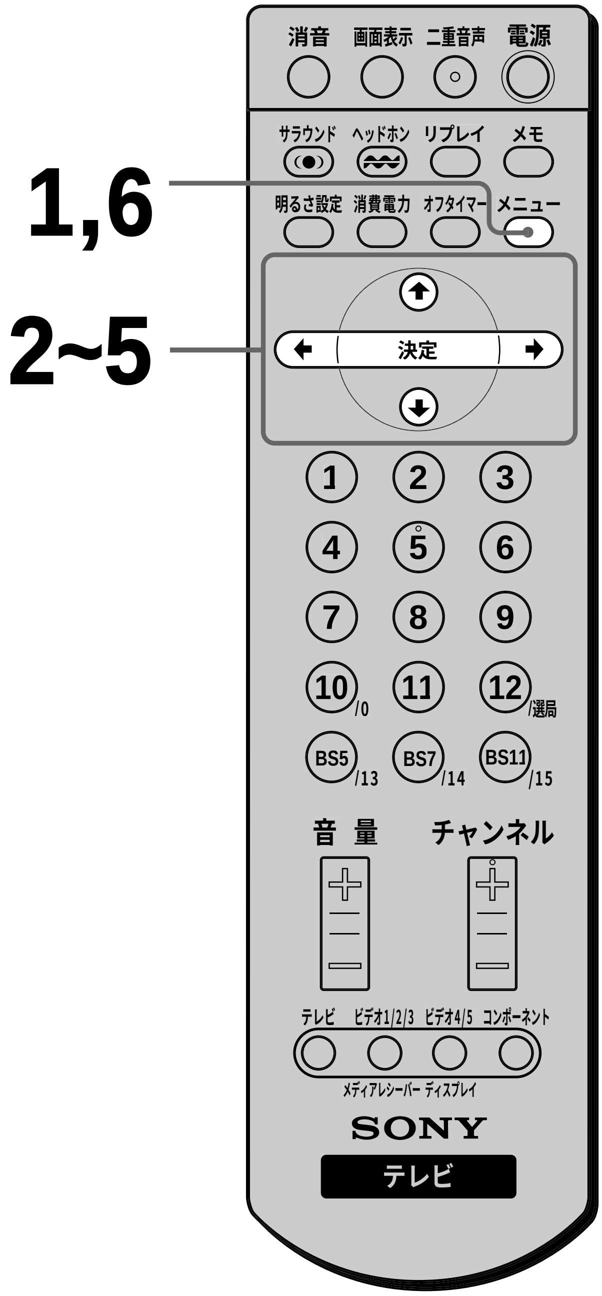


2 **↑/↓で「実行」を選び、決定ボタンを押す。**

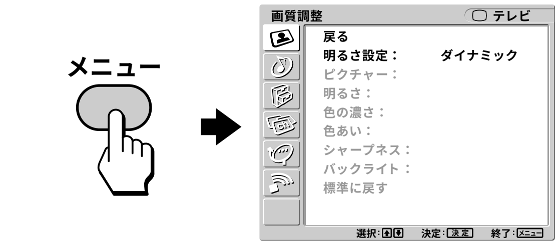
3 **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

音質を調整する

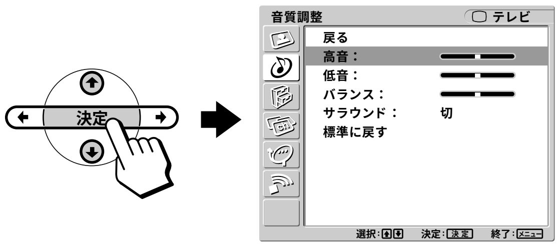
音質は、入力切換用のボタンで選べる各入力ごとに設定できます（通常のテレビ放送とBS放送を別々に設定できます）。
ここでは「サラウンド」（☞51ページ）以外の音質「バランス」、「低音」、「高音」について説明します。



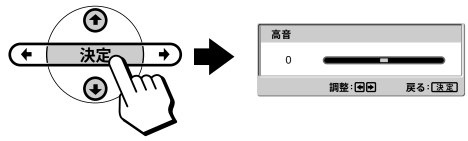
1 メニューボタンを押す。



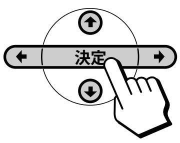
2 ↑/↓で「(音質調整)」を選び、決定ボタンを押す。



3 ↑/↓で調整したい項目を選び、決定ボタンを押す。



4 ↑/↓/←/→で調整し、決定ボタンを押す。



項目	↓/←を押すと	↑/→を押すと
高音	弱くなる	強くなる
低音	弱くなる	強くなる
バランス	左側の音が強くなる	右側の音が強くなる
サラウンド	☞51ページをご覧ください。	

ちょっと一言

調整バーの横に表示される数値も調整の目安になります。

5 他の項目を調整するときは、手順3と4をくり返す。

6 メニューボタンを押して、メニューを消す。

お買い上げ時の状態に戻すには

1 手順3で「標準に戻す」を選び、決定ボタンを押す。



2 ↑/↓で「実行」を選び、決定ボタンを押す。

3 メニューボタンを押して、メニューを消す。

音声を切り換える
[二重音声ボタン]

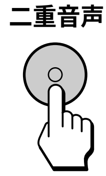
二か国語放送など二重音声放送のときに、聞きたい音声を選べます。



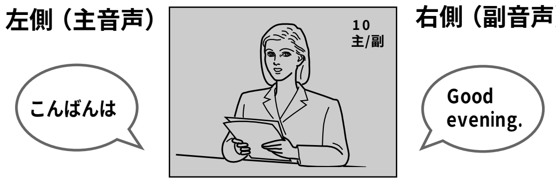
二重音声ボタン

二重音声ボタンをくり返し押す。

押すたびに下表のように切り換わります。



画面表示	左スピーカーの音声	右スピーカーの音声
主	両方とも主音声	
副	両方とも副音声	
主/副	主音声	副音声



例：「主/副」を選んだとき

通常のテレビ（VHF/UHF）のステレオ放送で雑音が気になるときは

音声をモノラルにして、チャンネルごとに雑音を軽減できます。

1. **雑音の多いチャンネルを映した状態で、メニューボタンを押して、メニューを出す。**
2. **↑/↓で「(各種切換)」を選び、決定ボタンを押す。**
3. **↑/↓で「オートステレオ」を選び、決定ボタンを押す。**
4. **↑/↓で「切」にして、決定ボタンを押す。**
5. **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

ちょっと一言

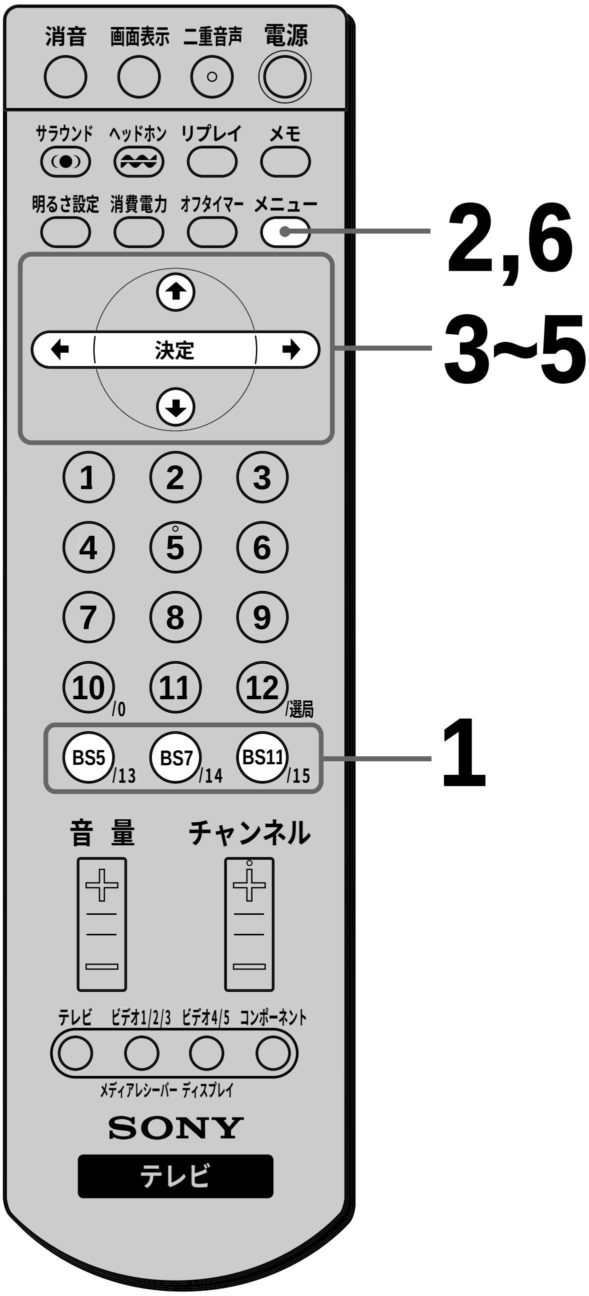
BS放送では放送内容により、以下の音質表示が画面右上に出ます。

- 「A」：Aモード（FM放送とほぼ同じ音質）を受信。
- 「B」：Bモード（Aモードより高音質でCDとほぼ同じ音質）を受信。
- 「独立」：BS5チャンネルの独立音声放送を受信。
- 「ステレオ」：ステレオ放送を受信（通常のテレビ放送でも表示）。

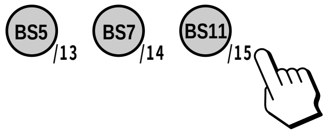
なお、AモードとBモードは、番組内容に応じて放送局側が使い分けて送信するものを、テレビが自動的に判別して受信するため、二重音声ボタンなどで切り換えることはできません。

BS放送を録画/予約録画する
[BS固定]

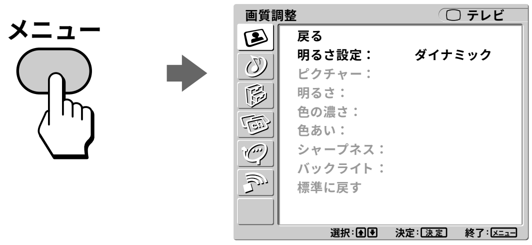
このテレビ内蔵のBSチューナーでBS放送を受信し、メディアレシーバーにつないでいるビデオに録画できます。また、録画するBSチャンネルを固定して、48時間以内の予約録画もできます。
あらかじめ、「ビデオなどをつなぐ」（☞33ページ）をしておいてください。



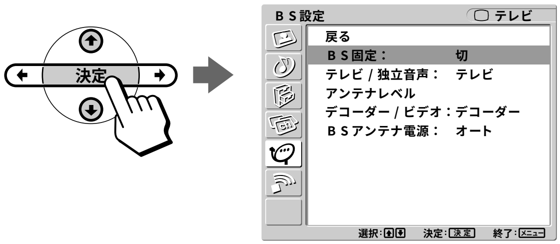
1 録画したいBSチャンネルを選ぶ。



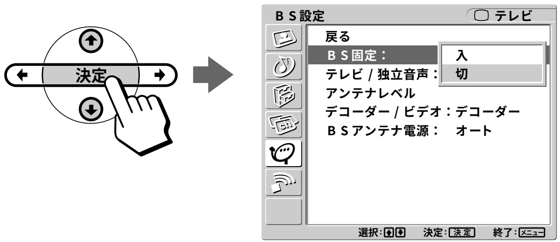
2 メニューボタンを押す。



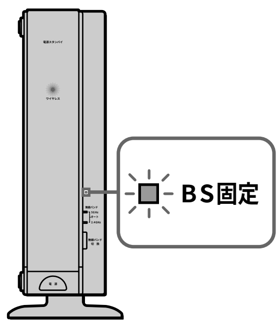
3 ↑/↓で「(BS設定)」を選び、決定ボタンを押す。



4 ↑/↓で「BS固定」を選び、決定ボタンを押す。



5 ↑/↓で「入」を選び、決定ボタンを押す。
BSチャンネルとBS出力/ビデオ出力端子から出る信号が固定されて、他のBSチャンネルに切り換わらなくなります。また、音声も同時に切り換わらなくなります。



メディアレシーバー前面のBS固定ランプが緑色に点灯します。

次のページにつづく

調整する／設定する

BS放送を録画/予約録画する［BS固定］（つづき）

6 メニューボタンを押して、メニューを消す。

7 S映像入力端子付きビデオのときは、ビデオ側で映像入力端子の信号を優先する設定にする。

メディアレシーバーのBS出力/ビデオ出力端子は映像出力端子のため、ビデオ側でS映像入力端子の信号を優先する設定にしてあると、映像信号がビデオに入力されないため、録画されません。詳しくは、ビデオの取扱説明書をご覧ください。

8 ビデオを「外部入力（ライン入力）」に切り換えて、録画を始める。

詳しくは、ビデオの取扱説明書をご覧ください。

見ながら録画するときは

BS固定したBSチャンネルで、そのままお楽しみください。他のBSチャンネルには切り換わりません。また、音声も切り換わりません。

裏番組として録画するときは

BSを録画しながら通常のテレビ（VHF/UHF）やビデオを見ることができます。見たいチャンネルやビデオ入力などを選んでください。他のBSチャンネルには切り換わりません。また、音声も切り換わりません。

予約録画するときは

ビデオで「外部入力（ライン入力）」を録画予約し、ディスプレイ（本体）の電源を切る。

メディアレシーバーの電源は切らないでください。BSチューナー部の電源は48時間電源が入ったままになります（メディアレシーバーのBS固定ランプが点灯）。

ご注意

- メディアレシーバーの電源を切ったり、電源コードを抜いたりすると、録画できなくなります。
- WOWOWなどスクランブル放送を録画するときは、BSデコーダー（WOWOW）の電源を入れたままにしてください。

録画が終わったら/BS固定をやめるには

BS固定したチャンネルを選んで、☞65ページの手順1から4までを行い、手順5で「切」を選び、決定ボタンを押す。

BS固定ランプが消えてBS固定が解除され、他のBSチャンネルを選べます。

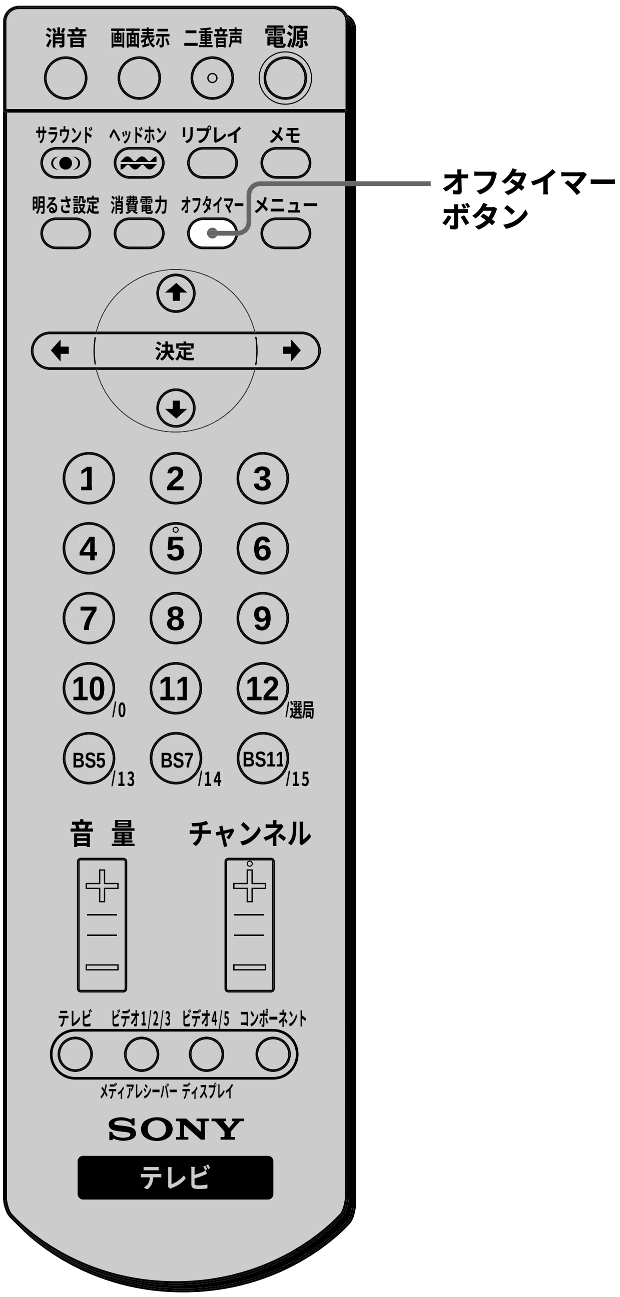
ちょっと一言

- 独立音声放送を録音するときは、「(BS設定)」メニューで、「テレビ/独立音声」を「独立」にしてください。また、BSデコーダー（WOWOW）でも独立音声を選んでください。
- BS固定は、48時間を経過すると自動的に解除されます。

自動で電源を切る

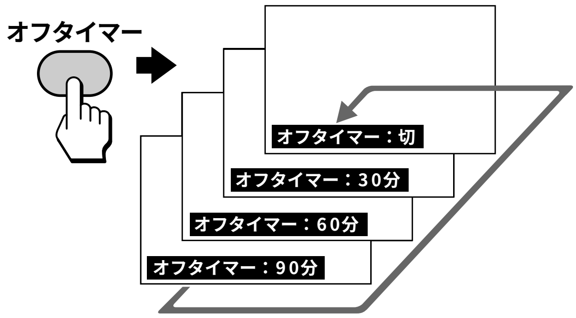
オフタイマーを設定する

見ている番組の終わる時間などに合わせて、自動的にテレビの電源を切るように設定できます。設定できる時間は30分、60分、90分後です。



オフタイマーボタンをくり返し押す。

押すたびに、次のように時間が変わります。また、ディスプレイ（本体）のスタンバイ/オフタイマーランプが赤く点灯します。



オフタイマーを途中でやめるには

オフタイマーボタンをくり返し押して、「オフタイマー：切」を選ぶ。

ちょっと一言

- オフタイマーが働いているときに、オフタイマーボタンを押すと、電源が切れるまでの残り時間（例：「オフタイマー：あと17分」）が表示されて、数秒後に消えます。
- 電源を入れ直したときは、「オフタイマー：切」に戻ります。
- 電源が切れる1分前になると、「オフタイマーによりまもなく電源が切れます」と表示されます。メニューなどを開いているときは、「オフタイマーによりまもなく電源が切れます」と表示されないこともあります。

次のページにつづく

3時間操作をしなかったときに自動で電源を切る（無操作電源オフ）

省電力のため、ディスプレイ（本体）およびリモコンで操作を3時間しなかったときに、「無操作電源オフによりまもなく電源が切れます」と表示され、自動で電源をオフ（スタンバイモード）にするように設定できます。
お買い上げ時は、「切」に設定されています。

1 メニューボタンを押して、メニューを出す。

2 ↑/↓で「(各種切換)」を選び、決定ボタンを押す。

3 ↑/↓で「無操作電源オフ」を選び、決定ボタンを押す。

4 ↑/↓で「入」または「切」を選び、決定ボタンを押す。

5 メニューボタンを押して、メニューを消す。

ちょっと一言

- 放送終了後、または放送のないチャンネルにしたままの状態で、約10分過ぎると、「まもなく電源が切れます」と表示されて自動的にスタンバイモードになります。
- メディアレシーバーとディスプレイ（本体）の間の通信が10分間できず、ディスプレイ（本体）に映像が映っていないときは、「無線接続ができないためまもなく電源が切れます」と表示されて自動的にスタンバイモードになります。

無線（ワイヤレス）接続状態を確認する

ワイヤレスの接続状態をメディアレシーバー前面の無線（ワイヤレス）ランプおよびディスプレイ（本体）のメニュー画面で確認できます。
また、設置場所や周囲の環境などに応じて接続状態を調整できます。

無線接続状態を確認する

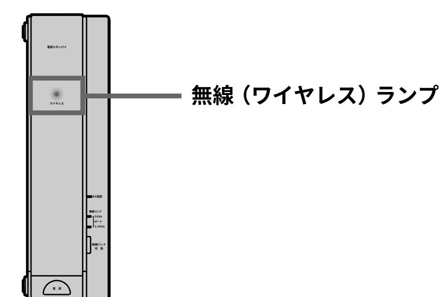
メディアレシーバーとディスプレイ（本体）のそれぞれで接続状態のレベルを確認できます。
無線接続強度に表示される調整バーのカーソル位置が右にあるほど、良好な接続状態にあります。
無線接続強度が低いときや接続状態が安定していないときは、「よりよい接続状態を確保する」（☞71ページ）、「ケーブルで直接接続する」（☞71ページ）をご覧ください。

メディアレシーバー側で無線接続強度を確認するには

メディアレシーバーとディスプレイ（本体）の電源を入れると、無線（ワイヤレス）ランプの点滅で、無線接続強度を確認することができます。

メディアレシーバー無線（ワイヤレス）ランプの状態	ディスプレイ（本体）無線接続強度	接続状態
8秒点灯し、2秒消灯	右端	強
4秒点灯し、2秒消灯	↑	中
2秒点灯し、2秒消灯	↓	弱
2秒点灯し、8秒消灯	左端	圏外または不通

メディアレシーバー前面

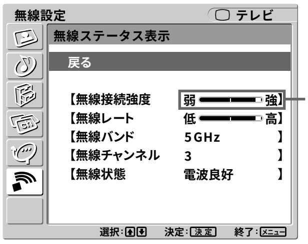


ディスプレイ（本体）側で無線接続状態を確認するには

1 メニューボタンを押して、メニューを出す。

2 ↑/↓で「(無線設定)」を選び、決定ボタンを押す。

3 ↑/↓で「無線ステータス表示」を選び、決定ボタンを押す。



右にいくほど通信状態がよい

項目	説明
無線接続強度	無線接続状態の強さを表します。カーソル位置が「強」に近いほど良好な接続状態にあります。
無線レート	無線で送信中の映像や音声の情報量を表します。 カーソルが「高」に近いほど高画質な状態にあります。
無線バンド	現在選択されている無線バンド（5GHz/2.4GHz）を表示します。
無線チャンネル	現在選択されている無線チャンネル（1〜7）を表示します。 1〜4chが5GHz用、5〜7chが2.4GHz用です（☞73ページ）。
無線状態	「無線状態スキャン」を実行した直後に、その結果を表示します（☞右記）。

ご注意

「無線ステータス表示」は無線の設定を確認するためのメニューです。無線接続の調整について、詳しくは、「無線接続について」（☞72ページ）をご覧ください。

4 メニューボタンを押して、メニューを消す。

無線状態を再確認（無線状態スキャン）するには

1 メニューボタンを押して、メニューを出す。

2 ↑/↓で「(無線設定)」を選び、決定ボタンを押す。

3 ↑/↓で「無線状態スキャン」を選び、決定ボタンを押す。

4 ↑/↓で「開始」を選び、決定ボタンを押す。
3〜10秒で「無線ステータス表示」画面が表示されます。

「無線状態」には以下のメッセージが表示されます。

画面表示	接続状態および対処のしかた
電波良好	良好な接続状態です。
電波受信外	電波が届いていない状態です。 メディアレシーバーの電源が入っているか確認してください。 外部アンテナを設置するか（☞18ページ）、メディアレシーバーをディスプレイ（本体）に近づけてください。
電波干渉	電子レンジや無線LANなどの他機器の電波干渉を強く受けていて画像や音声が途切れる状態です。 詳しくは、「無線接続について」（☞72ページ）をご覧ください。
電波微弱	メディアレシーバーとディスプレイ（本体）の距離が遠すぎたり、壁などにさえぎられて電波が弱い状態です。 外部アンテナを設置するか（☞18ページ）、メディアレシーバーをディスプレイ（本体）に近づけてください。

次のページにつづく

無線（ワイヤレス）接続状態を確認する（つづき）

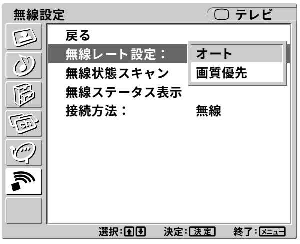
より高画質で楽しみたいときは（無線レート設定）

通信する信号の種類や設置する距離などお使いになる場面に適した無線レートを選べます。

1 メニューボタンを押して、メニューを出す。

2 ↑/↓で「（無線設定）」を選び、決定ボタンを押す。

3 ↑/↓で「無線レート設定」を選び、決定ボタンを押す。



4 ↑/↓で設定したい項目を選び、決定ボタンを押す。

項　目	説　　明
オート	お買い上げ時の設定です。 自動的に最適な無線レートに切り換えます。
画質優先	動きのある画像を高画質で通信させたいときに適しています。

5 メニューボタンを押して、メニューを消す。

ご注意

ディスプレイ（本体）の位置を変えるときは、必ず無線レート設定をオートにしてください。

ちょっと一言

無線レート設定を「オート」にすると無線の状況によって送信する映像や音声の情報量を自動で増減させます。このため、映像や音声のとぎれは少なくなりますが、映像の解像度は下がることがあります。

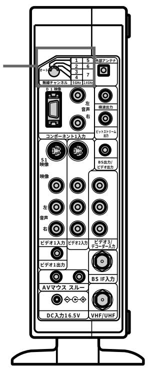
画像や音声が途切れたり止まったりするときは（無線チャンネル切り換え）

お買い上げ時は、本機が自動的に最適な無線チャンネルに切り換える「オート」に設定されています。

画像や音声が途切れたり止まったりするときは、本機と他の機器の通信帯域が干渉していることがあります。そのときは、メディアレシーバーの無線バンド切換スイッチと無線チャンネル切換スイッチを使って、最適な無線チャンネルを手動で設定してください（☞72ページ）。

メディアレシーバー後面

無線チャンネル切換スイッチ



ご注意

- 無線チャンネル切り換えが「オート」のとき、画面に「接続中」と表示されたり、消えたりをくり返すことがあります。最適な無線チャンネルや空きチャンネルがないときは、時々、最適な無線チャンネルを探しに行くためです。
- 10分間無線接続できない状態が続くと、「無線接続ができないためまもなく電源が切れます」と表示されて自動的に電源が切れます。
- 近隣の家やオフィスで使われている機器が干渉していたり、それらの機器によってすでに無線チャンネルがすべて埋まっていたりすることもあります。

よりよい接続状態を確保する

設置場所や周囲の環境によっては、ワイヤレス通信が充分に機能しない場合があります。下記の項目を確認して、よりよい接続状態を確保してください。

ご注意

ワイヤレス通信している間を、人が通過すると画像や音声が乱れたり、停止することがあります。ワイヤレス通信が一時的に影響をうけているためで、異常ではありません。

ワイヤレス通信に影響を及ぼす障害物はありませんか？

- □ ディスプレイ（本体）、メディアレシーバー、外部アンテナの周囲および、通信している間からできるだけ他の接続機器などを離してください。
- □ 冷蔵庫や電子レンジなど大型電化製品をメディアレシーバーとディスプレイ（本体）の間に設置しないでください。
- □ 水槽や浴槽、人の多いところなどからできるだけ離して設置してください。
- □ サッシや鉄筋コンクリート、家具などの金属製のものを通信しているところからできるだけ離して設置してください。
- □ 使用していない他の無線機器の通信を切ってください。
- □ メディアレシーバーやディスプレイ（本体）および外部アンテナの近くでドライヤーなどの機器のご使用をやめてください。
- □ 無線バンドを「オート」または「2.4GHz」に設定しているとき、電子レンジを使用すると電波の干渉を受ける場合があります。本機を電子レンジからできるだけ離れたところに設置するか、無線バンドを「5GHz」に設定してください。

外部アンテナをつないでいますか？（☞18ページ）

- □ ディスプレイ（本体）、メディアレシーバー、外部アンテナを床から50 cm以上のところに設置してください。
- □ メディアレシーバーが、接続機器やAVラックなど周囲の影響を受けやすい場所に設置してあったり、ディスプレイ（本体）までの距離が遠いときなどは外部アンテナをつないでください。
- □ 外部アンテナがメディアレシーバーからはずれているときは、取り付けなおしてください。
- □ ディスプレイ（本体）を移動させたり、外部アンテナが倒れたりしたときは、ディスプレイ（本体）の方向に外部アンテナを向けて設置しなおしてください。
- □ 障害物があるときは、向きを変えてください。

ケーブルで直接接続する

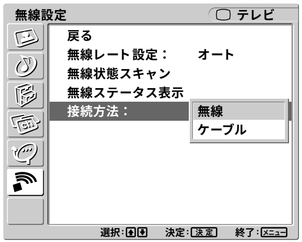
無線機器の多い場所に設置する場合、無線同士が干渉してワイヤレス通信ができないことがあります。
そのときは、メディアレシーバーとディスプレイ（本体）を映像・音声ケーブルで直接接続してください。

1 メディアレシーバー後面のBS出力/ビデオ出力端子とディスプレイ（本体）後面のビデオ4入力端子を付属の映像・音声コードで接続する。

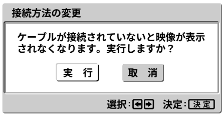
2 メニューボタンを押して、メニューを出す。

3 ↑/↓で「（無線設定）」を選び、決定ボタンを押す。

4 ↑/↓で「接続方法」を選び、決定ボタンを押す。



5 ↑/↓で「ケーブル」を選び、決定ボタンを押す。



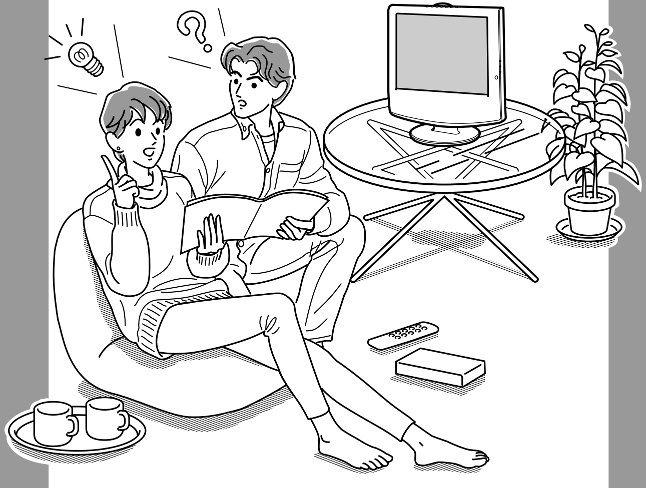
6 ←/→で「実行」を選び、決定ボタンを押す。

ご注意

- 接続方法をケーブルに変更するときは、必ずメディアレシーバーのBS出力/ビデオ出力端子とディスプレユニットのビデオ4入力端子を付属の映像・音声ケーブルで接続してください。
- ケーブル接続時は、ビデオ4入力とコンポーネント1入力は使用できません。「ケーブル接続のときはこの入力表示はできません」のメッセージが表示されます。
- ケーブル接続時は「BS固定」、「ビデオ出力設定」、「無線レート設定」、「無線状態スキャン」および「リプレイ」機能は働きません。また、BS固定中は、接続方法を変更することはできません。
- ケーブル接続時でもメディアレシーバーやディスプレイ（本体）の電源を入れなおした場合、「ワイヤレス接続中」と画面に表示されます。これは無線を一部使用しているためです。
- 無線を一部使用しているため、使用環境の無線状態によっては正しく動作しないことがあります。
- ケーブル接続時は無線チャンネルは自動的に「オート」に切り換わります。

その他

ここでは、テレビが正常に動かないときに解決する方法や、お手入れのしかたなどについて説明しています。
また、索引を使って、知りたい情報を探すこともできます。

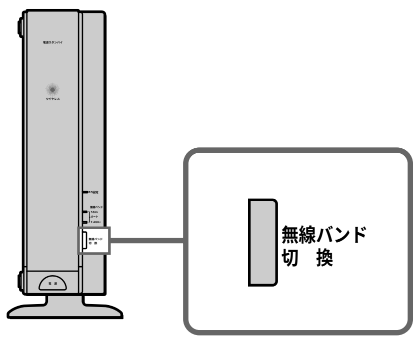


無線接続について

お買い上げ時は、本機が自動的に最適な無線バンドおよび無線チャンネルに切り換える「オート」に設定されています。また、設置場所や周囲の環境に合わせてお好みの無線接続状態を手動で選ぶこともできます。

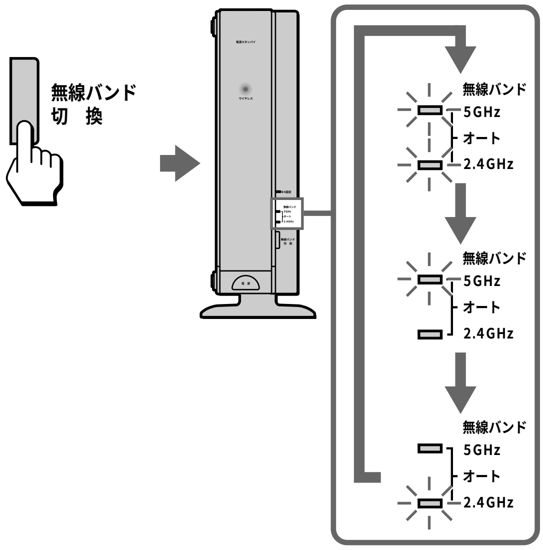
お好みの無線バンドに切り換える

メディアレシーバー右側面の無線バンド切換スイッチでお好みの無線バンドに切り換えることができます。
電子レンジ、携帯電話、無線LANなどの電波の影響を頻繁に受ける場合は、無線バンド切換スイッチで最適な無線バンドに切り換えてください。



無線バンド切換スイッチをくり返し押す。

押すたびに次のようにメディアレシーバー右側面の「5GHz」または「2.4GHz」ランプが点灯します。



オート
自動的に最適な無線バンドに切り換わります。また、無線チャンネルも自動で切り換わります。
「5GHz」と「2.4GHz」両方のランプが点灯します。

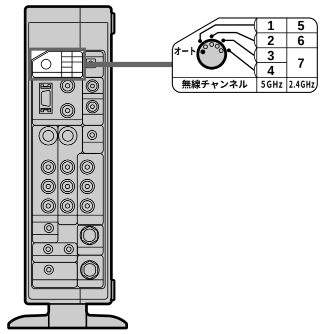
5GHz
無線バンドを「5GHz」に固定します。電子レンジや「2.4GHz」の無線LANからの干渉を受けないので、台所や「2.4GHz」の無線LAN環境下でも安定した映像や音声を楽しめます。
「5GHz」のランプが点灯します。

2.4GHz
無線バンドを「2.4GHz」に固定します。「5GHz」と比較して壁などの障害物の影響を受けにくいため、メディアレシーバーとディスプレイ（本体）との間に壁や家具がある場合に「5GHz」よりも安定した映像や音声を楽しめます。
「2.4GHz」のランプが点灯します。

ご注意
「5GHz」を屋外で使用することは法律により禁じられています（☞81ページ）。

お好みの無線チャンネルに切り換える

メディアレシーバー後面の無線チャンネル切換スイッチでお好みの無線チャンネルに切り換えることができます。



メディアレシーバー右側面の無線バンド切換スイッチで「5GHz」または「2.4GHz」を選んでから、無線チャンネル切換スイッチを左右に回してお好みのチャンネルを選ぶ。

チャンネル表示	IEEE規格の実チャンネル	周波数帯
オート	自動	5GHz/2.4GHz
1	IEEE 802.11a 34CH	5GHz
2	IEEE 802.11a 38CH	5GHz
3	IEEE 802.11a 42CH	5GHz
4	IEEE 802.11a 48CH	5GHz
5	IEEE 802.11g　1CH	2.4GHz
6	IEEE 802.11g　8CH	2.4GHz
7	IEEE 802.11g 13CH	2.4GHz

ちょっと一言
無線バンドが「オート」の場合、無線チャンネルは自動で切り換わります。

故障かな？と思ったら

修理に出す前に、もう1度、点検をしてください。それでも、正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。
ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

テレビ本体の型名：

ケーエルブイ　ダブリューエス
KLV-20WS2

リモコンの型名：

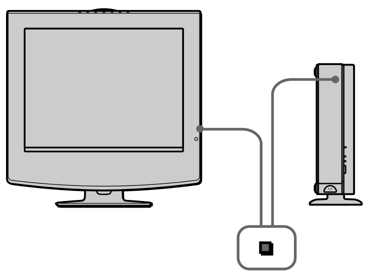
アールエムジェイ
RM-J932

故障の状況：できるだけくわしく

購入年月日：

自己診断表示

ディスプレイ（本体）およびメディアレシーバーには自己診断表示機能がついています。これは異常が起きたときに、本体前面の電源ランプの点滅で状態をお知らせし、よりスムーズにサービス対応させていただくための機能です。
電源ランプが赤く点滅したら、下の手順にそって、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。



電源ランプ（赤）

1 ディスプレイ（本体）の電源ランプまたはメディアレシーバーの電源/スタンバイランプの点滅時間を計ってください。
たとえば、2秒点灯→1秒消灯→2秒点灯
2 ディスプレイ（本体）およびメディアレシーバーの電源スイッチで電源を切り、電源コードをコンセントから抜いて、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に点滅のしかた（時間）をお知らせください。

テレビの症状と対処のしかた

症状		対処のしかた
ワイヤレス（無線）で通信できない／接続状態が悪い	**通信できない、または接続状態が悪く画像が乱れる。**	● 電源ケーブルをつないでください。 ●「よりよい接続状態を確保する」（☞71ページ）で、確認してください。 ● 外部アンテナをつないでください。 ● メディアレシーバーの無線バンド切換スイッチで無線バンドを切り換えてください（☞72ページ）。 ● メディアレシーバーの無線チャンネル切換スイッチで、無線チャンネル設定を切り換えてください（☞73ページ）。 ● メディアレシーバーやディスプレイ（本体）、および外部アンテナの周りや通信から他の接続機器や金属性、または金属粉を蒸着したCDやDVDなどを別の場所に移動してください。 ● 障害物による通信影響のない別の場所に設置してください。 ● 通信距離を近づけてください。 ● 接続機器を、ディスプレイ（本体）の入力端子につないでください。 ● 床暖房設備など、ワイヤレス通信に影響を及ぼしやすい床や天井を隔てて設置しているときは、同じ階下に置いてください。 ●「(無線設定)」メニューで「無線レート設定」を「オート」にしてください（☞70ページ）。
	画面に「ワイヤレス接続中」と表示されたり、消えたりをくり返す。	● 無線チャンネル切換スイッチが「オート」のとき、最適な無線チャンネルや空きチャンネルがない場合、時々、最適なチャンネルを探しに行くためです（☞70ページ）。 ● メディアレシーバーとディスプレイ（本体）をケーブルで接続してください（☞71ページ）。
	つないだ機器の画像や音声が遅れる。	● ディスプレイ（本体）の入力端子につないでください。 ワイヤレス通信による遅延の影響を受けません。
画像が出ない	**すべてのチャンネルが映らない。**	● 電源コードをしっかりつないでください。 ● メディアレシーバーとディスプレイ（本体）の電源を入れてください。 ● アンテナ線をしっかりつないでください。 ● 接続方法が「ケーブル」になっていませんか？ 「(無線設定)」メニューで「接続方法」を「無線」にしてください。
	特定のチャンネルだけが映らない。	● チャンネルを合わせ直してください（☞21ページ）。
	テレビの電源が突然切れた/いつのまにか消えていた（スタンバイ状態になった）。	● テレビの消し忘れを防ぐため、放送終了後、または放送のないチャンネルを受信している状態、または、メディアレシーバーとディスプレイ（本体）の間の通信ができず、ディスプレイ（本体）に映像が映っていない状態で、約10分過ぎると、「まもなく電源が切れます」または、「無線接続ができないためまもなく電源が切れます」と表示されて、自動的にスタンバイ状態になります。 ● 無操作電源オフを設定していませんでしたか?（☞68ページ） ● オフタイマーを設定していませんでしたか?（☞67ページ）
	つないだ機器の画像が出ない。	● 接続コードをしっかりつないでください。 ● リモコンの入力切換用のボタンを押してください（☞55ページ）。 ● S映像入力のときは、「(各種切換)」メニューで「S映像」を「入」にしてください（☞33ページ）。

次のページにつづく

故障かな？と思ったら（つづき）

症状		対処のしかた
BS放送が映らない／乱れる	**BS放送が映らない/画像が乱れている。**	**BSアンテナを直接つないでいる場合** • 「(BS設定)」メニューで「BSアンテナ電源」を「オート」または「連動」にしてください（☞26ページ）。 • BSアンテナ側は防水型コネクターをつないでください。 • アンテナの大きさが適切かを確認してください。 • アンテナの前方に障害物があれば取り除いてください。 • アンテナの方向・角度を調整してください（☞27ページ）。 **マンションなどの共同受信システムの場合** • 「(BS設定)」メニューで「BSアンテナ電源：切」にしてください（☞15ページ）。 • サテライト分波器でVHF/UHFとBSを分けてください（☞13ページ）。 • ケーブルの芯線をコネクターに正しく差し込んでください。 **複数のBS機器をサテライト分配器でつないでいる場合** • BSアンテナ用電源を供給する機器のスイッチを「入」にしてください。 **その他** • BSの放送時間を確認してください。 • 雨や雪が降ると映りが悪くなることがあります。また、晴れていても、BSを送信する放送衛星会社の地域で雨や雪が降っても映りが悪くなることがあります。 • テレビの近くで携帯電話や電子レンジなどを使用すると、映像や音声が乱れることがあります。 • BS専用のケーブルを使ってください（☞15ページ）。 • アンテナコネクターを使っていないかを確認してください。 • WOWOWなどのスクランブル放送でないかを確認してください。
	BS放送のチャンネルが切り換わらない。	• BS固定にしていないかを確認してください（☞65ページ）。
	WOWOWが映らない。	• WOWOWを見るには、WOWOWとの受信契約が必要です。詳しくは、WOWOWへお問い合わせください。 • BSデコーダー（WOWOW）は、メディアレシーバーのビデオ3/デコーダー入力端子につないでください。 • 「(BS設定)」メニューで「デコーダー/ビデオ」を「デコーダー」にしてください（☞45ページ）。

症状		対処のしかた
きれいに映らない	**画像が二重、三重になる。** 	● アンテナ線をしっかりつないでください。 ● アンテナの位置、方向、角度を調整してください。
	雪が降るような画面、うすい画面、風がふくとちらつく。 	● アンテナが風でこわれたり曲がったりしていないか確認してください。 ● アンテナの寿命を確認してください（通常3〜5年、海辺では1〜2年）。
	斑点や点模様が走る。 	● ヘアードライヤー、自動車、バイクなどからの雑音電波の干渉を受けています。アンテナはなるべく道路から離して設置してください。
	色がつかない、色がおかしい、画面が暗い。 	● 明るさ設定ボタンを押して、画質を選んでください（☞50ページ）。 ●「(画質調整)」メニューで、画質を調整してください。 ●「消費電力：減」のときは、画面が暗くなります（☞51ページ）。
	画面に光る点、または光らない点がある。  輝点・滅点	● 液晶カラーテレビの映像は微細な画素の集合です。画面の一部に画素欠けや輝点が存在する場合がありますが、故障ではありません。
	画面がまぶしい。	● 明るさ設定ボタンを押して、画質を選んでください（☞50ページ）。
	縞状のノイズが多い。	● 付属のアンテナ接続ケーブルを使って、テレビアンテナをつないでいるかを確認してください。 ● アンテナ線は他の電源コードや接続ケーブルからできるだけ離してください。 ● フィーダー線や室内アンテナは特に電波妨害を受けやすいため、使わないでください。
音が出ない／雑音が多い	**画像は出るが、音が出ない。**	● 音量が下がりきっていないか確認してください。 ● 画面に「消音」の表示が出ているときは、リモコンの消音ボタンか音量＋ボタンを押して表示を消してください。 ● コードレスヘッドホンモードで「：切」にしていませんか？コードレスヘッドホンボタンを押して、コードレスヘッドホンモードを切り換えてください（☞58ページ）。 ● ヘッドホン端子にヘッドホンをつないでいるときは、ヘッドホンを抜いてください。
	雑音が多い。	● 付属のアンテナ接続ケーブルを使って、テレビアンテナをつないでいるかを確認してください。 ● アンテナ線は他の電源コードや接続ケーブルからできるだけ離してください。 ● フィーダー線や室内アンテナは特に電波妨害を受けやすいため、使わないでください。 ●「(各種切換)」メニューで「オートステレオ」を「切」にしてください（☞64ページ）。

次のページにつづく

症状		対処のしかた
コードレスヘッドホンの音が出ない／雑音が多い	**音が出ない、音が小さい、または雑音が多い。**	● コードレスヘッドホンの電源を入れてから、コードレスヘッドホンをかけてください。 ● ディスプレイ（本体）とAV機器、ACパワーアダプターとの接続、電源コンセントとの接続を確認してください。 ● ディスプレイ（本体）につないだAV機器の電源が入っているか確認してください。 ● ディスプレイ（本体）とコードレスヘッドホンの間に障害物がないか確認してください。 ● ディスプレイ（本体）の近くでコードレスヘッドホンを使用してください（ディスプレイ（本体）から離れるにつれて雑音が多くなります。この現象は赤外線の特性によるもので、故障ではありません）。 ● ディスプレイ（本体）の位置や角度を変えてください。 ● コードレスヘッドホンモードで「：切」にしていませんか？ コードレスヘッドホンボタンを押して、コードレスヘッドホンモードを切り換えてください（☞58ページ）。 ● コードレスヘッドホンの電源ランプが暗い、点滅する、または消灯している場合は、コードレスヘッドホンの電池を交換してください。 ● 赤外線受光部を手や髪でおおっていないか確認してください。 ● 直射日光の入る窓際で使っているときは、カーテンやブラインドなどを閉めて直射日光が当たらないようにしてください。または、直射日光の当たらない場所で使ってください。 ● 電池を交換してください。 ● 電池の＋/－を正しい向きに入れてください。 ● プラズマテレビなどの近くでコードレスヘッドホンを使用すると通信障害が発生する場合があります。ノイズが消える場所まで、プラズマディスプレイなどを離すか、コードをつなげるヘッドホンをご使用ください。
メニューが選べない／表示が消えない	**メニューで選べない項目がある。**	● 薄く表示されている項目は選べません（見ている画像の種類やメニューの設定によって、選べないように制約されています）。
	「BSアンテナ電源を確認してください」の表示が消えない。	● マンションなどの共同受信システムのときは、「(BS設定)」メニューの「BSアンテナ電源」は自動的に「切」になります。いったんメディアレシーバーの電源を切り、入れなおしてください（☞15ページ）。 ● BSアンテナをつないでいるときは、BSアンテナのアンテナ線がショートしています。メディアレシーバーの電源を切って、お買い上げ店またはサービス窓口にご相談ください。

症状		対処のしかた
画面が切り換わる／つぶれて見える	**「ワイドモード」が「オート」のときに画面モードが勝手に切り換わる。**	● 横縦比の信号（D1映像入力端子からの地上・BS・110度CSデジタル放送やID-1/S1方式）が入った映像は、自動判別して、縦方向を圧縮した横縦比16:9のワイド画面にするためです。
	「ワイドモード」が「入」のときに画面がつぶれて見える。	● 通常のテレビやBS放送など横縦比4:3の映像で、「ワイドモード」を「入」にすると、縦方向に圧縮されて不自然に見えることがあります。「(各種切換)」メニューで「ワイドモード」を「オート」にしてください（☞52ページ）。 ● 上下に黒帯が入っている横長の映画などのワイド画像のときは、横縦比の信号が含まれていないため、従来から入っていた黒帯部分まで縦方向に圧縮されて、よりつぶれた映像になるためです。メニューの「(各種切換)」で「ワイドモード」を「オート」または「切」にしてください（☞52ページ）。
リモコンが働かない	**リモコンで操作できない。**	● 電池を交換してください。 ● 電池の⊕⊖を正しい向きに入れてください。 ● ディスプレイ（本体）のスタンバイ/オフタイマーランプが赤く点灯していないときは、ディスプレイ（本体）の電源スイッチを押してください。 ● リモコンをディスプレイ（本体）のリモコン受光部に正しく向けて、近くから操作してください。 ● リモコン受光部の近くに蛍光灯などの強い照明があたっているときは、照明があたらないように、照明器具またはディスプレイ（本体）の位置を調整してください。 ● AVマウスをつないだ機器を操作するときは、AVマウスの設定を行い（☞35ページ）、機器のリモコンをディスプレイ（本体）に向けて操作してください。 ● メディアレシーバーとディスプレイ（本体）を近付けて設置すると、リモコンからの信号とAVマウスからの信号が混信する場合があります。「(各種切換)」メニューで「AVマウス」を「切」にしてください。
	リモコンのチャンネル数字ボタンを押しても、チャンネルが選べない。	**ダイレクト選局の場合（☞29ページ）** ●「(テレビ設定)」メニューで「選局」が「ダイレクト」になっているかを確認してください。 **10キー選局の場合（☞29ページ）** ●「(テレビ設定)」メニューで「選局」が「10キー」になっているかを確認してください。 ● 11チャンネルは①を2回、12チャンネルは①と②を続けて押してから、⑫/選局を押してください。 ● チャンネル数字ボタンに続けて⑫/選局を押してください。
消費電力または明るさ設定や画質調整が働かない	**消費電力または明るさ設定や画質調整で設定・調整していた画質が勝手に切り換わる。**	● チャンネルスキャンを行ってください（☞21ページ）。 消費電力を「消費電力：減」に設定しても、しばらくすると「消費電力：標準」に勝手に切り換わったり、明るさ設定や画質調整を行っても、しばらくすると「デモ開始」と画面に表示され、明るさ設定が「ダイナミック」に切り換わることがあります。 そのときは、一度、チャンネルスキャン（☞21ページ）を最後まで行うとお好きな消費電力や画質調整の設定に変更できます。 チャンネルスキャンを行わなかったり、チャンネルスキャン実行中に中断したりすると、消費電力の切り換えまたは明るさ設定や画質調整機能が働かないことがあります。

使用上のご注意

電源についてのご注意

付属のACパワーアダプターをお使いください。

使用・設置場所についてのご注意

次のような場所での使用・設置はおやめください。

- 屋外
- 異常に高温になる場所
  炎天下や夏場の窓を閉め切った自動車内はとくに高温になり、放置すると変形したり、故障したりすることがあります。
- 直射日光のあたる場所、熱器具の近くなど、温度の高い場所
  変形したり、故障したりすることがあります。
- 振動の多い場所
- 強力な磁気のある場所
- 暗すぎる部屋は目を疲れさせるのでよくありません。適度の明るさの中でご覧ください。また、連続して長い時間、画面を見ていることも目を疲れさせます。
- メディアレシーバーやディスプレイ(本体)の底面よりも、広くて水平で丈夫な場所に置いてください。
- 壁に掛けて使用するときは必ず専用の壁取付金具(別売り)を使用してください。

音量について

- 周辺の人の迷惑とならないよう適度の音量でお楽しみください。特に、夜間での音量は小さい音でも通りやすいので、窓を閉めたりヘッドホンを使用したりして、隣近所への配慮を十分し、生活環境を守りましょう。
- ヘッドホンをご使用のときは、耳をあまり刺激しないよう、適度な音量でお楽しみください。耳鳴りがするような場合は、音量を下げるか、使用を中止してください。

液晶画面についてのご注意

- 液晶画面を太陽にむけたままにすると、液晶画面を傷めてしまいます。窓際などに置くときなどはご注意ください。
- 前面のフィルターを強く押したり、ひっかいたり、上にものを置いたりしないでください。画面にムラが出たり、液晶パネルの故障の原因になります。
- 寒い所でご使用になると、画像が尾を引いて見えたり、画面が暗く見えたりすることがありますが、故障ではありません。温度が上がると元に戻ります。
- 静止画を継続的に表示した場合、残像を生じることがありますが、時間の経過とともに元に戻ります。
- 使用中に画面やキャビネットがあたたかくなることがありますが、故障ではありません。

蛍光管についてのご注意

本機は内部照明装置として専用蛍光管を使用しておりますが、この蛍光管には寿命があります。画面が暗くなったり、チラついたり、点灯しないときは、新しい専用蛍光管に取り替えてください。蛍光管の交換については、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にお問い合わせください。

輝点・滅点について

画面上に赤や青、緑の点（輝点）が消えなかったり、黒い点（滅点）がある場合がありますが、故障ではありません。
液晶画面は非常に精密な技術で作られており、99.99%以上の有効画素がありますが、ごくわずかの画素欠けや常時点灯する画素があります。

お手入れ

スクリーン面の汚れは

- お手入れをする前に、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 液晶の画面は特殊加工がされていますので、なるべく画面にふれないようにしてください。また画面の汚れをふきとるときは、乾いた柔らかい布でふきとってください。
- アルコール、シンナー、ベンジンなどは使わないでください。変質したり、塗装がはげたりすることがあります。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。
- 殺虫剤のような揮発性のものをかけたり、ゴムやビニール製品に長時間接触させると、変質したり、塗装がはげたりすることがあります。

外装の汚れは

- 乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。汚れがひどいときは、薄い中性洗剤溶液を少し含ませた布で拭きとり、乾いた布でカラ拭きしてください。
- アルコールやベンジン、シンナー、殺虫剤をかけると、表面の仕上げを傷めたり、表示が消えてしまうことがあるので、使用しないでください。

搬送時のご注意

- 本機を運ぶときは、本機に接続されているケーブル等をすべてはずしてください。
  落としたりするとけがや故障の原因となることがあります。
- 修理や引っ越しなどで本機を運ぶ場合は、お買い上げ時に本機が入っていた箱と、クッション材を使ってください。
- ディスプレイ(本体)を手で運ぶときは、図のように取っ手を持ってください。後面のカバーは外れやすいので、カバーのみを持たないでください。また回転して危険ですので、スタンドを持たないでください。



ワイヤレスについてのご注意

- 本機は盗聴防止機能を搭載していますが、傍受*にご注意ください。本機は無線通信を使用しているため、第三者が故意に傍受する可能性があります。機密を要する重要な通信または人命に関わる通信には使用しないでください。
  * 傍受とは、無線通信の内容を第三者が受信機で故意または偶然に受信することです。
- 本機を航空機、高精度電子機器の近くで使用すると、誤動作の原因となることがあります。これらの近くで使用しないでください。
- ワイヤレス電波状況により、映像、音声に乱れ（画面の一時停止、ブロックのノイズ、雑音）が発生することがあります。
  －電波の通りにくい壁ごしでのワイヤレス送受信
  －冷蔵庫などの大型・金属製の家具、器具などの影にある場合
  －ホームパーティなどでの人ごみ
- ワイヤレス通信が開始し、本機のシステムが起動するために10～15秒程度必要です。この間はメディアレシーバー側の制御はできません。
- 本機はメディアレシーバーとディスプレイ（本体）の間のワイヤレス通信でMPEG-2方式の圧縮伸張方式を用いています。このため、ディスプレイ（本体）の受信映像、音声はメディアレシーバーへの入力映像、音声に比べ遅延が生じます（約0.5秒）。また、リモコンによる機器操作でも反応の遅れが発生しますのでご注意ください。
- 本機は国内安全規格（電気用品安全法）に基づいて製品化されていますが、まれに他の機器と干渉してノイズを発生することがあります。干渉がある場合は、他の機器との距離を離してください。
- 法律で禁止されている事項があります。
  この製品は、電波法38条の2第1項に基づく技術基準適合証明を受けた特定無線設備を使用しているため、ご利用に際しては下記に記載する使用条件を遵守してくださいますよう、お願いいたします。なお、使用上の注意に反した機器の利用に起因して電波法に抵触する問題が発生した場合、当社はいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
  －5GHzによる送信は、屋内のみ可能です。
  －この製品は、日本国内でのみ使用可能です。
  －この製品（付属品を含む）の改造ならびに変更を行うことはできません。
  －この製品には付属品以外の外部アンテナを使用することはできません。
- この機器は2.4GHz帯および5GHz帯の無線周波数帯を使用していますが、他の無線機器も同じ周波数を使っていることがあります。この機器と他の無線機器間との電波干渉を防止するため、下記事項に注意してご使用ください。

2.4DS·OF2 この無線機器の使用周波数は2.4GHz帯および5GHz帯を使用します。変調方式として2.4GHzはDS-SSおよびOFDM変調方式、5GHzはOFDM変調方式を採用し、与干渉距離は20mです。

次のような環境で使用すると、メディアレシーバーとディスプレイ（本体）との間で電波が通りにくくなり、通信距離が短くなることがあります。
－鉄筋／コンクリート／石の壁や床や床暖房の入った床
－鉄製の間仕切りやドア、防火ガラス、金属などの材料を使った家具や電化製品などがメディアレシーバーとディスプレイ（本体）の間にある場合

＜2.4GHz帯の場合＞
この機器の使用周波数は2.4GHz帯を含んでいます。この周波数帯では電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ラインなどで使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局など（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。
1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、または機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。

- 電子レンジ使用中に、2.4GHz帯を使用した場合本機のワイヤレス通信が電子レンジの発する電波の干渉を受け、画像が乱れることがあります。電子レンジから離れた場所で本機を使用してください。電子レンジを使用していないときは、本機は干渉を受けません。
- 近くで2.4GHz、IEEE802.11b準拠のワイヤレスLANアクセスポイントまたは、ワイヤレス機器を使用しているとき、電波の干渉を受ける場合があります。本機の無線チャンネルを変更してください。

＜5GHz帯の場合＞
- 本機を屋外で使用する場合は、ワイヤレスチャンネルを2.4GHz帯に変更してください。法令により5GHz帯無線機器を屋外で使用することは禁止されています。
- 近くで5GHz、IEEE802.11a準拠のワイヤレスLANアクセスポイントまたは、ワイヤレス機器を使用しているとき、電波の干渉を受ける場合があります。本機の無線チャンネルを変更してください。

この機器には技術的条件適合認定を受けた無線設備が内蔵されており、証明ラベルは無線設備上に添付されております。

廃棄するときは

- **一般の廃棄物と一緒にしないでください。**
  ごみ廃棄場で処分されるごみの中に本機を捨てないでください。
- **本機の蛍光管の中には水銀が含まれています。廃棄の際は、地方自治体の条例または規則に従ってください。**

リモコン取り扱い上のご注意

- 落としたり、踏みつけたり、中に液体をこぼしたりしないよう、ていねいに扱ってください。
- 直射日光が当たるところ、暖房機具のそばや湿度が高いところには置かないでください。

乾電池についての安全上のご注意

漏液、発熱、発火、破裂などを避けるため、下記のことを必ずお守りください。

⚠警告
- 火の中に入れない。ショートさせたり、分解、加熱しない。
- 充電しない。
- 指定された種類の電池を使用する。

⚠注意
- ＋と－の向きを正しく入れる。
- 電池を使いきったとき、長時間使用しないときは、取り出しておく。
- 新しい電池と使用した電池、種類の違う電池を混ぜて使わない。

もし電池の液が漏れたときは、電池入れの液をよくふきとってから、新しい電池を入れてください。万一、液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

保証書とアフターサービス

本機は日本国内専用です。電源電圧や放送規格の異なる海外ではお使いになれません。本製品には盗聴防止機能があります。ディスプレイ（本体）とメディアレシーバーのシリアル番号（SER No.）が一致していないと正しくワイヤレス通信できません。

保証書について

- この製品は保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げの店からお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

「故障かな？と思ったら」の項を参考にして、故障かどうかをお調べください。

それでも具合が悪いときはサービス窓口へ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にある、お近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

修理のときは

修理のときは、シリアル番号（SER No.）が一致しているディスプレイ（本体）とメディアレシーバーの両方が必要です。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社では、カラーテレビの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過した後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。
その際、交換した部品は回収させていただきます。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

型名：KLV-20WS2
故障の状態：できるだけくわしく
購入年月日：

お買い上げ店 **TEL.**
お近くのサービスステーション **TEL.**

This television is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.

主な仕様

システム

受信方式	NTSC方式
受信チャンネル	VHF 1〜12チャンネル UHF 13〜62チャンネル CATV C13〜C38（ケーブルテレビ放送会社との受信契約が必要） BS1、3、5、7、9、11、13、15
画面寸法	40.8×30.6cm、51.0cm （幅×高さ、対角）
LCD パネル	a Si TFTアクティブマトリックス
有効画素率	99.99%
表示画素数	水平　640ドット 垂直　480ライン
使用スピーカー	4×7cm（楕円）
音声出力	実用最大 3W×2（JEITA）、4Ω

入出力端子

アンテナ端子	VHF/UHF、BS IF 75Ω F型コネクター （コンバーター用電源出力、DC15V最大4W）
ビデオ1、2、4、5入力端子	S1映像:4ピンミニDIN Y:1Vp-p、75Ω、不平衡、同期負 C:0.286Vp-p（バースト信号）、75Ω 映像: ピンジャック、1Vp-p、75Ω、不平衡、同期負 音声: ピンジャック、2チャンネル、500mVrms、インピーダンス47kΩ以上
ビデオ3/デコーダー入力端子	映像: ピンジャック、1Vp-p、75Ω、不平衡、同期負 音声: ピンジャック、2チャンネル、500mVrms、インピーダンス47kΩ以上
ビデオ1出力端子	φ3.5　4極ミニプラグ
AVマウス スルー端子（2）	
外部アンテナ端子	付属外部アンテナ専用
コンポーネント1、2入力端子	D1映像: Y:1Vp-p（0.3V負同期付き） C_B/C_R:±350mVp-p 入力インピーダンス 75Ω 音声: ピンジャック、2チャンネル、500mVrms、インピーダンス47kΩ以上
ビットストリーム出力端子	ピンジャック、75Ω、0.5Vp-p
検波出力端子	ピンジャック、75Ω、0.67Vp-p
BS出力/ビデオ出力端子	映像: φ3.5　4極ミニプラグ、1Vp-p、75Ω、不平衡、同期負 音声: φ3.5　4極ミニプラグ、2チャンネル、500mVrms、インピーダンス4.7kΩ以下 テレビ放送の音声の100%変調時、またはBS放送の最大出力−12dB時の数値です。
ヘッドホン端子	ステレオミニジャック 負荷インピーダンス16Ω以上

無線部

準拠規格　IEEE802.11a/IEEE802.11g
使用周波数帯　5.2GHz帯
(5.17、5.19、5.21、5.23GHzの4チャンネル)
2.4GHz帯
(2.412～2.472GHzの9チャンネル)
データ転送速度　最大36Mbps
アクセス方式　CSMA/CA (Carrier Sense Multiple Access with Collision Avoidance)
アンテナ送信出力　最大10mW/MHz
最大通信距離　見通し　100～150m (外部アンテナ使用時)
約100m (外部アンテナ非使用時)
一般家屋内
20～30m* (外部アンテナ使用時)
15～20m* (外部アンテナ非使用時)
WEP (データの暗号化)
128ビット
内部アンテナ　メディアレシーバー側：ダイエレクトリックアンテナ×2
ディスプレイ (本体) 側：ダイポールアンテナ×2
アンテナ選択　ダイバシティ方式
外部アンテナ仕様　垂直偏波パラボラ、ケーブル長2m、質量130g (ケーブル含む)
アンテナの内部/外部の切り換え
コネクタを挿すことで自動切り換え

ディスプレイ (本体) LDM-20WS2

消費電力　70W (リモコン待機時0.8W)
最大外形寸法　スタンド含む:50.4×53.0×25.0cm
(幅×高さ×奥行き)
スタンドなし:50.4×48.7×11.1cm
(幅×高さ×奥行き)
質量　約9.0kg (スタンド含む)
約7.8kg (スタンドなし)
電源　使用電源:AC100V、50/60Hz

メディアレシーバー部 MBT-20WS2

消費電力　14W (ACパワーアダプター使用時)
消費電力 (リモコン待機時)
BS固定が「切」：3.5W
BS固定が「入」：6.8W
最大外形寸法 (スタンド含む)
縦置き　8.5×23.2×26cm
(幅×高さ×奥行き)
横置き　21.5×6.5×26cm
(幅×高さ×奥行き)
質量　約1.3kg (スタンド含む)
約1.25kg (スタンドなし)
電源　使用電源:AC100V、50/60Hz
(ACパワーアダプター使用)
入力電源:DC16.5V
(ACパワーアダプター使用)

コードレスヘッドホン MDR-IF0140

変調方式　周波数変調
搬送波周波数　右チャンネル:2.8MHz
左チャンネル:2.3MHz
周波数特性　18～22,000Hz
質量　約125g
電源　DC1.5V (単4形乾電池×1)

付属品

外部アンテナ (1)
外部アンテナ壁取付金具 (1)
壁取付金具用ネジ (2)
リモートコマンダー　RM-J932 (1)
乾電池　単4形 (2)
コードレスヘッドホン　MDR-IF0140 (1)
乾電池　単4形 (1)
アンテナ接続ケーブル (1)
アンテナ変換アダプター (1)
電源コード (2)
ACパワーアダプター (1)
AVマウス (2)
AVマウス用両面テープ (2)
映像・音声コード (1)
取扱説明書 (1)
安全のために (1)
安全点検チェックリスト (1)
ソニーご相談窓口のご案内 (1)
保証書 (1)

別売りアクセサリー

2004年8月現在の別売りアクセサリーです。万一、品切れや生産完了のときはご容赦ください。

液晶テレビ用壁取付金具　SU-W210
キャスター付きスタンド　SU-FS200
ステレオヘッドホン　MDR-AV305など
コードレス・ステレオヘッドホン　MDR-IF140
BSアンテナなど
接続ケーブルなど

*　通信できる範囲は、壁の材質など周囲の環境により異なります。

- 本機は日本国内用ですから、電源電圧、放送規格の異なる外国ではお使いになれません。
- 仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。
- このテレビは米国BBE社の所有する特許USP4638258と4482866を使用しています。BBEとBBEのシンボルはBBE Sound, Inc.の登録商標です。

用語集

五十音順

ア行

アンテナレベル

BSアンテナから入ってくる電波の強さです。天候や気温、時間帯、アンテナ接続ケーブルの長さなどによって影響を受けます。

インターレース（飛び越し走査）

走査線525本のうち、まず奇数番目の走査線（262.5本）を1/60秒かけて描き（この1画面を1フィールドという）、次にその間を埋めるように偶数番目の走査線（262.5本）を描き、合わせて走査線525本の1枚の完全な画面（フレーム）を作っていく飛び越し走査のことです。

カ行

ケーブルテレビ（CATV）

契約者と放送局をケーブルで直接結んで番組を提供する有線放送です。通常のテレビ番組やBS放送に加え、スポーツや映画の専門チャンネル、地域情報番組や文字放送などを見ることができます。

検波

放送衛星から送られてくるFM電波を復調することです。

ゴースト

放送局からの電波が、テレビアンテナに届く前に、建物や地形の影響で妨害波となり、時間がズレて二重、三重に受信されることです。そのため、正しく送られてきた画像に妨害波の画像が重なって表れたり、見にくい画像となります。

サ行

スクランブル

映像、音声の信号を暗号化することです。民間BS放送（WOWOWなど）では、契約者以外は視聴できないように、電波にスクランブルをかけて（暗号化して）送信しています。スクランブルのかかった放送を視聴するためには、スクランブルを解除する機器（デコーダーなど）が必要です。

タ行

地上デジタル放送

2003年12月に一部地域で放送が開始された、地上波によるデジタル放送です。UHFの周波数帯域を利用して送信されます。デジタル信号で大量の情報を扱えるので、多チャンネルの放送を高画質・高音質で楽しめます。くっきりはっきりした高画質のHDTV（高精細度テレビ）や、また文字や画像などのデータ放送などがあります。
地上デジタル放送を受信するには、別途地上デジタル放送に対応したデジタルチューナーが必要となります。

チューナー

電波を受信して各チャンネルに合わせるための機器です。このテレビはテレビチューナーおよびBSチューナーを内蔵しています。

デジタルCS放送

スカイパーフェクTV！のことです。通信衛星を使ったCS放送の一種で110度CSデジタル放送ではありません。

独立音声放送

民間BS放送の中には、1つのチャンネルで映像の音声とは別に、音声だけの放送が行われている場合があります。これが独立音声放送です。

ハ行

ビスタビジョン

画面の横縦比が1.85:1になっている映像ソフトのことです。一般的には画像の中に字幕が入る映画などに使われています。

ビットストリーム

BS放送で送られてくる電波のデジタル信号（音声とデータ）です。データ信号は、文字放送などに使われています。

プログレッシブ（順次走査）

飛び越し走査（「インターレース」の項目を参照）をしないで、1フレーム目で525本全部の走査線を順番どおりに描き、次のフレームも同じ場所を525本全部の走査線で描いていく順次走査のことです。

数字・アルファベット順

110度CSデジタル放送

2002年3月から始まった、110度デジタル衛星N-SAT-110によってデジタル信号で映像や音声を流す放送のことです。大量の情報を扱えるので、多チャンネルの放送を高画質・高音質で楽しめます。文字や画像などのデータ放送、音楽CD並みの高音質な放送などがあります。
110度CSデジタル放送を受信するには、別途110度CSに対応したデジタルチューナーが必要となります。

bps

1秒間に送受信できるデータ量（ビット数）を表す単位です。インターネットや無線などの通信速度を表すとき、bps（ビット・パー・セカンド＝ビット／秒）を使います。

BSデコーダー（WOWOW）

WOWOWなど民間BS放送の電波にかかったスクランブルを解除する機器です。

BSデジタル放送

2000年12月から本放送が開始された放送衛星を使って、デジタル信号で映像や音声を流す放送のことです。大量の情報を扱えるので、多チャンネルの放送を高画質・高音質で楽しめます。くっきりはっきりした高画質のHDTV（高精細度テレビ）や、また文字や画像などのデータ放送、CD並みの高音質なラジオ放送などがあります。
BSデジタル放送を受信するには、別途BSデジタル放送に対応したデジタルチューナーが必要となります。

D端子

デジタルCS放送、地上・BS・110度CSデジタル放送およびDVDプレーヤーなどに対応したコンポーネント映像端子です。デジタルCSチューナーやDVDプレーヤーなどと、1本のケーブルで簡単に映像信号を接続できます。コンポーネント映像で接続するため、より高画質な画像を楽しめます。

ID-1方式（ビデオID-1システム）

ビデオ信号の一部にデジタルのID信号を加算することにより、画面の横縦比（16:9、4:3またはレターボックス）の情報を記録するシステムの名前です。このテレビはID-1方式に対応しています。ID-1方式対応のビデオカメラやビデオデッキなどを、テレビのビデオ1、2、4、5入力端子、およびビデオ3/デコーダー入力端子につなぐと、ID-1方式の画像となります。ただし、あらかじめビデオカメラなどで「ワイドTV」モードを「入」にして録画した画像に限ります。

IEEE（Institute of Electrical and Electronics Engineers）

アメリカ電気・電子技術者協会のことです。1884年に設立された世界的な電気／電子／情報分野の学会で電気および電子技術に関する標準化組織でもあります。

IEEE802.11a

IEEEで制定された無線規格の一つです。周波数帯域は5GHz帯で、伝送速度は最大54Mbpsです。

IEEE802.11b

IEEEで制定された無線規格の一つです。周波数帯域は2.4GHz帯を使用し、伝送速度最高で11Mbpsです。電子レンジやBluetoothなども同じ周波数帯域を使用しています。

IEEE802.11g

IEEEで制定された無線規格の一つです。周波数帯域は2.4GHz帯を使用し、伝送速度最高で54Mbpsです。電子レンジやBluetoothなども同じ周波数帯域を使用しています。

MPEG-2（Moving Picture Experts Group phase 2）

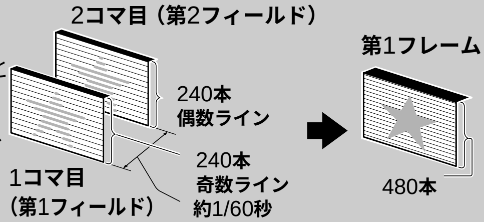
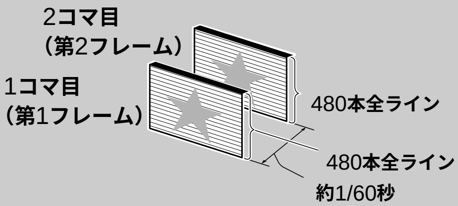
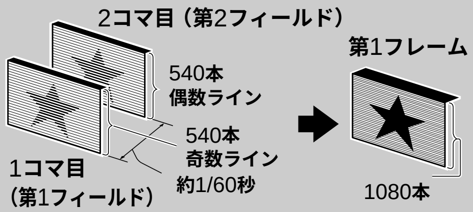
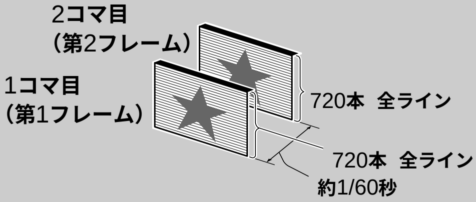
映像データの圧縮方式の一つで、MPEG規格の一部です。再生時に動画と音声合わせて4Mbps～15Mbps程度のデータ転送速度が必要です。DVD-Videoなどのデジタル機器で利用されています。

NTSC方式

日本やアメリカなどで使われているカラーテレビ方式で、毎秒30コマ、水平走査線数525本などが特長です。アメリカの連邦テレビジョン方式委員会（National Television System Committee）が制定し、1954年に放送が正式に開始されました。欧州や中国などで使われているPAL方式やSECAM方式とは互換性がありません。

映像信号フォーマットについて

日本国内の映像信号フォーマット（画像方式）は、走査線数と走査方式によって、以下の4種類があります。

映像信号フォーマット	映像の種類	対応するD端子
525i（480i） 525本（480本）の走査線を約1/60秒ごとに奇数ラインと偶数ラインを交互に流す（飛び越し走査：インターレース方式）映像信号です。通常のテレビ放送（VHF/UHF）の信号です。  	• 通常のテレビ放送（VHF/UHF） • BSアナログ放送 • ビデオ1～3入力の映像 • コンポーネント入力*の以下の映像 – デジタル標準テレビ放送（525i） – デジタルCS放送 – DVDプレーヤーの映像	**D1端子** D2端子 D3端子 D4端子
525p（480p） 525本（480本）全部の走査線を順番どおりに描く（順次走査：プログレッシブ方式）映像信号です。  	• コンポーネント入力*のデジタル標準テレビ放送（525p） • コンポーネント入力*のDVDプレーヤーの映像（プログレッシブ出力映像）	D2端子 D3端子 D4端子
1125i（1080i） 1125本（1080本）の走査線を約1/60秒ごとに奇数ラインと偶数ラインを交互に流す（飛び越し走査：インターレース方式）映像信号です。  従来のハイビジョン放送は、有効走査線数が1035本です。	• コンポーネント入力*のデジタルハイビジョン放送（1125i） • コンポーネント入力*のハイビジョン放送（ベースバンド）の映像	D3端子 D4端子
750p（720p） 750本（720本）全部の走査線を順番どおりに描く（順次走査：プログレッシブ方式）映像信号です。  	• コンポーネント入力*のデジタルハイビジョン放送（750p）	D4端子

↑（　）内は有効走査線数で数えたときの別称です。また、iはインターレース（飛び越し走査）、pはプログレッシブ（順次走査）の略。

↑つないだ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。特に、地上・BS・110度CSデジタルチューナーの出力設定については、地上・BS・110度CSデジタルチューナー側の取扱説明書をご覧ください。

* コンポーネント入力はD端子からの映像です。

走査線

テレビは、左から右へ流れる電子ビームを上から下へ送ることで画面を作っています。この電子ビームが作る線を走査線と呼び、走査線によって、どのように画面を作っていくかで、インターレースやプログレッシブなどの方式があります。

有効走査線数

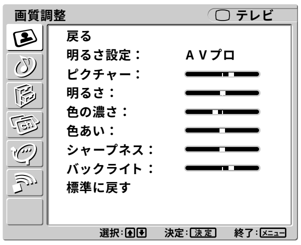
走査線のうち、映像信号が載っている走査線の数のことを言います。通常のテレビ放送やBS放送では、525本ある走査線のうち有効走査線数は480本です。従来のハイビジョン放送では同じく1125本中1035本、デジタルハイビジョン（HD）放送では、1125本中1080本となっています。なお、有効走査線に含まれていない残りの走査線（映像信号の載っていない走査線）には、画面の横縦比を規定した識別信号などが載っています。

D端子（コンポーネント入力）

地上・BS・110度CSデジタル放送、デジタルCS放送およびDVDプレーヤーなどに対応したコンポーネント映像端子です。地上・BS・110度CSデジタルチューナーやデジタルCSチューナー、DVDプレーヤーなどと、1本のケーブルで簡単に映像信号を接続できます。コンポーネント映像で接続するため、より高画質な画像を楽しめます。
このテレビにはD1入力端子（コンポーネント入力）が付いてます。

メニュー一覧

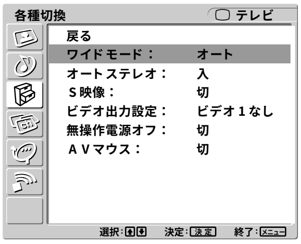
画質調整



音質調整



各種切換



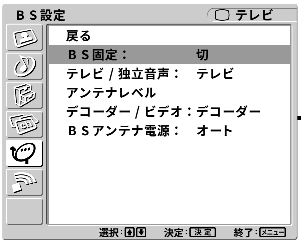
テレビ設定



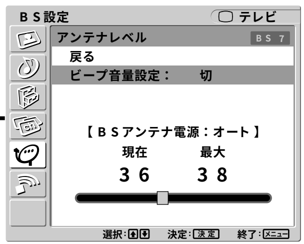
チャンネル設定変更



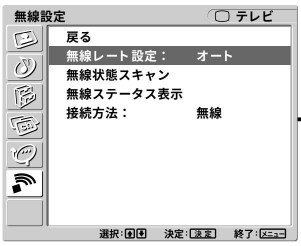
BS設定



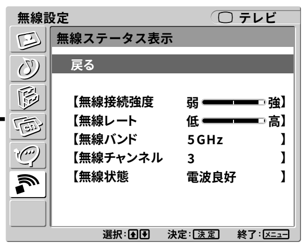
アンテナレベル



無線設定



無線ステータス表示



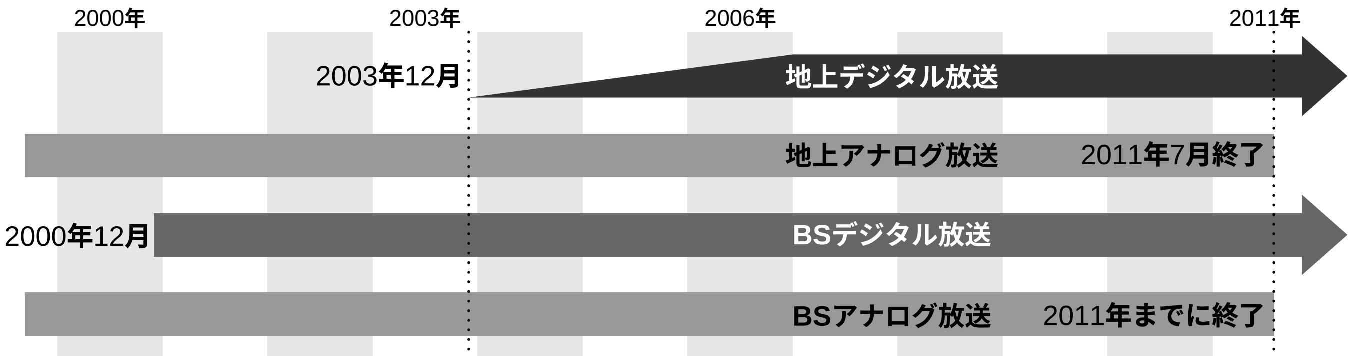
- メニューはリモコンのメニューボタンを押すと表示され、↑/↓/←/→で選び、決定ボタンまたは→で決定します。ただし、→で決定できないメニューもありますのでご注意ください。
- 黄色で表示される部分が選ばれています。
- 薄く表示される部分は選べません。

アナログ放送からデジタル放送への移行について

アナログ放送からデジタル放送への移行スケジュール

地上デジタル放送は、関東、中京、近畿の三大広域圏の一部で2003年12月から開始され、その他の地域でも、2006年末までに放送が開始される予定です。該当地域における受信可能エリアは、当初限定されていますが、順次拡大される予定です。地上アナログ放送は2011年7月に、BSアナログ放送は2011年までに終了することが、国の方針として決定されています。

※ 2003年9月現在の情報です。



アナログ放送受信用のテレビでデジタル放送をご覧になるには

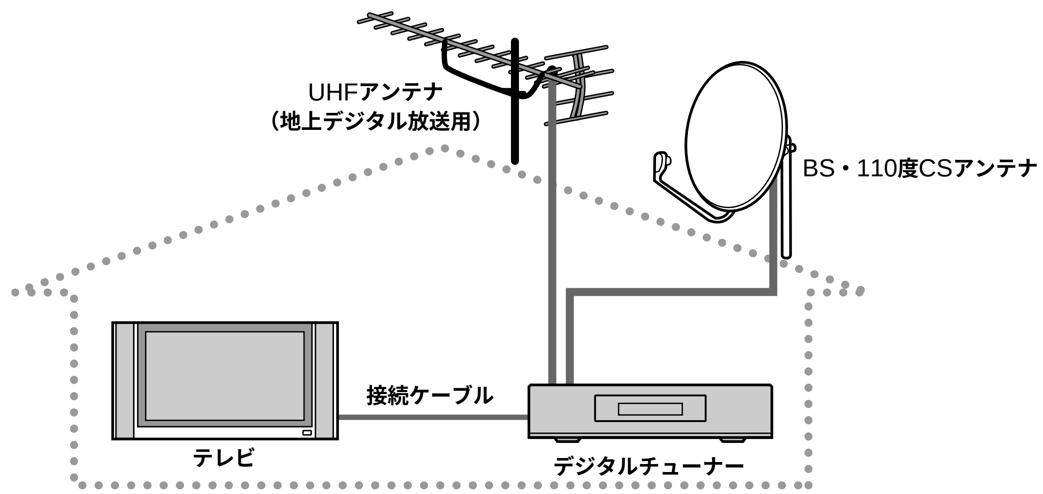
別売りのデジタルチューナーを接続することによりデジタル放送をご覧いただけます。ただし、受信する画質や横縦比（アスペクト比）はテレビの種類により異なります。

なお、受信には、デジタル放送に対応したアンテナシステムが必要です。また、地上デジタル、BSデジタル、110度CSデジタル共用タイプのチューナーであれば、1台でそれぞれの放送をご覧いただけます。

※ デジタル放送チャンネルに対応した受信アンテナが必要です。

※ ケーブルテレビで地上デジタル放送を受信するには専用のホームターミナル（アダプター）が必要になる場合があります。詳しくは、加入しているCATV会社にお問い合わせください。

接続例



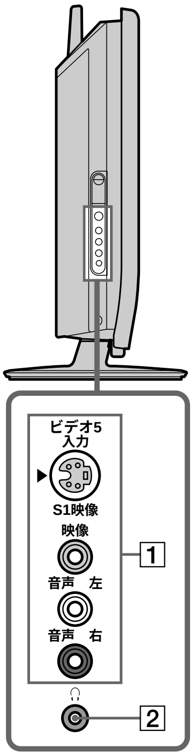
索引

五十音順

数字・アルファベット順

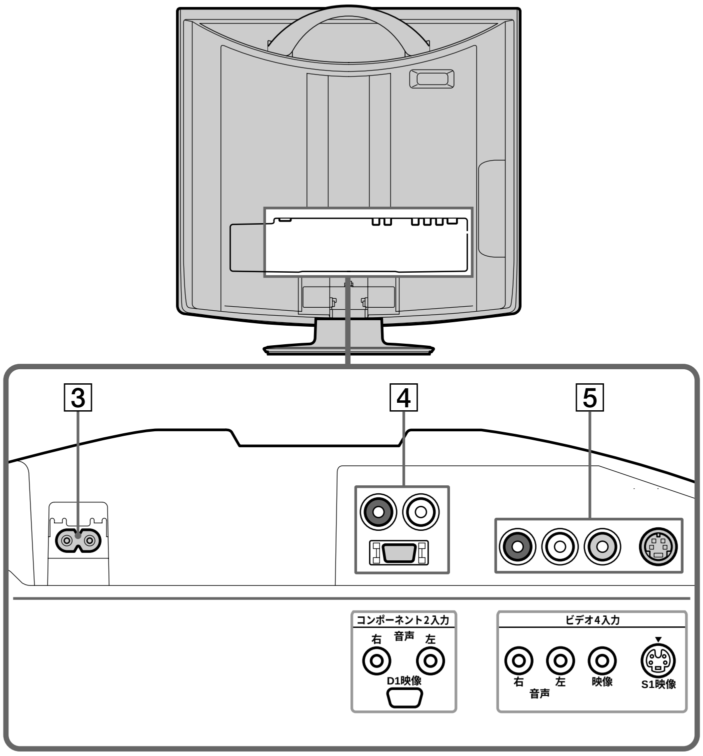
接続端子

ディスプレイ（本体）左側面



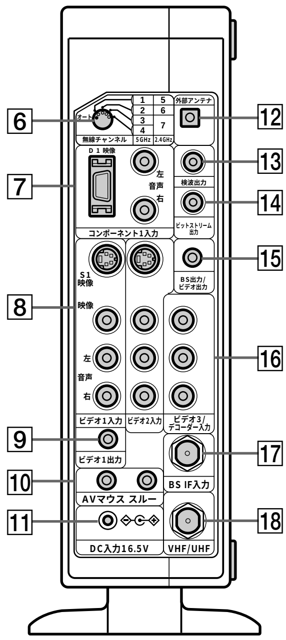
横から見た図

ディスプレイ（本体）後面



下から見た図

メディアレシーバー後面



☞のページに詳しい説明があります。

1 **ビデオ5入力端子**（S1**映像**/**映像**/**音声**）（**ビデオ**ID-1**システム**）（☞46**ページ**）

2 **ヘッドホン端子**

3 AC**入力**100V（☞20**ページ**）

4 **コンポーネント**2**入力端子**（D1**映像**/**音声**）

5 **ビデオ**4**入力端子**（S1**映像**/**映像**/**音声**）（**ビデオ**ID-1**システム**）

6 **無線チャンネル切換スイッチ**（☞70、73**ページ**）

7 **コンポーネント**1**入力端子**（D1**映像**/**音声**）（☞39〜41、47**ページ**）

8 **ビデオ**1、2**入力端子**（S1**映像**/**映像**/**音声**）（**ビデオ**ID-1**システム**）（☞36〜38、40〜44、47**ページ**）

9 **ビデオ**1**出力端子**（☞38**ページ**）

10 AV**マウス スルー端子**（☞36、37、47**ページ**）

11 DC**入力**16.5V**端子**（☞20**ページ**）

12 **外部アンテナ端子**（☞18**ページ**）

13 **検波出力端子**（☞43、44**ページ**）

14 **ビットストリーム出力端子**（☞43、44**ページ**）

15 BS**出力**/**ビデオ出力端子**（**映像**/**音声**）（☞36、39、43**ページ**）

16 **ビデオ**3/**デコーダー入力端子**（**映像**/**音声**）（**ビデオ**ID-1**システム**）（☞43、44**ページ**）

17 BS IF**入力端子**（☞36、37、39〜41、43、44**ページ**）

18 VHF/UHF**アンテナ端子**（☞36、37、39〜44**ページ**）

商品の修理、お取扱い方法、お買物相談などの問い合わせ

ホームページ　● http://www.sony.co.jp/SonyDrive/

「ソニードライブ」は、ソニーの商品情報とライフスタイルをご提案するホームページです。
「良くあるご質問」「修理情報」「ショッピング情報」は、ホームページをご活用ください。

お客様ご相談センター

● ナビダイヤル*…………………… 0570-00-3311
（全国どこからでも市内通話料でご利用いただけます）

● 携帯電話・PHSでのご利用は*……… 03-5448-3311
（ナビダイヤルがご利用できない場合はこちらをご利用ください）

● FAX…………………………………0466-31-2595

受付時間：月～金曜日 9:00～20:00　土・日・祝日 9:00～17:00

*お電話は自動音声応答にてお受けし，内容に応じて専門の相談員が対応します。
はじめにご用件を下記より、次に音声案内にそって商品カテゴリーの番号を押してください。
選択番号は変更になることがありますので、ご容赦願います。
1：修理受付
2：使用方法や故障と思われるご相談
3：お買物相談
4：業務用・プロ用商品に関するご相談全般
5：その他のご相談

ソニー株式会社　〒141-0001　東京都品川区北品川 6-7-35

2186577020

この説明書は100％古紙再生紙とVOC
（揮発性有機化合物）ゼロ植物油型インキ
を使用しています。

Printed in Japan